

McAfee[®] **Total Protection 2008**

ユーザガイド

目次

McAfee Total Protection (マカフィー・トータルプロテクション)	3
McAfee SecurityCenter.....	5
McAfee SecurityCenterの機能.....	6
McAfee SecurityCenterを使用.....	7
McAfee SecurityCenterの更新.....	13
保護の問題を修復または無視.....	17
アラートを使用.....	23
イベントを表示.....	29
McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン).....	31
McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン)の機能.....	32
リアルタイムでのウイルス対策の開始.....	33
追加の保護の開始.....	35
ういるすたいさくのせっていウイルス対策の設定.....	39
コンピュータをスキャン.....	57
スキャン結果を使用.....	61
McAfee Personal Firewall.....	65
McAfee Personal Firewall機能.....	66
ファイアウォールを起動.....	69
アラートを使用.....	71
情報アラートを管理.....	75
ファイアウォールによる保護の設定.....	77
プログラムと権限を管理.....	89
システムサービスを管理.....	97
コンピューたせつぞくをかんりコンピュータ接続を管理.....	103
ログ記録、監視、分析.....	111
インターネットセキュリティについての確認.....	121
McAfee Anti-Spam.....	123
McAfee Anti-Spamの機能.....	124
Webメールアカウントの設定.....	125
友人を設定.....	131
スパム検出の設定.....	137
Eメールのフィルタリング.....	145
フィルタリングされたEメールの使用.....	149
フィッシング詐欺対策の設定.....	151
McAfee Privacy Service.....	155
McAfee Privacy Serviceの機能.....	156
保護者機能をセットアップ.....	157
Webでの情報を保護.....	171
パスワードを保護.....	173
McAfee Data Backup.....	177
機能.....	178

ファイルをアーカイブ	179
あーかいぶずみふあいるをしようアーカイブ済みファイルを使用	187
McAfee QuickClean	193
McAfee QuickCleanの機能	194
コンピュータをクリーニング	194
コンピューターのさいてきかコンピュータの最適化	198
タスクのスケジュール	199
McAfee Shredder	205
McAfee Shredderの機能	206
ファイル、フォルダ、ディスクの抹消	206
McAfee Network Manager	209
McAfee Network Managerの機能	210
McAfee Network Manager のアイコンについて	211
管理されたネットワークをセットアップ	213
ネットワークをリモートで管理	219
McAfee EasyNetwork	225
McAfee EasyNetworkの機能	226
McAfee EasyNetwork の設定	227
ファイルを共有および送信	233
プリンタを共有	239
リファレンス	242
用語集	243
<hr/>	
マカフィーについて	257
<hr/>	
著作権	257
ライセンス条項	258
カスタマおよびテクニカルサポート	259
McAfee Virtual Technicianの使用	260
サポートおよびダウンロード	261
索引	269

第 1 章

McAfee Total Protection (マカフィー・トータルプロテクション)

McAfee® Total Protection (マカフィー・トータルプロテクション) は、包括的でプロアクティブな 12 個のセキュリティ機能がバンドルされた製品です。また、McAfee SiteAdvisor Plus (マカフィー・サイトアドバイザプラス) により、危険な Web サイトへのアクセスを防止できます。McAfee のセキュリティサービスは常時自動的にアップデートされ、最新の防護機能でハッカーの攻撃を防ぎます。また、バックアップ機能と復元機能も搭載されています。

McAfee Total Protection (マカフィー・トータルプロテクション) は、複数ユーザの「保護者機能」や個人情報漏えいの保護、迷惑メールやオンライン詐欺の保護といった機能を備えています。McAfee のセキュリティサービスは常に最新に拡張された機能を持ち、またウイルスやスパイウェアをブロックするためにアップデートされた脅威情報を常時保持しています。また、ハッキング防止のためのファイアウォールも備えています。

このセクションの内容

McAfee SecurityCenter	5
McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン)	31
McAfee Personal Firewall	65
McAfee Anti-Spam	123
McAfee Privacy Service	155
McAfee Data Backup	177
McAfee QuickClean	193
McAfee Shredder	205
McAfee Network Manager	209
McAfee EasyNetwork	225
リファレンス	242
マカフィーについて	257
カスタマおよびテクニカルサポート	259

第 2 章

McAfee SecurityCenter

McAfee SecurityCenter を使用することで、コンピュータのセキュリティの状態を監視し、ウイルス対策、スパイウェア対策、Eメール保護、およびファイアウォールが最新の状態かどうかを簡単に確認でき、セキュリティ上の脆弱性に対処できます。またナビゲーションツールと管理画面で、コンピュータの保護機能全体を管理できます。

コンピュータの保護の設定管理を開始する前に McAfee SecurityCenter の画面を確認し、保護の状態、保護のカテゴリ、保護サービスの違いがわかるようにしてください。その上で McAfee SecurityCenter を最新の状態に更新してください。

初期設定が完了したら、McAfee SecurityCenter を使用して、コンピュータの保護の状態を監視します。保護に関する問題が検出されると、McAfee SecurityCenter からアラートが通知され、重大度に応じて問題を修復、または無視するかを判断できます。また、スキャンの設定変更など McAfee SecurityCenter 内での変更を、イベントログで確認できます。

注: McAfee SecurityCenter は、問題を検出するとただちに重要な問題かどうかをレポートします。保護の問題を診断する上で詳細情報が必要な場合は、**McAfee Virtual Technician** を実行します。

このセクションの内容

McAfee SecurityCenterの機能	6
McAfee SecurityCenterを使用	7
McAfee SecurityCenterの更新	13
保護の問題を修復または無視	17
アラートを使用	23
イベントを表示	29

McAfee SecurityCenter の機能

McAfee SecurityCenter には、次の機能が搭載されています。

見やすくなった保護の状態

コンピュータの保護の状態の把握、更新の確認、保護の問題の修復を簡単に実行できるようになりました。

自動的な更新およびアップグレード

登録済みのプログラムの更新を自動的にダウンロードおよびインストールします。登録済みのマカフィープログラムの新しいバージョンが提供された場合、契約期間内は無料で自動的に入手できます。これにより、常に最新の保護を利用できます。

リアルタイムのセキュリティ アラート機能

緊急のウイルス発生やその他のセキュリティの脅威を通知します。また、脅威を削除または無効にし、また詳細を確認する対策オプションがあります。

第 3 章

McAfee SecurityCenter を使用

McAfee SecurityCenterの使用を開始する前に、コンピュータの保護の状態を管理するためのコンポーネントと設定領域を確認してください。この画像で使用されている用語の詳細については、8 ページの「保護の状態について」および 9 ページの「保護カテゴリについて」を参照してください。マカフィーアカウントの情報から、契約の有効期限を確認できます。



このセクションの内容

保護の状態について	8
保護カテゴリについて	9
保護サービスについて	10
アカウント情報の管理	11

保護の状態について

コンピュータの保護の状態は、McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネル上の、保護の状態の領域に表示されます。ここには、最新のセキュリティ脅威からコンピュータが確実に保護されているかどうか、または外部からの攻撃や他のセキュリティプログラム、インターネットにアクセスするプログラムなどからの影響を受けているかどうかが表示されません。

コンピュータの保護の状態は、赤色、黄色、緑色で表示されます。

保護の状態	説明
赤色	<p>このコンピュータは保護されていません。McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルの保護の状態の領域には、コンピュータが保護されていない状態が赤色で表示されます。McAfee SecurityCenter から、少なくとも1つの重要なセキュリティ問題がレポートされます。</p> <p>万全な保護を維持するには、各保護カテゴリで、重要なセキュリティの問題をすべて修復する必要があります(問題のカテゴリの状態は赤色で[対応してください！]に設定されています)。保護の問題の修復方法については、18 ページの「保護の問題を修復」を参照してください。</p>
黄色	<p>このコンピュータの一部は保護されていません。McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルの保護の状態の領域には、コンピュータが保護されていない状態が黄色で表示されます。McAfee SecurityCenter により、少なくとも1つの重要ではないセキュリティ問題がレポートされます。</p> <p>万全な保護を維持するためには、各保護カテゴリに関連付けられている重要ではないセキュリティの問題を修復するか、または無視してください。保護の問題を修復または無視する方法については、17 ページの「保護の問題を修復または無視」を参照してください。</p>
緑色	<p>このコンピュータは万全に保護されています。McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルの保護の状態の領域には、コンピュータが保護されている状態が緑色で表示されます。McAfee SecurityCenter からは、いかなるセキュリティ上の問題もレポートされていません。</p> <p>各保護カテゴリに、コンピュータの保護サービスが表示されます。</p>

保護カテゴリについて

SecurityCenter の保護サービスはコンピュータとファイル、インターネットとネットワーク、E メールとメッセンジャー、および保護者機能の 4 つのカテゴリに分けられます。この 4 つのカテゴリにより、コンピュータを保護するセキュリティサービスを参照、設定できます。

カテゴリ名をクリックして保護サービスを設定し、サービスに対して検出されるセキュリティ上の問題を表示できます。コンピュータの保護の状態が赤色か黄色の場合は、[必要なアクション]または[注意]メッセージに 1 つ以上のカテゴリが表示され、そのカテゴリ内で問題が検出されていることが通知されます。保護の状態の詳細については、8 ページの「保護の状態について」を参照してください。

保護カテゴリ	説明
コンピュータとファイル	コンピュータとファイルのカテゴリには、次の保護サービスが設定されています。 <ul style="list-style-type: none">• ウイルス対策• 怪しいプログラム (PUP) 対策• システム監視機能• Windows 保護
インターネットとネットワーク	インターネットとネットワークのカテゴリには、次の保護サービスが設定されています。 <ul style="list-style-type: none">• ファイアウォール保護• 個人情報の保護
E メールとメッセンジャー	E メールとインスタントメッセージのカテゴリには、次の保護サービスが設定されています。 <ul style="list-style-type: none">• E メール保護• スпам対策
保護者機能	保護者機能のカテゴリには、次の保護サービスが設定されています。 <ul style="list-style-type: none">• コンテンツブロック

保護サービスについて

保護サービスはコンピュータを保護する上で必要となる、McAfee SecurityCenter の主要なコンポーネントです。保護サービスは、マカフィープログラムに直接対応しています。たとえば、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)をインストールすると、ウイルス対策、怪しいプログラム(PUP)対策、システム監視機能、Windows 保護といった保護サービスが利用できます。これらの保護サービスの詳細については、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)ヘルプを参照してください。

プログラムインストール時には、プログラムに関連付けられたすべての保護サービスはデフォルトで有効になっています。ただし、保護サービスはいつでも無効にできます。たとえば、McAfee Privacy Service のインストール時には、コンテンツブロックと個人情報の保護は両方とも有効になっています。コンテンツブロックを使用しない場合は、完全に無効化できます。タスクの設定またはメンテナンスの実行中に、一時的に保護サービスを無効にすることも可能です。

アカウント情報の管理

マカフィーアカウントを管理するには McAfee SecurityCenter からアカウント情報にアクセスして契約状況を確認してください。

注:CD からマカフィープログラムをインストールした場合は、マカフィーの Web サイトでプログラムを登録し、マカフィーアカウントを設定または更新する必要があります。これは、定期的なプログラムの自動更新を入手できる場合に限りです。


アカウント情報の管理

McAfee SecurityCenter からマカフィーのアカウント情報(マイアカウント)に簡単にアクセスできます。

- 1 [よく使う機能]で[マイアカウント]をクリックします。
- 2 マカフィーアカウントにログインします。

契約の確認

契約の期限が切れていないか確認してください。

- タスクバーの右端の通知領域に表示される McAfee SecurityCenter のアイコンを右クリックし、[契約の確認]をクリックします。

第 4 章

McAfee SecurityCenter の更新

McAfee SecurityCenter は、登録済みのマカフィープログラムを 4 時間ごとに確認し、オンラインで更新をインストールして、最新の状態を維持します。インストールおよび登録したプログラムによっては、最新のウイルス定義、ハッカー対策、スパム対策、スパイウェア対策またはプライバシー保護のアップグレードがオンラインアップデートに含まれる場合があります。デフォルトでは 4 時間ごとに更新が確認されますが、更新の確認はいつでも可能です。McAfee SecurityCenter によって更新の有無の確認が行われている間も、他のタスクを継続して実行できます。

McAfee SecurityCenter の確認および更新インストール方法を変更することもできますが、これはお勧めしません。たとえば、更新をダウンロードしてもインストールは保留するように設定したり、更新をダウンロードまたはインストールする前に通知するように McAfee SecurityCenter を設定できます。また、自動更新を無効にすることも可能です。

注:CD からマカフィープログラムをインストールした場合は、マカフィーの Web サイトでプログラムを登録しない限り、プログラムの定期的な自動更新を受信できません。


このセクションの内容

更新の確認.....	13
自動更新の設定	14
自動更新を無効化	14

更新の確認

デフォルトでは、コンピュータがインターネットに接続すると、McAfee SecurityCenter によって 4 時間ごとに自動的に更新が確認されます。ただし、4 時間より短い間隔で更新の確認を行うこともできます。自動更新を無効にする場合は、必ず手動で定期的に更新を確認してください。

- McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[更新]をクリックします。

ヒント:タスクバー右側の通知領域にある[McAfee SecurityCenter]アイコンを右クリックして、[更新]をクリックすると、McAfee SecurityCenter を起動せずに更新の確認をできます。

自動更新の設定

デフォルトでは、コンピュータがインターネットに接続すると、McAfee SecurityCenter によって 4 時間ごとに自動的に更新が確認されます。このデフォルト設定を変更する場合は、自動的に更新をダウンロードしてインストール可能な状態になったら通知するか、更新をダウンロードする前に通知するよう設定できます。

注:更新がダウンロードまたはインストール可能な状態になると、アラートで通知されます。アラートから、更新をダウンロードまたはインストールするか、更新を延期するか決定できます。表示されるアラートからプログラムを更新する場合は、ダウンロードおよびインストール前に契約を確認するプロンプトが表示される場合があります。詳細については、23 ページの「アラートを使用」を参照してください。

3 McAfee SecurityCenter の設定パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で [ホーム]をクリックします。
 2. 右パネルの[SecurityCenter の情報]で、[設定]をクリックします。
- 4 [SecurityCenter の設定]パネルの[自動更新が無効です]で[オン]をクリックし、[詳細設定]をクリックします。
- 5 以下のボタンのうち、いずれかをクリックします。
- サービスが更新されたら自動的に更新をインストールして通知 (推奨)
 - 更新を自動的にダウンロードし、インストール可能な状態になったら通知
 - 更新をダウンロードする前に通知
- 6 [OK]をクリックします。

自動更新を無効化

自動更新を無効にする場合は、最新のセキュリティ保護を維持するために、必ず定期的に更新を確認してください。手動での更新の確認については、13 ページの「**更新の確認**」を参照してください。

1 McAfee SecurityCenter の設定パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
2. 右パネルの[SecurityCenter の情報]で、[設定]をクリックします。

2 [SecurityCenter の設定]パネルの[自動更新が有効です]で、[オフ]をクリックします。

ヒント:[オン]ボタンをクリックするか、[更新オプション]パネルで[自動更新を無効にして更新の有無を手動で確認]をクリックすると、自動更新を有効化することができます。

第 5 章

保護の問題を修復または無視

McAfee SecurityCenter は、問題を検出するとただちに重要な問題かどうかをレポートします。重要な保護の問題は早急な対応が求められ、保護の状態が赤に変わります。保護の問題が重要でない場合は、早急な対応は必要ではありませんが、保護のステータスが問題の種類に応じて変わる場合があります。保護の状態を緑にするためには、すべての重要な問題を修復し、重要でない問題を修復するか無視するかを決定する必要があります。保護の問題を診断する上で詳細情報が必要な場合は、McAfee Virtual Technician を実行します。McAfee Virtual Technician の詳細については、McAfee Virtual Technician ヘルプを参照してください。

このセクションの内容

保護の問題を修復	18
保護の問題を無視	20

保護の問題を修復

ほとんどのセキュリティの問題は自動的に修復されますが、手動による対応が必要な場合もあります。たとえば、ファイアウォールによる保護が無効になっている場合、McAfee SecurityCenterにより自動的に有効化されますが、ファイアウォールによる保護がインストールされていない場合は、インストールする必要があります。以下の表に、保護の問題を手動で修復する際に必要な対応を示します。

問題	対応
コンピュータのフルスキャンが過去30日以上実行されていません。	コンピュータを手動でスキャンします。詳細については、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)ヘルプを参照してください。
シグネチャファイル(DAT)ファイルが最新ではありません。	保護を手動で更新してください。詳細については、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)ヘルプを参照してください。
プログラムがインストールされていません。	マカフィーの Web サイトまたは CD からプログラムをインストールしてください。
プログラムのコンポーネントが不足しています。	マカフィーの Web サイトまたは CD からプログラムを再インストールしてください。
プログラムが登録されていないため、万全な保護を実行できません。	マカフィーの Web サイトでプログラムを登録してください。
プログラムの期限が切れています。	マカフィーの Web サイトでアカウント状況を確認してください。

注:単一の保護の問題が複数の保護カテゴリに影響している場合もあります。この場合、1つのカテゴリ内の問題を修復すると、他の保護カテゴリの問題も修復されます。

保護の問題を自動的に修復

McAfee SecurityCenterでは、ほとんどの保護の問題を自動的に修復できます。保護の問題が自動的に修復される際にMcAfee SecurityCenterで変更された設定は、イベントログには記録されません。イベントの詳細については、29 ページの「**イベントを表示**」を参照してください。

- 1 [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
- 2 McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルの保護の状態領域で、[修復]をクリックします。

保護の問題を手動で修復

自動修復を実行しても 1 つ以上の保護の問題が解決されない場合、手動で問題を解決できます。

- 1 [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
- 2 McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで、レポートされた問題を含む保護カテゴリをクリックします。
- 3 問題の詳細に続いて表示されているリンクをクリックします。

保護の問題を無視

McAfee SecurityCenter で重要でない問題が検出された場合は、その問題を修復または無視できます。その他の重要でない問題は自動的に無視されます(McAfee Anti-Spam や McAfee Privacy Service がインストールされていない場合など)。コンピュータの保護の状態が緑色である場合を除き、McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルの保護カテゴリ情報領域には、無視された問題は表示されません。コンピュータの保護の状態が緑でなくても、一度問題を無視した後であれば、保護カテゴリ情報領域内に無視した問題を表示させることはできます。

保護の問題を無視

McAfee SecurityCenter によって検出された重要でない問題を修復しない場合は、その問題を無視することができます。問題を無視すると、McAfee SecurityCenter の保護カテゴリ情報領域からその問題が削除されます。

- 1 [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
- 2 McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで、レポートされた問題を含む保護カテゴリをクリックします。
- 3 保護の問題の横にある[無視]リンクをクリックします。

無視した問題の表示または非表示

重大度に応じて、無視した保護の問題を表示または非表示にできます。

- 1 [アラートのオプション]パネルを開きます。
機能の内容
 1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
 2. 右パネルの[SecurityCenter の情報]で、[設定]をクリックします。
 3. [アラート] で [詳細設定] をクリックします。
- 2 [SecurityCenter の設定]パネルで[無視された問題]をクリックします。

3 [無視された問題]パネルで、次の手順を実行します。

- 問題は無視するには、チェックボックスを選択します。
- 保護カテゴリ情報領域の問題をレポートするには、チェックボックスの選択を解除します。

4 [OK]をクリックします。

ヒント:また、保護カテゴリ情報領域内のレポートされた問題の横にある [無視]リンクをクリックすると、問題は無視できます。

第 6 章

アラートを使用

アラートは、何らかの McAfee SecurityCenter イベントが発生すると、画面の右下隅に小さなポップアップ ダイアログ ボックスで表示されます。アラートによって、イベントの詳細情報と、イベントに関連付けられた問題を解決するための推奨事項とオプションが提示されます。アラートに、イベントに関する詳細情報へのリンクが含まれる場合もあります。これらのリンクを使用して、マカフィーのグローバルサイトを起動したり、トラブルシューティングのために情報をマカフィーに送信できます。

アラートには赤、黄、緑の 3 種類があります。

アラートタイプ	説明
赤	レッドアラートは、ユーザの対応が必要となる、重要な通知です。McAfee SecurityCenter によって保護の問題を自動的に修復できない場合、レッドアラートが表示されます。
黄	イエローアラートは、通常ユーザの対応が必要となるものの、あまり重要ではない通知です。
緑	グリーンアラートは、ユーザの対応が必要ない、重要ではない通知です。グリーンアラートは、イベントに関する基本情報を提示します。

アラートには保護の状態を監視および管理する重要な役割があるため、無効にすることはできません。ただし、アラート発生時に音を鳴らしたり、起動時にマカフィーの起動画面を表示するなど、一部の情報アラートでその他のアラートオプションを表示したり設定するかどうかを制御できます。

このセクションの内容

情報アラートの表示と非表示	24
アラートのオプションの設定	26

情報アラートの表示と非表示

情報アラートは、パソコンのセキュリティを脅かすことのないイベントが発生したことを通知します。たとえば、ファイアウォールを設定している場合、デフォルトでは、コンピュータのプログラムにインターネットへのアクセス権が付与されると情報アラートが表示されます。特定の種類の情報アラートは非表示にできます。すべての情報アラートを非表示にすることもできます。また、全画面表示モードでゲームをプレイするときも、情報アラートをすべて非表示にできます。ゲームが終了し、全画面表示モードが終了すると、情報アラートは再表示されます。

誤って情報アラートを非表示にしてしまった場合にも、いつでも再表示させることができます。デフォルトでは、すべての情報アラートが表示されます。

情報アラートの表示または非表示

McAfee SecurityCenter を使用して、一部の情報アラートのみを非表示するか、すべての情報アラートを非表示にするかを設定できます。

1 [アラートのオプション]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
2. 右パネルの[SecurityCenter の情報]で、[設定]をクリックします。
3. [アラート]で[詳細設定]をクリックします。

2 [SecurityCenter の設定]パネルで[情報アラート]をクリックします。

3 [情報アラート]パネルで、次の手順を実行します。

- 情報アラートを表示させるには、チェックボックスの選択を解除します。
- 情報アラートを非表示にするには、チェックボックスを選択します。
- すべての情報アラートを非表示にするには、[情報アラートを表示しない]チェックボックスを選択します。

4 [OK]をクリックします。

ヒント:アラートの[今後このアラートを表示しない]チェックボックスを選択すると、情報アラートを非表示にできます。その場合、[情報アラート]パネルで該当するチェックボックスの選択を解除すると、その情報アラートを再表示できます。

ゲーム時の情報アラートの表示または非表示

全画面表示モードでゲームを行う際に、情報アラートをすべて非表示にできます。ゲームが終了し、全画面表示モードが終了すると、情報アラートの表示が再開されます。

1 [アラートのオプション] パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能] で [ホーム] をクリックします。
2. 右パネルの [SecurityCenter の情報] で、[設定] をクリックします。
3. [アラート] で [詳細設定] をクリックします。

2 [アラートのオプション] パネルで、[ゲームモードが検出されたときに情報アラートを表示] チェックボックスを選択するか、選択を解除します。

3 [OK] をクリックします。

アラートのオプションの設定

アラートの表示頻度は McAfee SecurityCenter で設定されていますが、一部の基本的なアラートオプションは調節できます。たとえば、アラートの発生時に音を鳴らしたり、Windows 起動時の起動画面のアラートを非表示にできます。また、オンラインコミュニティ内でのウイルスの発生やその他セキュリティ脅威に関して通知するアラートを非表示にできます。

アラート発生時に音を鳴らす

アラート発生時に音による通知を受け取る場合は、アラートごとに音が鳴るよう設定できます。

- 1 [アラートのオプション]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
 2. 右パネルの[SecurityCenter の情報]で、[設定]をクリックします。
 3. [アラート]で[詳細設定]をクリックします。
- 2 [アラートのオプション]パネルの[サウンド]で、[アラートが発生したときに音を鳴らす]チェックボックスを選択します。

起動時の起動画面を非表示にする

デフォルトでは、Windows の起動時にはマカフィーの起動画面が表示され、McAfee SecurityCenter により保護が実行されていることが通知されます。この起動画面を非表示にすることもできます。

- 1 [アラートのオプション]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
 2. 右パネルの[SecurityCenter の情報]で、[設定]をクリックします。
 3. [アラート]で[詳細設定]をクリックします。
- 2 [アラートのオプション]パネルの[起動画面]で、[Windows の起動時にマカフィーの起動画面を表示]チェックボックスを選択します。

ヒント:[Windows の起動時にマカフィーの起動画面を表示]チェックボックスを選択すれば、いつでも起動画面を再表示できます。

ウイルス発生によるアラートの非表示

オンラインコミュニティ内でのウイルスの発生やその他セキュリティ脅威に関して通知するアラートを非表示にできます。

1 [アラートのオプション]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
2. 右パネルの[SecurityCenter の情報]で、[設定]をクリックします。
3. [アラート]で[詳細設定]をクリックします。

2 [アラートのオプション]パネルで、[ウイルスまたはセキュリティの脅威が発生した場合にアラートを表示]チェックボックスの選択を解除します。

ヒント:[ウイルスまたはセキュリティの脅威が発生した場合にアラートを表示]チェックボックスを選択すれば、いつでもウイルス発生によるアラートを再表示できます。

第 7 章

イベントを表示

イベントとは、保護カテゴリや関連する保護サービス内で行われた対応や設定変更のことです。さまざまな保護サービスにより、さまざまなイベントの種類が記録されます。たとえば、McAfee SecurityCenterでは、保護サービスが有効化または無効化されるとイベントを記録し、ウイルス対策では、ウイルスが検出および削除されるたびにイベントを記録し、ファイアウォールによる保護では、インターネット接続がブロックされるたびにイベントを記録します。保護カテゴリの詳細については、9 ページの「[保護カテゴリについて](#)」を参照してください。

トラブルシューティング発生時や他のユーザによって実行された操作を確認する場合に、イベントを表示できます。保護者はイベントログを使用して、子供のインターネット利用を監視できます。最近のイベントを表示して、直近の 30 個のイベントのみ確認できます。すべてのイベントを表示して、発生したすべてのイベントの包括的なリストを確認できます。すべてのイベントを表示する場合、McAfee SecurityCenter によってイベントログが起動され、発生した保護カテゴリに従ってイベントがソートされます。

このセクションの内容

最近のイベントを表示	29
すべてのイベントを表示	29

最近のイベントを表示

最近のイベントを表示して、直近の 30 個のイベントのみ確認できます。

- [\[よく使う機能\]](#)で[\[最近のイベントを表示\]](#)をクリックします。

すべてのイベントを表示

すべてのイベントを表示して、発生したすべてのイベントの包括的なリストを確認できます。

- 1 [\[よく使う機能\]](#)で[\[最近のイベントを表示\]](#)をクリックします。
- 2 [\[最近のイベント\]](#)パネルで[\[ログを表示\]](#)をクリックします。
- 3 イベントログの左ペイン(ウィンドウ枠)で、表示するイベントの種類をクリックします。

第 8 章

McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン)

McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン) は、ウイルス、トロイの木馬、トラッキング Cookie、スパイウェア、アドウェアおよび怪しいプログラムなどの最新のセキュリティ脅威から保護するための高度な検出および保護サービスを提供します。E メール、インスタントメッセージ、Web などさまざまなポイントからの脅威の対象となるデスクトップ上のファイルおよびフォルダにも、保護機能が拡張されています。

McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン) を使用すれば、いつでも、あるいは定期的にコンピュータを保護できます。面倒な管理も必要ありません。作業や、ゲーム、Web 閲覧、Eメールのチェック中にも、バックグラウンドで常に脅威を監視、スキャン、検出しています。包括的なスキャンをスケジュールに従って実行し、高度なオプションセットを使用してコンピュータを定期的にチェックします。必要に応じて McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン) を柔軟にカスタマイズできますが、カスタマイズしなくてもコンピュータは保護できます。

コンピュータを通常どおり使用すると、ウイルスやワーム、およびその他の脅威が侵入する可能性があります。脅威が侵入した場合は McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン) から脅威が通知され、通常は被害が発生する前に感染したアイテムを消去または隔離します。ただしまれに別の対応が必要となる場合もあります。その場合、McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン) を使用すれば、コンピュータの次回起動時に再スキャンしたり、検出したアイテムを保存したり削除するなど、アクションを決定できます。

注: McAfee SecurityCenter は、問題を検出するとただちに重要な問題かどうかをレポートします。保護の問題を診断する上で詳細情報が必要な場合は、McAfee Virtual Technician を実行します。

このセクションの内容

McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン) の機能	32
リアルタイムでのウイルス対策の開始	33
追加の保護の開始	35
ウイルス対策の設定	39
コンピュータをスキャン	57
スキャン結果を使用	61

McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)の機能

McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)には、次の機能が搭載されています。

総合的なウイルス対策

McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)は、ウイルス、トロイの木馬、トラッキング Cookie、スパイウェア、アドウェアおよび怪しいプログラムなどの最新のセキュリティ脅威から保護するための高度な検出および保護サービスを提供します。保護機能はデスクトップやラップトップ上のファイルおよびフォルダにも拡張され、Eメール、インスタントメッセージ、Web などさまざまな経路から侵入する脅威をターゲットとしています。面倒な管理は必要ありません。

リソースに配慮したスキャンオプション

スキャン速度が遅い場合は、オプションを無効にして、コンピューターリソースの使用を最小限に抑えることができます。ただしウイルス対策は他のタスクよりも優先度が高いことにご注意ください。必要に応じて McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)のリアルタイムの手動スキャンオプションを柔軟にカスタマイズできます。カスタマイズしなくても、コンピュータは保護できます。

自動修復

リアルタイムスキャンまたは手動スキャンの実行中にセキュリティ脅威が検出されると、脅威の種類に応じて自動的に脅威が処理されます。このようにしてほとんどの脅威が検出され、ユーザの操作を必要とせず無効化されます。ただしまれに脅威を無効化できない場合もあります。その場合、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)を使用すれば、コンピュータの次回起動時に再スキャンしたり、検出したアイテムを保存したり削除するなど、アクションを決定できます。

全画面表示モードでのタスクの一時停止

映画鑑賞やゲームなど、全画面表示でコンピュータを使用する場合、自動更新や手動スキャンなどの多数のタスクを一時停止できます。

リアルタイムでのウイルス対策の開始

McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)には、リアルタイムと手動の 2 種類のウイルス対策が用意されています。リアルタイムでのウイルス対策では、ウイルスのアクティビティを定期的に監視し、ユーザまたはコンピュータがアクセスするたびにファイルをスキャンします。手動のウイルス対策では、必要に応じてファイルをスキャンできます。最新のセキュリティ脅威に対して常に保護された状態を維持するためには、リアルタイムのウイルス対策を有効にし、定期的に包括的な手動スキャンもスケジュール設定します。デフォルトでは、週 1 回のスキャンがスケジュール設定されています。リアルタイムおよび手動によるスキャンの詳細については、57 ページの「コンピュータをスキャン」を参照してください。

ただし、たとえば、スキャンオプションを変更したり、パフォーマンスの問題を解決する場合など、リアルタイムスキャンを一時的に停止する場合があります。リアルタイムなウイルス対策を無効にすると、コンピュータは保護されず、McAfee SecurityCenter の保護の状態は赤になります。保護の状態の詳細については、McAfee SecurityCenter ヘルプの「保護の状態について」を参照してください。

リアルタイムでのウイルス対策の開始

デフォルトでは、リアルタイムでのウイルス対策は有効で、ウイルスやトロイの木馬、その他のセキュリティ脅威からコンピュータを保護します。リアルタイムでのウイルス対策を無効にする場合、コンピュータを保護するためには、再度有効化する必要があります。

1 コンピュータとファイルの設定パネルを表示

機能の内容

1. 左ペインで[詳細メニュー]をクリックします。
2. [設定]をクリックします。
3. [設定]パネルで[コンピュータとファイル]をクリックします。

2 [ウイルス対策]で[オン]をクリックします。

リアルタイムなウイルス対策の停止

リアルタイムでのウイルス対策を一時的に停止し、再開時間を指定できます。15分、30分、45分、60分後のいずれかを指定して、保護を再開でき、また、再開しないよう指定もできます。

1 コンピュータとファイルの設定パネルを表示

機能の内容

1. 左ペインで[詳細メニュー]をクリックします。
2. [設定]をクリックします。
3. [設定]パネルで[コンピュータとファイル]をクリックします。

2 [ウイルス対策]で[オフ]をクリックします。

3 ダイアログボックスで、リアルタイムスキャンを再開する時間を選択します。

4 [OK]をクリックします。

第 9 章

追加の保護の開始

リアルタイムでのウイルス対策に加えて、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)には、スクリプト、スパイウェア、危険性のある E メールやインスタントメッセージの添付ファイルに対する追加保護機能が用意されています。デフォルトでは、スクリプトスキャン、スパイウェア対策、E メール保護、インスタントメッセージの保護が有効になっています。

スクリプトスキャンによる保護

スクリプトスキャンによる保護は、危険性のあるスクリプトを検出し、コンピュータでの実行を回避します。ファイルを作成、コピーまたは削除したり、Windows のレジストリを開くようなスクリプトなど、不審なスクリプトアクティビティを監視し、被害が発生する前に、アラートが表示されます。

スパイウェア対策

スパイウェア対策により、スパイウェア、アドウェアおよびその他の怪しいプログラムが検出されます。スパイウェアとは、コンピュータに知らないうちにインストールされ、ユーザの動作を監視し、個人情報を収集し、追加のソフトウェアをインストールしたり、ブラウザのアクティビティをリダイレクトするなど、コンピュータの制御を妨害するソフトウェアです。

E メール保護

E メール保護により、送受信する E メールおよび添付ファイル内の不審なアクティビティが検出されます。

インスタントメッセージ保護

インスタントメッセージ保護により、受信するインスタントメッセージの添付ファイルからセキュリティ脅威が検出されます。また、インスタントメッセージでの個人情報の共有を回避できます。

このセクションの内容

スクリプトスキャンによる保護の開始	36
スパイウェア対策の開始	36
Eメール保護を開始	36
メッセージ保護を開始	37

スクリプトスキャンによる保護の開始

スクリプトスキャンによる保護により、危険性のあるスクリプトが検出され、コンピュータでの実行を回避できます。スクリプトスキャンによる保護により、スクリプトによりファイルが作成、コピーまたは削除されたり、Windows のレジストリが変更されると、アラートが表示されます。

1 コンピュータとファイルの設定パネルを表示

機能の内容

1. 左ペインで[詳細メニュー]をクリックします。
2. [設定]をクリックします。
3. [設定]パネルで[コンピュータとファイル]をクリックします。

2 [スクリプトスキャンによる保護]で[オン]をクリックします。

注: スクリプトスキャンによる保護はいつでも無効化できますが、無効にすると危険性のあるスクリプトに対する脆弱性からの保護を実行できません。

スパイウェア対策の開始

スパイウェア対策を有効化して、ユーザの知らない間に情報を収集して伝送するスパイウェア、アドウェアおよびその他の怪しいプログラムを検出し削除できます。

1 コンピュータとファイルの設定パネルを表示

機能の内容

1. 左ペインで[詳細メニュー]をクリックします。
2. [設定]をクリックします。
3. [設定]パネルで[コンピュータとファイル]をクリックします。

2 [スクリプトスキャンによる保護]で[オン]をクリックします。

注: スパイウェア対策はいつでも無効化できますが、無効にすると怪しいプログラムに対する脆弱性を保護できません。

E メール保護を開始

E メール保護を有効化して、E メールや添付ファイルの送信 (SMTP) や受信 (POP3) に含まれる脅威やワームを検出します。

1 E メールとメッセージの設定パネルを表示

機能の内容

1. 左ペインで[詳細メニュー]をクリックします。
2. [設定]をクリックします。
3. [設定]パネルで[E メールとメッセージ]をクリックします。

2 [E メール保護]で[オン]をクリックします。

注: E メール保護はいつでも無効化できますが、無効にすると E メール脅威に対する脆弱性からの保護を実行できません。

メッセージ保護を開始

インスタントメッセージ保護を有効にして、受信するインスタントメッセージの添付ファイルに含まれるセキュリティ脅威を検出します。

1 E メールとメッセージの設定パネルを表示

機能の内容

1. 左ペインで[詳細メニュー]をクリックします。
2. [設定]をクリックします。
3. [設定]パネルで[E メールとメッセージ]をクリックします。

2 [メッセージの保護]で[オン]をクリックします。

注: インスタントメッセージ保護はいつでも無効化できますが、無効にすると危険性のあるインスタントメッセージの添付ファイルに対する脆弱性からの保護を実行できません。

第 10 章

ウイルス対策の設定

McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン)には、リアルタイムと手動の 2 種類のウイルス対策が用意されています。リアルタイムのウイルス対策スキャンは、ユーザまたはコンピュータがファイルにアクセスするたびにスキャンを実行します。手動のウイルス対策では、必要に応じてファイルをスキャンできます。保護の種類に応じて、さまざまなオプションを設定できます。たとえば、リアルタイムでの保護により継続的にコンピュータが監視されているため、基本的なスキャンオプションのセットを選択すると、手動による保護やオンデマンド保護など、さらに包括的なスキャンオプションを利用できます。

このセクションの内容

リアルタイム スキャン オプションの設定	40
手動スキャンオプションの設定	42
McAfee SystemGuardsオプションを使用	46
信頼リストの使用	53

リアルタイム スキャン オプションの設定

リアルタイムでのウイルス対策を開始する場合、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)のデフォルトのオプションセットを使用してファイルをスキャンできますが、必要に応じてデフォルトのオプションを変更できます。

リアルタイム スキャン オプションを変更するには、スキャン時のチェック事項と、スキャンする場所、スキャンするファイルの種類を指定する必要があります。たとえば、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)のチェック対象として、未知のウイルスをチェックするか、または Web サイトがユーザの行動を追跡するための Cookie をチェックするかどうかを決定し、スキャンする場所として、コンピュータにマッピングされるネットワークドライブをスキャンするのか、または単にローカルドライブをスキャンするのかを決定できます。また、スキャンするファイルの種類を指定できます(すべてのファイル、または最もウイルス他検出されやすいプログラムファイル、文書など)。

リアルタイム スキャン オプションを変更する場合は、バッファオーバーフロー保護がコンピュータに適用されているかどうかを指定する必要があります。バッファとは、コンピュータの情報を一時的に保持するために使用されるメモリの一部です。バッファオーバーフローは、怪しいプログラムまたはプロセスが保存しようとする情報量がバッファの制限を越えた場合に発生します。バッファオーバーフローが発生すると、セキュリティ攻撃に対する脆弱性が高まります。

リアルタイム スキャン オプションの設定

リアルタイム スキャン オプションを設定して、リアルタイムスキャンの検出対象、スキャンする場所およびファイルの種類をカスタマイズできます。オプションには、未知のウイルスのスキャンと、トラッキング Cookie、バッファオーバーフロー保護が含まれています。また、リアルタイムスキャンを設定して、コンピュータにマッピングされるネットワークドライブをチェックできます。

1 [リアルタイムスキャン]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
 2. SecurityCenter の[ホーム]パネルで[コンピュータとファイル]をクリックします。
 3. [コンピュータとファイル]情報領域で、[設定]をクリックします。
 4. [コンピュータとファイルの設定]パネルで、ウイルス対策が有効化されているか確認し、[詳細設定]をクリックします。
- 2 リアルタイム スキャン オプションを指定して、[OK]をクリックします。

目的...	手順...
未知のウイルスおよび既知のウイルスの新しい亜種の検出	[ヒューリスティック方式を使用して未知のウイルスをスキャン]チェックボックスを選択します。
Cookie の検出	[トラッキング Cookie をスキャンして削除]チェックボックスを選択します。
ネットワークに接続しているドライブ上のウイルスおよびその他の脅威を検出	[ネットワークドライブをスキャン]チェックボックスを選択します。
バッファオーバーフローからコンピュータを保護	[バッファオーバーフロー保護を有効化]チェックボックスを選択します。
スキャンするファイルの種類を指定	[すべてのファイル(推奨)]または[プログラムファイルと文書のみ]をクリックします。

手動スキャンオプションの設定

手動のウイルス対策では、必要に応じてファイルをスキャンできます。手動スキャンを開始する場合は、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)は、より包括的なスキャンオプションのセットを使用して、ウイルスおよび危険性のある項目を確認します。手動スキャンオプションを変更するには、スキャン時の確認事項を決定している必要があります。たとえば、未知のウイルス、スパイウェアやアドウェアなどの怪しいプログラム、コンピュータへの不正アクセスを可能にするルートキットなどのステルスプログラム、およびユーザの閲覧履歴を追跡する Cookie を検出対象とするかどうかを指定できます。また、チェック対象ファイルの種類を指定する必要があります。たとえば、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)がすべてのファイルをチェックするのか、または最もウイルスが検出されるプログラムファイルや文書だけをチェックするのか指定できます。また、アーカイブファイル(たとえば.zip ファイル)をスキャン対象に含めるかどうかも指定できます。

デフォルトでは、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)は、手動スキャン実行時にはコンピュータ上のすべてのドライブおよびフォルダをチェックします。ただし、必要に応じてデフォルトの場所を変更できます。たとえば、重要なシステムファイルやデスクトップ上の項目、またはプログラムファイルフォルダ内の項目のみをスキャンすることもできます。手動スキャンを開始する場合は、定期的なスキャンスケジュールを設定できます。スケジュールスキャンは、デフォルトのスキャンオプションを使用して、コンピュータ全体を常にチェックします。デフォルトでは、週 1 回のスキャンがスケジュール設定されています。

スキャン速度が遅い場合は、このオプションを無効にしてコンピュータリソースの使用を最小限に抑えることができます。ただしウイルス対策は他のタスクよりも優先度が高いことにご注意ください。

注：映画鑑賞やゲームなど、全画面表示でコンピュータを使用する場合、自動更新や手動スキャンなどの多数のタスクを一時停止できます。

手動スキャンオプションの設定

手動スキャンオプションを設定して、手動スキャンの検出対象、スキャンする場所およびファイルの種類をカスタマイズできます。オプションには、未知のウイルス、アーカイブファイル、スパイウェア、怪しいプログラム、トラッキング Cookie、ルートキットおよびステルスプログラムのスキャンが含まれます。

1 [手動スキャン]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
2. SecurityCenter の[ホーム]パネルで[コンピュータとファイル]をクリックします。
3. [コンピュータとファイル]情報領域で、[設定]をクリックします。
4. [コンピュータとファイルの設定]パネルで、ウイルス対策が有効化されているか確認し、[詳細設定]をクリックします。
5. [ウイルス対策]パネルで[手動スキャン]をクリックします。

2 手動スキャンオプションを指定して、[OK]をクリックします。

目的...	手順...
未知のウイルスおよび既知のウイルスの新しい亜種の検出	[ヒューリスティック方式を使用して未知のウイルスをスキャン]チェックボックスを選択します。
Zip ファイルなどのアーカイブファイルに含まれるウイルスの検出と削除を実行	[.zip とその他のアーカイブファイルをスキャン]チェックボックスを選択します。
スパイウェア、アドウェアおよびその他の怪しいプログラムが検出されます。	[スパイウェアと怪しいプログラム (PUP) をスキャン]チェックボックスを選択します。
Cookie の検出	[トラッキング Cookie をスキャンして削除]チェックボックスを選択します。
ルートキットとステルスプログラムは、既存の Windows システムファイルを変更および攻撃するプログラムです。	[ルートキットとその他のステルスプログラムをスキャン]チェックボックスを選択します。
インターネットの閲覧や文書の作成など、他のタスクが優先されるため、スキャンに使用されるプロセスパワーが少なくなります。	[最小限のコンピューターリソースを使用するスキャン]チェックボックスを選択します。
スキャンするファイルの種類を指定	[すべてのファイル(推奨)]または[プログラムファイルと文書のみ]をクリックします。

手動スキャンの場所の設定

手動スキャン実行時に、ウイルスやその他の危険性のある項目を検索する場所を設定します。コンピュータ上のすべてのファイル、フォルダ、ドライブをスキャンすることも、特定のフォルダおよびドライブを限定的にスキャンすることもできます。

1 [手動スキャン]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
2. SecurityCenter の[ホーム]パネルで[コンピュータとファイル]をクリックします。
3. [コンピュータとファイル]情報領域で、[設定]をクリックします。
4. [コンピュータとファイルの設定]パネルで、ウイルス対策が有効化されているか確認し、[詳細設定]をクリックします。
5. [ウイルス対策]パネルで[手動スキャン]をクリックします。

2 [標準設定のスキャン場所]をクリックして、確認します。

3 手動スキャンの場所を指定して、[OK]をクリックします。

目的...	手順...
コンピュータ上のすべてのファイルおよびフォルダをスキャン	[(マイ) コンピュータ]チェックボックスを選択します。
特定のファイル、フォルダ、ドライブをスキャン	[(マイ) コンピュータ]チェックボックスの選択を解除し、1つ以上のフォルダまたはドライブを選択します。
重要なシステムファイルをスキャン	[(マイ) コンピュータ]チェックボックスの選択を解除し、[重要なシステムファイル]チェックボックスを選択します。

スキャンのスケジュール

スキャンをスケジュールして、週や日に数回など、コンピュータのウイルスや他の脅威を徹底的にチェックできます。スケジュールスキャンは、デフォルトのスキャンオプションを使用して、コンピュータ全体を常にチェックします。デフォルトでは、週 1 回のスキャンがスケジュール設定されています。スキャン速度が遅い場合は、このオプションを無効にしてコンピュータリソースの使用を最小限に抑えることができます。ただしウイルス対策は他のタスクよりも優先度が高いことにご注意ください。

1 [スケジュールスキャン] ペインを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能] で [ホーム] をクリックします。
2. SecurityCenter の [ホーム] パネルで [コンピュータとファイル] をクリックします。
3. [コンピュータとファイル] 情報領域で、[設定] をクリックします。
4. [コンピュータとファイルの設定] パネルで、ウイルス対策が有効化されているか確認し、[詳細設定] をクリックします。
5. [ウイルス対策] パネルで [スケジュールスキャン] をクリックします。

2 [スケジュールスキャンを有効化] を選択します。

3 スキャンに使用されるプロセッサパワーを軽減するには、[最小限のコンピュータリソースを使用するスキャン] を選択します。

4 1 日以上の日数を選択します。

5 開始時刻を指定します。

6 [OK] をクリックします。

ヒント: [リセット] をクリックしてデフォルトのスケジュールを復元できます。

McAfee SystemGuards オプションを使用

SystemGuards により、コンピュータ上の Windows のレジストリや重要なシステムファイルに対して実行された不正な変更を監視、ログ記録、レポートおよび管理できます。レジストリおよびファイルが不正に変更されると、コンピュータに被害が及んだり、セキュリティが侵害されたり、重要なシステムファイルが損傷を受ける可能性があります。

レジストリおよびファイルの変更は頻繁にコンピュータ上で発生します。ほとんどの変更は危険性がないため、SystemGuards のデフォルトの設定では、重大な脅威となりうる不正な変更に対して信頼できる高度な保護を提供するよう設定されています。たとえば、重大な脅威を引き起こす可能性のある変更が SystemGuards で検出されると、その不正な活動はただちにレポート、記録されます。一般的な変更ではあるものの、被害の可能性がゼロではない場合は、記録のみが実行されます。ただし、デフォルトでは、標準でリスクの低い変更の監視は無効になっています。SystemGuards の技術により、保護機能を拡張設定してあらゆる環境に適用できます。

SystemGuards は 3 種類あります。プログラム用 SystemGuards、Windows 用 SystemGuards およびブラウザ用 SystemGuards

プログラム用 SystemGuards

プログラム用 SystemGuards は、コンピュータのレジストリや Windows に不可欠なその他の重要ファイルに対する不正な変更を検出します。これらの重要なレジストリ項目およびファイルには、ActiveX のインストール、スタートアップ項目、Windows シェル実行フック、および ShellServiceObjectDelayLoad が含まれます。これらを監視することで、プログラム用の SystemGuards 技術は、Windows 起動時に自動的に起動されるスパイウェアや怪しいプログラムに加え、不審な ActiveX プログラムを停止します。

Windows 用 SystemGuards

Windows 用 SystemGuards も、コンピュータのレジストリや Windows に不可欠なその他の重要ファイルに対する不正な変更を検出します。これらの重要なレジストリ項目およびファイルには、コンテキストメニュー、ハンドラ、aplnit DLLs および Windows Hosts ファイルが含まれます。これらを監視することで、Windows 用の SystemGuards 技術は、不正な情報や個人情報の送受信を防止します。また、ユーザやユーザの家族にとって重要なプログラムの表示や動作を不正に変更する不審なプログラムの停止にも有効です。

ブラウザ用 SystemGuards

プログラム用、Windows 用 SystemGuards と同様、ブラウザ用 SystemGuards も、コンピュータのレジストリや Windows に不可欠なその他の重要ファイルに対する不正な変更を検出します。ただし、ブラウザ用 SystemGuards は、Internet Explorer アドオン、Internet Explorer URL および Internet Explorer セキュリティゾーンのような重要なレジストリ項目およびファイルに対する変更を監視します。これらを監視することで、ブラウザ用 SystemGuards は、不審な Web サイトへのリダイレクトをはじめとする不正なブラウザアクティビティ、知らないうちに行われるブラウザ設定やオプションの変更、不審な Web サイトの信頼などを防止します。

McAfee SystemGuards による保護を有効化

SystemGuards による保護を有効化すると、コンピュータ上で変更された不正な Windows のレジストリやファイルが検出され、アラートが表示されます。レジストリおよびファイルが不正に変更されると、コンピュータに被害が及んだり、セキュリティが侵害されたり、重要なシステムファイルが損傷を受ける可能性があります。

1 コンピュータとファイルの設定パネルを表示

機能の内容

1. 左ペインで[詳細メニュー]をクリックします。
2. [設定]をクリックします。
3. [設定]パネルで[コンピュータとファイル]をクリックします。

2 [SystemGuard による保護]で[オン]をクリックします。

注: [オフ]をクリックして SystemGuards による保護を無効化できます。

SystemGuards オプションの設定

[SystemGuards]パネルを使用して、Windows のファイル、プログラムおよび Internet Explorer に関連付けられた不正なレジストリやファイルの変更に対して、保護、ログ記録およびアラートオプションを設定します。レジストリおよびファイルが不正に変更されると、コンピュータに被害が及んだり、セキュリティが侵害されたり、重要なシステムファイルが損害を受ける可能性があります。

1 [SystemGuards]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
2. SecurityCenter の[ホーム]パネルで[コンピュータとファイル]をクリックします。
3. [コンピュータとファイル]情報領域で、[設定]をクリックします。
4. [コンピュータとファイルの設定]パネルで、SystemGuard による保護が有効化されているか確認し、[詳細設定]をクリックします。

2 リストから SystemGuard の種類を選択します。

- **プログラム用 SystemGuards**
- **Windows 用 SystemGuards**
- **ブラウザ用 SystemGuards**

3 [オプションの選択]で、次のいずれかの操作を実行します。

- プログラム用、Windows 用、ブラウザ用 SystemGuards に関連付けられた不正なレジストリおよびファイルの変更を検出し、ログに記録し、レポートするには、[アラートを表示]をクリックします。
- プログラム用、Windows 用、ブラウザ用 SystemGuards に関連付けられた不正なレジストリおよびファイルの変更を検出してログに記録するには、[ログ記録のみ]をクリックします。
- プログラム用、Windows 用、ブラウザ用 SystemGuards に関連付けられた不正なレジストリおよびファイルの変更の検出を無効にするには、[この SystemGuard を無効化]をクリックします。

注: SystemGuardsの種類の詳細については、49 ページの「SystemGuardsの種類について」を参照してください。

McAfee SystemGuards の種類について

McAfee SystemGuards は、コンピュータのレジストリおよび Windows のその他の重要なファイルへの、不正な変更を検出します。

SystemGuards は 3 種類あります。プログラム用 SystemGuards、Windows 用 SystemGuards およびブラウザ用 SystemGuards

プログラム用 SystemGuards

プログラム用 SystemGuards 技術により、Windows の起動時に自動的に起動されるスパイウェアや怪しいプログラムだけでなく、(インターネットからダウンロードした)不審な ActiveX プログラムが阻止されます。

SystemGuards	検出...
ActiveX のインストール	ActiveX のレジストリが不正に変更されると、コンピュータに被害が及んだり、セキュリティが侵害されたり、重要なシステムファイルが損害を受ける可能性があります。
スタートアップ項目	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムによりスタートアップ項目のファイルの変更がインストールされると、コンピュータの起動時に怪しいプログラムが実行される可能性があります。
Windows のシェル実行フック	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより Windows のシェル実行フックがインストールされると、セキュリティプログラムが適切に動作しなくなる可能性があります。
ShellServiceObjectDelayLoad	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより ShellServiceObjectDelayLoad のレジストリが変更されると、コンピュータの起動時に有害なファイルが実行される可能性があります。

Windows 用 SystemGuards

Windows 用 SystemGuards 技術により、不正な情報や個人情報の送受信が防止されます。また、ユーザやユーザの家族にとって重要なプログラムの表示や動作を不正に変更する不審なプログラムの停止にも有効です。

SystemGuards	検出...
コンテキストメニュー ハンドラ	Windows のコンテキストメニュー ハンドラのレジストリが不正に変更されると、Windows メニューの表示や動作に影響が出る可能性があります。コンテキストメニューを使用すると、ファイルの右クリックなど、コンピュータ上でアクションを実行できます。

SystemGuards	検出...
Applnit DLLs	Windows Applnit_DLL のレジストリが不正に変更されると、コンピュータを起動したときに有害なファイルが実行される可能性があります。
Windows Hosts ファイル	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより Windows Hosts ファイルが不正に変更されると、ブラウザが不正な Web サイトにリダイレクトされたり、ソフトウェアの更新がブロックされる可能性があります。
Winlogon シェル	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより Winlogon シェルのレジストリが変更されると、Windows Explorer の代わりに他のプログラムが実行される可能性があります。
WinlogonUserlnit	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより WinlogonUserlnit のレジストリが変更されると、Windows にログオンしたときに怪しいプログラムが実行される可能性があります。
Windows プロトコル	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより Windows プロトコルのレジストリが変更されると、コンピュータがインターネットで情報を送受信する方法に影響が出る可能性があります。
WinSock LSP (Layered Service Provider)	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより WinSock LSP (Layered Service Provider) のレジストリが変更されると、インターネットで送受信した情報が傍受されたり変更される可能性があります。
Windows シェルの Open コマンド	Windows シェルの Open コマンドが不正に変更されると、ワームやその他の不正プログラムがコンピュータ上で実行される可能性があります。
SharedTaskScheduler	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより SharedTaskScheduler のレジストリおよびファイルが変更されると、コンピュータの起動時に有害なファイルが実行される可能性があります。
Windows Messenger サービス	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより Windows Messenger サービスのレジストリが変更されると、コンピュータに未承諾広告が表示されたり、リモートからプログラムが実行される可能性があります。
Windows win.ini ファイル	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより Win.ini ファイルが変更されると、コンピュータの起動時に怪しいプログラムが実行される可能性があります。

ブラウザ用 SystemGuards

ブラウザ用 SystemGuards 技術により、不審な Web サイトへのリダイレクトをはじめとする不正なブラウザアクティビティ、知らないうちに行われるブラウザ設定やオプションの変更、不審な Web サイトの信頼などを防止します。

SystemGuards	検出...
ブラウザ ヘルパー オブジェクト	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムによりブラウザ ヘルパー オブジェクトが使用されると、Web 閲覧履歴が追跡されたり、未承諾広告が表示される可能性があります。
Internet Explorer バー	Internet Explorer のバー ([検索] や [お気に入り] など) のレジストリが不正に変更されると、Internet Explorer の表示および動作に影響が出る可能性があります。
Internet Explorer アドオン	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより Internet Explorer アドオンがインストールされると、Web 閲覧履歴が追跡されたり、未承諾広告が表示される可能性があります。
Internet Explorer ShellBrowser	Internet Explorer ShellBrowser のレジストリが不正に変更されると、Web ブラウザの表示や動作に影響が出る可能性があります。
Internet Explorer WebBrowser	Internet Explorer Web Browser のレジストリが不正に変更されると、Web ブラウザの表示や動作に影響が出る可能性があります。
Internet Explorer URL 検索フック	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより Internet Explorer URL 検索フックのレジストリが変更されると、Web で検索を実行したときに不正な Web サイトにリダイレクトされる可能性があります。
Internet Explorer URL	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより Internet Explorer URL のレジストリが変更されると、ブラウザの設定に影響が出る可能性があります。
Internet Explorer 制限	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより Internet Explorer 制限のレジストリが変更されると、ブラウザの設定やオプションに影響が出る可能性があります。
Internet Explorer セキュリティゾーン	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより Internet Explorer セキュリティゾーンのレジストリが変更されると、コンピュータの起動時に有害なファイルが実行される可能性があります。

SystemGuards	検出...
Internet Explorer 信頼済みサイト	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより Internet Explorer 信頼済みサイトのレジストリが変更されると、不正な Web サイトがブラウザにより信頼される可能性があります。
Internet Explorer のポリシー	スパイウェア、アドウェア、怪しいプログラムにより Internet Explorer ポリシーのレジストリが変更されると、ブラウザの表示やオプションに影響が出る可能性があります。

信頼リストの使用

McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)を使用して、ファイルやレジストリの変更(SystemGuard)、またはプログラムやバッファオーバーフローを検出する場合、検出された項目を信頼するか削除するかを選択が要求されます。検出された項目を信頼し、今後この項目によるアクティビティに関する通知が不要な場合は、この項目を信頼リストに追加します。リストに追加すると、この項目は検出されなくなり、また通知されることもありません。項目を信頼リストに登録したが、この項目のアクティビティをブロックする必要がある場合は、ブロックできます。ブロックすると、その項目がコンピュータ上で実行されコンピュータに変更を加えることを防止でき、アクティビティに関して通知されることもありません。また、信頼リストから項目を削除することもできます。削除すると、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)によって再度その項目のアクティビティが検出されます。

信頼リストを管理

[信頼リスト]パネルを使用して、以前検出され信頼済の項目を、信頼またはブロックできます。また、信頼リストから項目を削除すると、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)によって再度検出されます。

1 [信頼リスト]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
2. SecurityCenter の[ホーム]パネルで[コンピュータとファイル]をクリックします。
3. [コンピュータとファイル]情報領域で、[設定]をクリックします。
4. [コンピュータとファイルの設定]パネルで、ウイルス対策が有効化されているか確認し、[詳細設定]をクリックします。
5. [ウイルス対策]パネルで[信頼リスト]をクリックします。

2 以下の信頼リストのうち、いずれかの種類を選択します。

- **プログラム用 SystemGuards**
- **Windows 用 SystemGuards**
- **ブラウザ用 SystemGuards**
- **信頼するプログラム**
- **信頼するバッファオーバーフロー**

3 [オプションの選択]で、次のいずれかの操作を実行します。

- Windows レジストリまたはコンピュータ上の重要なシステムファイルの変更を通知なく許可するには、[信頼]をクリックします。
- Windows レジストリまたはコンピュータ上の重要なシステムファイルの変更を通知なくブロックするには、[ブロック]をクリックします。
- 信頼リストから検出された項目を削除するには、[削除]をクリックします。

4 [OK]をクリックします。

注: 信頼リストの種類の詳細については、54 ページの「信頼リストの種類について」を参照してください。

信頼リストの種類について

[信頼リスト]パネルの SystemGuards は、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)によって検出された、以前許可なく変更されたレジストリとファイルを表します。ただし、アラートまたは[スキャン結果]パネルで許可したものに限り、M[信頼リスト]パネルで管理可能な信頼リストには、プログラム用 SystemGuards、Windows 用 SystemGuards、ブラウザ用 SystemGuards、信頼するプログラム、および信頼するバッファオーバーフローの 5 種類があります。

オプション	説明
プログラム用 SystemGuards	<p>[信頼リスト]パネルのプログラム用 SystemGuards は、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)によって検出された、以前許可なく変更されたレジストリとファイルを表します。ただし、アラートまたは[スキャン結果]パネルで許可したものに限り、M[信頼リスト]パネルで管理可能な信頼リストには、プログラム用 SystemGuards、Windows 用 SystemGuards、ブラウザ用 SystemGuards、信頼するプログラム、および信頼するバッファオーバーフローの 5 種類があります。</p> <p>プログラム用 SystemGuards では、ActiveX のインストール、スタートアップ項目、Windows のシェル実行フック、および ShellServiceObjectDelayLoad に関連した、レジストリとファイルの許可のない変更を検出されます。レジストリおよびファイルが不正に変更されると、コンピュータに被害が及んだり、セキュリティが侵害されたり、重要なシステムファイルが損害を受ける可能性があります。</p>

オプション	説明
Windows 用 SystemGuards	<p>[信頼リスト]パネルの Windows 用 SystemGuards は、McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン) によって検出された、以前許可なく変更されたレジストリとファイルを表します。ただし、アラートまたは [スキャン結果] パネルから選択されたものです。</p> <p>Windows 用 SystemGuards は、コンテキストメニュー、ハンドラ、Applnit DLLs、Windows Hosts ファイル、Winlogon シェル、および Winsock LSP (Layered Service Provider) などに関連する、レジストリとファイルの許可のない変更を検出します。ご使用のコンピュータのレジストリおよびファイルが許可なく変更されると、インターネット上での情報の送受信方法が影響を受ける可能性があり、プログラムの表示や動作が変更され、怪しいプログラムの実行が許可される可能性があります。</p>
ブラウザ用 SystemGuards	<p>[信頼リスト]パネルのブラウザ用 SystemGuards は、McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン) によって検出された、以前許可なく変更されたレジストリとファイルを表します。ただし、アラートまたは [スキャン結果] パネルから選択したものに限りません。</p> <p>ブラウザ用 SystemGuards は、ブラウザヘルパーオブジェクト、Internet Explorer アドオン、Internet Explorer URL、Internet Explorer セキュリティゾーンなどに関する、レジストリの許可のない変更と不審な動作を検出します。レジストリのこの種類の許可のない変更によって、不審な Web サイトへのリダイレクトや、ブラウザ設定およびオプションの変更、不審な Web サイトの信用などの、ブラウザの不正なアクティビティが発生する恐れがあります。</p>
信頼するプログラム	<p>信頼するプログラムは、McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン) によって以前検出された怪しいプログラムである可能性があります。アラートまたは [スキャン結果] パネルで信頼することを選択したプログラムです。</p>
信頼するバッファオーバーフロー	<p>信頼するバッファオーバーフローは、McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン) によって以前検出された不審なアクティビティである可能性があります。アラートまたは [スキャン結果] パネルで信頼することを選択したプログラムです。</p> <p>バッファオーバーフローにより、コンピュータが攻撃されたりファイルが損傷を受ける可能性があります。バッファオーバーフローは、怪しいプログラムまたはプロセスが保存しようとする情報量がバッファの制限を越えた場合に発生します。</p>

第 11 章

コンピュータをスキャン

McAfee SecurityCenterの起動とともに、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)のリアルタイムウイルス対策保護が有害な可能性のあるウイルスやトロイの木馬、その他セキュリティの脅威に対するコンピュータの保護を開始します。McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)のリアルタイムなウイルス対策では、設定したリアルタイム スキャン オプションを使用してファイルへのアクセス時にファイルをスキャンすることで、無効にするまでウイルスアクティビティが常時監視されます。ご使用のコンピュータを最新のセキュリティ脅威から継続的に保護するためには、リアルタイムなウイルス対策を無効にせず、定期的なスケジュールを設定し、包括的に手動スキャンを実行します。リアルタイム スキャン オプションおよび手動スキャンオプションの設定の詳細については、39 ページの「**ウイルス対策の設定**」を参照してください。

McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)で、手動ウイルス対策に対するスキャンオプションをより詳細に設定すると、定期的に広範囲のスキャンを実行できます。設定したスケジュールに基づいた特定の場所を対象として、McAfee SecurityCenter から手動スキャンを実行できます。ただし、操作中に直接 Windows Explorer で手動スキャンを実行することもできます。McAfee SecurityCenter でスキャンを実行すると、オンザフライでオプションのスキャンを変更できます。ただし、Windows Explorer からスキャンを実行すると、コンピュータセキュリティに有効です。

McAfee SecurityCenter または Windows Explorer のいずれかを使用して手動スキャンが実行されたかは、終了したスキャン結果で確認できます。McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)によってウイルス、トロイの木馬、スパイウェア、アドウェア、Cookies および他の怪しいプログラムが検出、修復または隔離されたかどうかを、スキャンの結果で確認できます。スキャンの結果はさまざまな方法で表示されます。たとえば、感染状態と種類などのスキャン結果の基本概要または詳細情報を表示できます。また、一般的なスキャンと検出の統計を表示できます。

このセクションの内容

コンピュータをスキャン.....	58
スキャン結果を表示.....	58

コンピュータをスキャン

McAfee SecurityCenter の標準メニューまたは詳細メニューのいずれかから手動スキャンを実行できます。詳細メニューからスキャンを実行する場合、スキャンを実行する前に手動スキャンのオプションを確認できます。標準メニューからスキャンを実行する場合、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)で既存のスキャンオプションを使用して、即座にスキャンが開始されます。また、既存のスキャンオプションを使用して、Windows Explorer のスキャンを実行できます。

- 次のいずれかの操作を実行します。

McAfee SecurityCenter でスキャン

目的...	手順...
既存の設定を使用してスキャン	標準メニューで[スキャン]をクリックします。
変更した設定を使用してスキャン	詳細メニューで[スキャン]をクリックし、スキャンする場所とスキャンオプションを選択して、[今すぐスキャン]をクリックします。

Windows Explorer でスキャン

1. Windows Explorer を開きます。
2. ファイル、フォルダ、ドライブを右クリックし、次に[スキャン]をクリックします。

注:スキャン結果がスキャン完了アラートに表示されます。結果には、スキャン、検出、修復、隔離および削除された項目の数が表示されます。[スキャンの詳細を表示]をクリックして、スキャン結果の詳細または感染した項目を表示します。

スキャン結果を表示

手動スキャンが終了したら、結果を表示して、スキャンで検索された項目を確認し、現在のコンピュータの保護の状態を分析します。McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン) によってウイルス、トロイの木馬、スパイウェア、アドウェア、Cookies および他の怪しいプログラムが検出、修復または隔離されたかどうかを、スキャンの結果で確認できます。

- 標準メニューまたは詳細メニューで、[スキャン] をクリックしてから、次のいずれかの操作を実行します。

目的...	手順...
スキャン結果をアラートに表示	スキャン結果をスキャン完了アラートに表示します。
スキャン結果に関する詳細を表示	スキャン完了アラートで [スキャンの詳細を表示] をクリックします。
スキャン結果のクイックサマリを表示	タスクバーの通知領域で、[スキャン完了] アイコンをポイントします。
スキャンと検出の統計を表示	タスクバーの通知領域で、[スキャン完了] アイコンをダブルクリックします。
検出された項目、感染状態および種類の詳細を表示	タスクバーの通知領域で、[スキャン完了] アイコンをダブルクリックしてから、[手動スキャン] パネルの [スキャンの進捗状況] で [結果を表示] をクリックします。

第 12 章

スキャン結果を使用

リアルタイムスキャンまたは手動スキャンの実行中にセキュリティ脅威が検出されると、脅威の種類に応じて自動的に脅威が処理されます。たとえば、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)によって、コンピュータ上でウイルス、トロイの木馬またはトラッキング Cookie が検出されると、感染ファイルの駆除が試行されます。感染ファイルを駆除できない場合は、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)によってそのファイルが隔離されます。

セキュリティの脅威によっては、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)では正常にファイルの駆除または隔離ができない場合があります。この場合、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)から脅威の取り扱いを決定するよう促されます。脅威の種類に応じてさまざまなアクションを選択できます。たとえば、ウイルスがファイル内で検出され、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)ではそのファイルを正常に駆除または隔離できない場合、そのファイルへの以降のアクセスは拒否されます。トラッキング Cookie が検出され、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)ではその Cookie を正常に駆除または隔離できない場合、削除するか信頼するかを決定できます。怪しいプログラムが検出され、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)では自動的に対応されない場合、そのプログラムを隔離するか、信頼するかを決定する必要があります。

McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)によって隔離される場合は、その項目を暗号化し、ファイル、プログラムまたは Cookie がコンピュータに被害を及ぼさないようフォルダに隔離されます。隔離された項目は復元または削除できます。システムに影響を与えずに隔離された Cookie を削除できることがほとんどですが、認識され使用されているプログラムが隔離される場合は、復元を検討してください。

このセクションの内容

ウイルスとトロイの木馬について	62
怪しいプログラムについて	62
隔離されたファイルについて	63
隔離プログラムとCookieについて	63

ウイルスとトロイの木馬について

McAfee McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)によって、リアルタイムスキャンまたは手動スキャン時に、コンピュータ上のファイルにウイルスまたはトロイの木馬が検出されると、ファイルの駆除が試行されます。ファイルを駆除できない場合は、ファイルの隔離が試行されます。ファイルの隔離にも失敗した場合、ファイルへのアクセスが拒否されます。(リアルタイムスキャンの場合のみ)。

1 [スキャン結果]パネルを開きます。

機能の内容

1. タスクバーの右の方で、[スキャン完了]アイコンをダブルクリックします。
2. [手動スキャン]パネルの[スキャンの進捗状況]で、[結果を表示]をクリックします。

2 [スキャン結果]リストで、[ウイルスとトロイの木馬]をクリックします。

注: McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)によって隔離されたファイルを使用するには、63 ページの「隔離されたファイルについて」を参照してください。

怪しいプログラムについて

McAfee McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)によって、リアルタイムスキャンまたは手動スキャン時に、不審なコンピュータ上でプログラムが検出されると、プログラムの削除または信頼が選択できます。怪しいプログラムの削除とは、実際にシステム内でプログラムが削除されることとは異なります。また、隔離されたプログラムを削除しても、コンピュータやファイルに被害を及ぼすことはありません。

1 [スキャン結果]パネルを開きます。

機能の内容

1. タスクバーの右の方で、[スキャン完了]アイコンをダブルクリックします。
2. [手動スキャン]パネルの[スキャンの進捗状況]で、[結果を表示]をクリックします。

2 [スキャン結果]リストで、[怪しいプログラム]をクリックします。

3 怪しいプログラムを選択します。

4 [オプションの選択]で、[削除]または[信頼]のいずれかをクリックします。

5 選択したオプションを確認します。

隔離されたファイルについて

McAfee VirusScan に (マカフィー・ウイルススキャン) によって、感染したファイルが隔離される場合、項目は暗号化され、ファイルがコンピュータに被害を及ぼさないようにフォルダに移動されます。隔離されたファイルは復元または削除できます。

1 [隔離ファイル] パネルを開きます。

機能の内容

1. 左ペインで [詳細メニュー] をクリックします。
2. [復元] をクリックします。
3. [ファイル] をクリックします。

2 隔離されたファイルを選択します。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- 感染したファイルを修復して、コンピュータ上の元の場所に戻すには、[復元] をクリックします。
- 感染したファイルをコンピュータから削除するには、[削除] をクリックします。

4 [はい] をクリックして、選択したオプションを確認します。

ヒント: 複数のファイルを同時に復元または削除できます。

隔離プログラムと Cookie について

McAfee VirusScan (マカフィー・ウイルススキャン) によって、怪しいプログラムやトラッキング Cookie が隔離される場合、項目は暗号化され、プログラムまたは Cookie がコンピュータに被害を及ぼさないよう保護されたフォルダに移動されます。隔離された項目は復元または削除できます。多くの場合、システムに影響を与えずに、隔離された項目を削除できます。

1 [隔離プログラム] と [トラッキング Cookie] パネルを開きます。

機能の内容

1. 左ペインで [詳細メニュー] をクリックします。
2. [復元] をクリックします。
3. [プログラムと Cookie] をクリックします。

2 隔離されたプログラムまたは Cookie を選択します。

- 3 次のいずれかの操作を実行します。
 - 感染したファイルを修復して、コンピュータ上の元の場所に戻すには、[復元]をクリックします。
 - 感染したファイルをコンピュータから削除するには、[削除]をクリックします。
- 4 処理を確定するには[はい]をクリックしてください。

ヒント:複数のプログラムと Cookie を同時に復元または削除できます。

第 13 章

McAfee Personal Firewall

McAfee Personal Firewall は、コンピュータと個人データを保護する高度な機能を提供するソフトウェアです。McAfee Personal Firewall は、コンピュータとインターネットの間にバリア(ファイアウォール)を作り、インターネット トラフィックに不審な動作がないかどうかをバックグラウンドで監視します。

注: McAfee SecurityCenter は、問題を検出するとただちに重要な問題かどうかをレポートします。保護の問題を診断する上で詳細情報が必要な場合は、McAfee Virtual Technician を実行します。

このセクションの内容

McAfee Personal Firewall機能.....	66
ファイアウォールを起動	69
アラートを使用	71
情報アラートを管理	75
ファイアウォールによる保護の設定	77
プログラムと権限を管理	89
システムサービスを管理	97
コンピュータ接続を管理	103
ログ記録、監視、分析	111
インターネットセキュリティについての確認	121

McAfee Personal Firewall 機能

McAfee Personal Firewall には、次の機能が搭載されています。

標準的な保護レベルとカスタマイズ

ファイアウォールの標準保護設定で、侵入や不審なアクティビティから保護できます。また、保護設定をカスタマイズすることも可能です。

推奨事項のリアルタイム表示

状況に応じて表示される推奨事項を参考に、あるプログラムにインターネットアクセスを許可するかどうか、あるネットワークトラフィックを信用するかどうかを決定できます。

プログラムに対するすぐれたアクセス管理

アラートやイベントログを使用してそれぞれのプログラムのインターネットアクセスを管理できます。また、特定のプログラムに対してアクセス許可を設定することもできます。

ゲームのプレイ中の保護

全画面表示でゲームをプレイしている間は、侵入や不審なアクティビティに関するアラートに邪魔されないようにします。

コンピュータの起動時の保護

Windows®が起動したらずぐに、侵入および怪しいプログラムやネットワークトラフィックからコンピュータを保護します。

システム サービス ポートの制御

特定のプログラムによって必要とされるシステム サービス ポートの開閉を管理できます。

コンピュータ接続の管理

別のコンピュータとご使用のコンピュータ間のリモート接続を許可およびブロックします。

HackerWatch 情報の統合

世界中のハッカー行為や侵入パターンを HackerWatch の Web サイトで追跡します。また、世界中のセキュリティイベントとインターネット上のポートに関する統計や、コンピュータ上のプログラムに関する現在のセキュリティ情報も取得できます。

ファイアウォールのロック

ロックすると、すべての内向き、外向きのインターネットトラフィックが無条件でブロックされます。

ファイアウォールの復元

ファイアウォールによる保護を簡単に標準設定に戻すことができます。

トロイの木馬の高度検出

不審なアプリケーションを検出およびブロックできます。たとえば、トロイの木馬がインターネットにアクセスしてユーザの個人データを侵害することを防ぎます。

イベントログの記録

受信、送信にかかわらず最近のすべての侵入イベントが追跡されます。

インターネットトラフィックの監視

世界中の地図を表示して、悪質な攻撃やトラフィックの発信元を確認できます。また、発信元 IP アドレスの所有者の詳細情報と地理的な情報も確認できます。さらに、内向きおよび外向きのトラフィックを分析したり、プログラムが使用する帯域幅やアクティビティを監視できます。

侵入防止機能

インターネット上の脅威から個人情報を守ります。ヒューリスティック同様の機能を使い、攻撃の兆候や、ハッキング行為の特徴をブロックする、第三の保護レイヤーを提供します。

高度なトラフィック分析

内向き、外向きすべてのインターネットトラフィックや、外からの接続を常に探しているようなプログラムによる接続などを評価します。これにより、侵入される可能性のあるプログラムを発見して対処することができます。

第 14 章

ファイアウォールを起動

ファイアウォールをインストールするとすぐに、コンピュータは侵入や不審なネットワークトラフィックから保護されます。また、アラートの対処や、既知または未知のプログラムによるインターネットアクセスの管理も、すぐに行うことができます。スマートリコメンデーションが自動的に有効になり、セキュリティレベルは[信用]に設定されます(プログラムにインターネットへの送信アクセスのみ許可するためのオプションが含まれます)。

ファイアウォールは[ネットワークとインターネット設定]パネルから無効にできますが、コンピュータは侵入や不審なネットワークトラフィックから保護されなくなります。また、内向き(受信)と外向き(送信)両方のインターネット接続を効率よく管理することもできなくなります。ファイアウォールによる保護を無効にする必要がある場合は、必要な場合のみ、一時的に無効にしてください。[ネットワークとインターネット設定]パネルからファイアウォールを有効にすることもできます。

ファイアウォールは Windows Firewall を自動的に無効にし、自身を標準設定のファイアウォールに設定します。

注: ファイアウォールを設定するには、[ネットワークとインターネット設定]パネルを開きます。

このセクションの内容

ファイアウォールによる保護を開始	69
ファイアウォールによる保護を停止	70

ファイアウォールによる保護を開始

ファイアウォールによる保護を有効にすると、コンピュータは侵入や不審なネットワークトラフィックから保護されます。また、内向き(受信)と外向き(送信)両方のインターネット接続を管理できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が無効です]で、[オン]をクリックします。

ファイアウォールによる保護を停止

コンピュータを侵入や不審なネットワークトラフィックから保護しない場合、ファイアウォールを無効にできます。ファイアウォールを無効にした場合、インターネット接続を管理できません。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[オフ]をクリックします。

第 15 章

アラートを使用

ファイアウォールでは、セキュリティの管理に役立つさまざまなアラートが使用されます。これらのアラートは、3つの基本的な種類に分類できます。

- レッドアラート
- イエローアラート
- グリーンアラート

アラートには、アラートへの対処方法に関する情報や、コンピュータ上で実行されているプログラムに関する情報も含まれます。

このセクションの内容

アラートについて72

アラートについて

ファイアウォールには 3 種類のアラートがあります。また、コンピュータ上で実行されているプログラムに関する情報や、プログラム情報を入手するための情報がアラートに含まれる場合もあります。

レッドアラート

レッドアラートは、ファイアウォールがトロイの木馬を検出し、ブロックすると表示されます。また、別の脅威が存在していないかスキャンすることをお勧めします。トロイの木馬は正規のプログラムを装っていますが、コンピュータを混乱させたり、被害を与えたり、コンピュータへの不正アクセスを可能にするプログラムです。このアラートは、セキュリティレベルが[オープン]に設定されている場合を除き、すべてのセキュリティレベルで表示されます。

イエローアラート

最も一般的なアラートタイプはイエローアラートで、ファイアウォールが検出したプログラムアクティビティまたはネットワークイベントに関する情報が通知されます。この場合、アラートにプログラムアクティビティまたはネットワークイベントが説明され、1 つ以上のオプションに対応する必要があります。たとえば、[新しいネットワークが検出されました]アラートは、ファイアウォールがインストールされているコンピュータが新しいネットワークに接続した場合に表示されます。ネットワークを信用するかどうかを選択できます。ネットワークが信用されると、このネットワーク上のすべてのコンピュータからのトラフィックが許可され、信用 IP アドレスに追加されます。スマートリコメンデーションが有効な場合は、[プログラム許可機能]パネルにプログラムが追加されます。

グリーンアラート

多くの場合、グリーンアラートにはイベントに関する基本情報が表示されますが、対応する必要はありません。グリーンアラートはデフォルトでは無効ですが、セキュリティレベルが[標準]、[信用]、[嚴重]、[ステルス]に設定されている場合に表示されます。

ユーザアシスタンス

ファイアウォールのアラートには、多くの場合、補足的な情報が含まれます。この情報を参考にして、コンピュータのセキュリティを管理できます。含まれる情報には次のものがあります。

- **このプログラムの詳細情報:** マカフィーのグローバル セキュリティ サイトが開き、ご使用のコンピュータのファイアウォールが検出したプログラムに関する情報を取得できます。
- **このプログラムについてマカフィーに報告してください:** コンピュータ上のファイアウォールが検出した未知のファイルに関する情報を、マカフィーに送信します。
- **マカフィーによる推奨事項:** アラートへの対処に関するアドバイスです。たとえば、プログラムに対してアクセスを許可することが推奨されます。

第 16 章

情報アラートを管理

全画面表示でゲームをプレイしている間などの特定のイベント中に、侵入や不審な活動が検出された場合に、情報アラートを表示または隠すように、ファイアウォールを設定できます。

このセクションの内容

ゲーム中にアラートを表示	75
情報アラートを非表示化	75

ゲーム中にアラートを表示

全画面表示でゲームをプレイしている間に、侵入や不審な活動が検出された場合に、情報アラートを表示するように、ファイアウォールを設定できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネルで、[詳細メニュー] をクリックします。
- 2 [設定] をクリックします。
- 3 [SecurityCenter の設定] パネルの [アラート] で、[詳細設定] をクリックします。
- 4 [アラートのオプション] パネルで、[ゲームモードが検出されたときに情報アラートを表示] を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

情報アラートを非表示化

侵入や不審な活動が検出された場合に、情報アラートが表示されないように、ファイアウォールを設定できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネルで、[詳細メニュー] をクリックします。
- 2 [設定] をクリックします。
- 3 [SecurityCenter の設定] パネルの [アラート] で、[詳細設定] をクリックします。
- 4 [SecurityCenter の設定] パネルで [情報アラート] をクリックします。

- 5 [情報アラート]パネルで、次のいずれかの操作を実行します。
 - [情報アラートを表示しない]を選択してすべての情報アラートを隠します。
 - アラートの非表示の選択を解除します。
- 6 [OK]をクリックします。

第 17 章

ファイアウォールによる保護の設定

ファイアウォールでは、セキュリティを管理したり、セキュリティイベントやアラートへの応答方法を調整するためにさまざまな方法が提供されます。

初めてファイアウォールをインストールした場合、コンピュータの保護のセキュリティレベルは[信用]に設定されていて、プログラムはインターネットへの送信アクセスのみが許可されています。ただし、非常に厳重なレベルから許容範囲の広いレベルまで用意されており、他のセキュリティレベルに設定することもできます。

また、アラートへの対処方法や、プログラムのインターネットアクセスに関する推奨事項が表示される場合もあります。

このセクションの内容

ファイアウォールのセキュリティレベルを管理	78
スマートリコメンデーションのアラートの設定	82
ファイアウォールによるセキュリティを最適化	84
ファイアウォールをロックおよび復元	87

ファイアウォールのセキュリティレベルを管理

ファイアウォールのセキュリティレベルを設定することで、アラートの管理および対処の度合いを決定できます。不審なネットワークトラフィックや内向き(受信)と外向き(送信)のインターネット接続がファイアウォールにより検出された場合に、これらのアラートが表示されます。デフォルトでは、送信アクセスについてのファイアウォールのセキュリティレベルが[信用]に設定されています。

セキュリティレベルが[信用]でスマートリコメンデーションが有効な場合、イエローアラートには、受信アクセスを必要とする未知のプログラムのアクセスを許可またはブロックするオプションが表示されます。既知のプログラムが検出されると、グリーンアラート(情報)が表示され、アクセスは自動的に許可されます。アクセスを許可すると、そのプログラムは送信も受信も自由に行うことができます。

通常、セキュリティレベルが高くなる(ステルスおよび嚴重)ほど、表示されるオプションとアラートの数が増え、ユーザの対応が必要となる場合が多くなります。

次の表では、ファイアウォールの6つのセキュリティレベルを説明しています。それぞれインターネット接続への対応が異なります。

レベル	説明
ロック	Web サイト、E メール、セキュリティ更新へのアクセスを含むネットワーク接続が受信、送信にかかわらずすべてブロックされます。このセキュリティレベルを設定すると、インターネット接続を削除した場合と同じような結果になります。この設定を使用すると、[システムサービス] パネルで開くように設定したポートをブロックできます。
ステルス	開かれているポート以外で、すべての受信接続がブロックされます。インターネット上からご使用のコンピュータの存在を完全に隠します。新しいプログラムがインターネットへの送信接続を試行した場合、または受信接続要求を受信した場合、ファイアウォールによりアラートが表示されます。ブロックされたプログラムと追加されたプログラムは、[プログラム許可機能]パネルに表示されます。
嚴重	新しいプログラムがインターネットへの送信接続を試行した場合、または受信接続要求を受信した場合、アラートが表示されます。ブロックされたプログラムと追加されたプログラムは、[プログラム許可機能]パネルに表示されます。セキュリティレベルを[嚴重]に設定すると、プログラムはその時点で必要な種類のアクセスのみを要求し、ユーザがそのアクセスを許可またはブロックします。設定後に、内向き(受信)と外向き(送信)両方の接続が必要となった場合は、[プログラム許可機能]パネルからすべてのアクセスを許可できます。

レベル	説明
標準	内向き、外向きの接続が監視され、新しいプログラムがインターネットアクセスを試行するとアラートが表示されます。ブロックされたプログラムと追加されたプログラムは、[プログラム許可機能]パネルに表示されます。
信用	<p>プログラムに対して、インターネットへの送受信または送信アクセスのみのいずれかを許可します。デフォルトのセキュリティレベルは[信頼]で、プログラムに対して送信のみのアクセスが許可されます。</p> <p>完全アクセスを許可すると、ファイアウォールはプログラムを自動的に信頼し、[プログラム許可機能]パネルで許可されたプログラムのリストにそのプログラムを追加します。</p> <p>送信アクセスのみを許可すると、インターネット接続のみ実行する際に、ファイアウォールはプログラムを自動的に信頼します。受信接続の場合は自動的に信頼されません。</p>
開く	内向き(受信)外向き(送信)にかかわらずすべてのインターネット接続を許可します。

また、[ファイアウォールによる保護を標準設定に戻す]パネルから、セキュリティレベルを簡単に[信用](送信アクセスのみを許可)に戻すこともできます。

セキュリティレベルの設定: ロック

ファイアウォールのセキュリティレベルを[ロック]に設定すると、送受信ネットワーク接続のすべてをブロックできます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [セキュリティレベル]パネルで、スライダーを移動して[ロック]を現在のレベルとして表示します。
- 4 [OK]をクリックします。

セキュリティレベルの設定: ステルス

ファイアウォールのセキュリティレベルを[ステルス]に設定すると、開かれているポート以外で、すべての受信接続がブロックされ、インターネット上で使用しているコンピュータの存在を隠すことができます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。

3 [セキュリティレベル]パネルで、スライダーを移動して[ステルス]を現在のレベルとして表示します。

4 [OK]をクリックします。

注:ステルスモードでは、新しいプログラムがインターネットへの外向き(送信)接続を試行した場合、または内向き(受信)の接続要求を受信した場合に、アラートが表示されます。

セキュリティレベルの設定: 厳重

ファイアウォールのセキュリティレベルを[厳重]に設定すると、新しいプログラムがインターネットへの外向き(送信)接続を試行した場合、または内向き(受信)の接続要求を受信した場合にアラートを受信できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [セキュリティレベル]パネルで、スライダーを移動して[厳重]を現在のレベルとして表示します。
- 4 [OK]をクリックします。

注:厳重モードでは、プログラムは、たとえば送信アクセスのみなど、その時点で必要な種類のアクセスのみを要求します。そのアクセスの許可またはブロックはユーザが行います。設定後に、内向き(受信)と外向き(送信)両方の接続が必要となった場合は、[プログラム許可機能]パネルからすべてのアクセスを許可できます。

セキュリティレベルの設定: 標準

セキュリティレベルを[標準]に設定すると、すべての接続が監視され、新しいプログラムがインターネットアクセスを試行した場合にアラートが表示されます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [セキュリティレベル]パネルで、スライダーを移動して[標準]を現在のレベルとして表示します。
- 4 [OK]をクリックします。

セキュリティレベルの設定: 信用

ファイアウォールのセキュリティレベルを[信頼]に設定すると、完全アクセスまたは送信アクセスのみのいずれかを許可できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [セキュリティレベル]パネルで、スライダーを移動して[信用]を現在のレベルとして表示します。
- 4 次のいずれかの操作を実行します。
 - 完全な送受信ネットワークアクセスを許可するには、[すべてのアクセスを許可]を選択します。
 - 送信のみのネットワークアクセスを許可するには、[送信アクセスのみを許可]を選択します。
- 5 [OK]をクリックします。

注:[送信アクセスのみを許可]は標準設定のオプションです。

セキュリティレベルの設定: オープン

ファイアウォールのセキュリティレベルを[オープン]に設定すると、送受信ネットワーク接続がすべて許可されます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [セキュリティレベル]パネルで、スライダーを移動して[オープン]を現在のレベルとして表示します。
- 4 [OK]をクリックします。

スマートリコメンデーションのアラートの設定

インターネットへのアクセスを試行するプログラムに対し、推奨事項を自動で実行するか、アラートへ表示するか、しないかを設定できます。スマートリコメンデーションを参考にして、アラートへの対処方法を決定できます。

スマートリコメンデーションが有効化されている場合(セキュリティレベルが[信頼]に設定されていて、送信アクセスのみ有効な場合)、既知のプログラムを自動的に許可またはブロックし、潜在的に危険なプログラムの検出時にアドバイスをアラートに表示します。

スマートリコメンデーションが無効化されている場合は、インターネットアクセスの許可もブロックも行われず、アラートにも何も表示されません。

スマートリコメンデーションが[表示のみ]に設定されている場合は、アクセスの許可またはブロックを問うアラートが表示され、アラートにアドバイスが表示されます。

スマートリコメンデーションを有効化

ファイアウォールのスマートリコメンデーションを有効化すると、プログラムの許可またはブロックが自動的に実行され、認識されていないプログラムや潜在的に危険なプログラムについてアラートが表示されます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [セキュリティレベル]パネルの[スマートリコメンデーション]で、[スマートリコメンデーションを有効化]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックします。

スマートリコメンデーションを無効化

ファイアウォールのスマートリコメンデーションを無効化すると、プログラムの許可またはブロックが実行され、認識されていないプログラムや潜在的に危険なプログラムについてアラートが表示されます。ただし、プログラムのアクセスの管理方法に関する情報は表示されません。また、ファイアウォールにより脅威である可能性がある新しいプログラム、または脅威であると判明している新しいプログラムが検出されると、プログラムのインターネットアクセスが自動的にブロックされます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。

- 3 [セキュリティレベル]パネルの[スマートリコメンデーション]で、[スマートリコメンデーションを無効化]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックします。

スマートリコメンデーションの表示のみ

アラートのスマートリコメンデーションを表示すると、対処方法のアドバイスのみ表示されます。そのため、認識されていないプログラムや潜在的に危険なプログラムの許可またはブロックの判断はユーザーが行うこととなります。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [セキュリティレベル]パネルの[スマートリコメンデーション]で、[表示のみ]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックします。

ファイアウォールによるセキュリティを最適化

コンピュータのセキュリティを侵害する多くの方法が存在しています。たとえば、Windows が起動する前にインターネット接続を試行するプログラムがあります。また、コンピュータに詳しいユーザは、コンピュータを追跡または ping を実行し、ネットワークに接続しているかどうかを確認することができます。ファイアウォールを使用すると、起動時の保護を有効にしたり ping 要求をブロックすることで、これらの種類の侵入を防御できます。前者の設定では Windows の起動中にプログラムのインターネットアクセスがブロックされ、後者の設定では他のユーザによりネットワーク上でコンピュータが検出される ping 要求がブロックされます。

標準インストールでは、サービス拒否攻撃やエクスプロイトなど一般的な侵入行為の自動的検出が設定されます。標準インストール設定を使用することにより、これらの攻撃やスキャンから保護されます。自動的に検出する攻撃とスキャンの種類は[侵入検知]パネルで無効化できません。

起動中のコンピュータを保護

Windows の起動時にコンピュータを保護して、起動中にインターネットへのアクセスを要求する新しいプログラムをブロックできます。起動中にインターネットアクセスを要求したプログラムに関連するアラートが表示され、この要求をブロックまたは許可できます。このオプションを使用するには、セキュリティレベルが[オープン]と[ロック]以外である必要があります。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [セキュリティレベル]パネルの[セキュリティ設定]で、[ブート時の保護を有効にする]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックします。

注： 起動時の保護が有効になっている間は、ブロックされた接続と侵入はログに記録されません。

ping 要求の設定

他のユーザによってネットワーク上の使用しているコンピュータの検出を許可または拒否できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。

- 3 [セキュリティレベル]パネルの[セキュリティ設定]で、次のいずれかの操作を実行します。
 - [ICMP ping 要求を許可]を選択し、ネットワーク上で ping 要求を使用したコンピュータの検出を許可します。
 - [ICMP ping 要求を許可]の選択を解除して、ネットワーク上で ping 要求を使用したコンピュータの検出を拒否します。
- 4 [OK]をクリックします。

侵入検知の設定

侵入を検出して、攻撃や不正スキャンからコンピュータを保護できます。標準設定では、サービス拒否攻撃やエクスプロイトなどの一般的な侵入行為を自動的に検出するよう設定されます。ただし、1 つ以上の攻撃またはスキャンに対して、自動検出を無効化できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ファイアウォール]パネルで[侵入検知]をクリックします。
- 4 [侵入を検出]で、次のいずれかの操作を実行します。
 - 名前を選択し、攻撃やスキャンを自動的に検出します。
 - 攻撃またはスキャンの自動検出を無効にするには、名前の選択を解除します。
- 5 [OK]をクリックします。

ファイアウォールによる保護の状態の設定

McAfee SecurityCenter へのレポート対象とならない特定の問題を無視するようにファイアウォールを設定することもできます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[SecurityCenter の情報]で、[設定]をクリックします。
- 2 [SecurityCenter の設定]パネルの[保護の状態]で、[詳細設定]をクリックします。

- 3 [無視された問題]パネルで、次のオプションから1つまたは複数を選択します。
 - ファイアウォールによる保護が無効です。
 - ファイアウォールのセキュリティレベルが[オープン]に設定されています。
 - ファイアウォールサービスが実行されていません。
 - ファイアウォールによる保護がインストールされていません。
 - Windows Firewall が無効です。
 - 外向き通信用ファイアウォールがコンピュータにインストールされていません。
- 4 [OK]をクリックします。


ファイアウォールをロックおよび復元

ロックにすると、すべての送受信のネットワークトラフィックがブロックされ、コンピュータをネットワークから隔離して問題を解決する場合に役立ちます。

ファイアウォールを迅速にロック

ファイアウォールをロックすると、コンピュータとインターネット間のすべてのネットワークトラフィックをブロックできます。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネル (ウインドウ枠) の [よく使う機能] で、[ファイアウォールをロック] をクリックします。
- 2 [ファイアウォールをロック] パネルで [ロック] をクリックします。
- 3 [はい] をクリックして、確認します。

ヒント: タスクバー右側の通知領域にある [McAfee SecurityCenter] アイコン  を右クリックして、[クイック リンク] をクリックし [ファイアウォールのロック] をクリックしても、ファイアウォールをロックできます。

ファイアウォールを迅速にロック解除


ファイアウォールのロックを解除すると、コンピュータとインターネット間のすべてのネットワークトラフィックが許可されます。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネル (ウインドウ枠) の [よく使う機能] で、[ファイアウォールをロック] をクリックします。
- 2 [ロックが有効です] パネルで [ロック解除] をクリックします。
- 3 [はい] をクリックして、確認します。

ファイアウォールの設定を復元

ファイアウォールの元の保護設定を迅速に復元できます。この復元によりセキュリティレベルは[信頼]に戻され、送信アクセスのみ許可されます。これにより、スマートリコメンデーションが有効化され、[プログラム許可機能]パネルにデフォルトプログラムと権限のリストが復元され、信頼された IP アドレスと禁止された IP アドレスが削除され、システムサービス、イベントログ設定および侵入検知が復元されます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[**ファイアウォールを標準設定に戻す**]をクリックします。
- 2 [ファイアウォールによる保護を標準設定に戻す]パネルで[**標準設定に戻す**]をクリックします。
- 3 [**はい**]をクリックして、確認します。

ヒント:タスクバー右側の通知領域にある[McAfee SecurityCenter]アイコンを右クリックして、[**クイック リンク**]をクリックし[**ファイアウォールを標準設定に戻す**]をクリックしても、ファイアウォールのデフォルト設定を復元できます。

第 18 章

プログラムと権限を管理

ファイアウォールを使用すると、インターネットへの送信/受信アクセスを必要とする既存のプログラムおよび新しいプログラムのアクセス権の管理や作成ができます。すべてのアクセスまたは送信アクセスのみをプログラムに対して制御できます。また、プログラムのアクセスをブロックすることもできます。

このセクションの内容

プログラムのインターネットアクセスを許可	90
プログラムに送信アクセスのみを許可	92
プログラムのインターネットアクセスをブロック	93
プログラムのアクセス権を削除	95
プログラムについての確認	96

プログラムのインターネットアクセスを許可

インターネットブラウザなど、一部のプログラムは、正常に動作するためにインターネットにアクセスする必要があります。

ファイアウォールの[プログラム許可機能]パネルでは次の操作を実行できます。

- プログラムのアクセスを許可する
- プログラムの送信アクセスのみを許可する
- プログラムのアクセスをブロックする

また、送信イベントログまたは最近のイベントログから、すべてのアクセスまたは送信アクセスのみがあるプログラムを許可することもできます。

プログラムにすべてのアクセスを許可

コンピュータ上でブロックされた既存のプログラムを許可すると、インターネットへの完全な送受信アクセスが可能になります。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ファイアウォール]パネルで[プログラム許可機能]をクリックします。
- 4 [プログラム許可機能]で、[ブロック]または[送信アクセスのみ]のプログラムを選択します。
- 5 [対応]で[アクセスを許可]をクリックします。
- 6 [OK]をクリックします。

新しいプログラムにすべてのアクセスを許可

コンピュータ上でブロックされた新規のプログラムを許可すると、インターネットへの完全な送受信アクセスが可能になります。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ファイアウォール]パネルで[プログラム許可機能]をクリックします。

- 4 [プログラム許可機能]で[許可されたプログラムを追加]をクリックします。
- 5 [プログラムの追加]ダイアログボックスで、追加するプログラムを参照して選択し、[開く]をクリックします。

注: プログラムを選択して、[対応]で[送信アクセスのみを許可]または[アクセスをブロック]をクリックすることにより、既存のプログラムと同様、新規に追加したプログラムの権限を変更できます。

最近のイベントログからすべてのアクセスを許可

最近のイベントログに表示されるブロックされた既存のプログラムを許可すると、インターネットへの完全な送受信アクセスが可能になります。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[詳細メニュー]をクリックします。
- 2 [レポートとログ]をクリックします。
- 3 [最近のイベント]で、イベントの説明を選択し、[アクセスを許可]をクリックします。
- 4 [プログラム許可機能]ダイアログで[はい]をクリックして、確認します。

関連項目

- [送信イベントを表示](#)(113 ページを参照)

送信イベントログからすべてのアクセスを許可

送信イベントログに表示されるブロックされた既存のプログラムを許可すると、インターネットへの完全な送受信アクセスが可能になります。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[詳細メニュー]をクリックします。
- 2 [レポートとログ]をクリックします。
- 3 [最近のイベント]で[ログを表示]をクリックします。
- 4 [インターネットとネットワーク]をクリックして、[送信イベント]をクリックします。
- 5 プログラムを選択して、[オプションの選択]で[アクセスを許可]をクリックします。
- 6 [プログラム許可機能]ダイアログで[はい]をクリックして、確認します。

プログラムに送信アクセスのみを許可

コンピュータ上の一部のプログラムには、送信インターネットアクセスが必要です。ファイアウォールにより、インターネットへの送信アクセスのみ許可するプログラム権限を設定できます。

プログラムに送信アクセスのみを許可

プログラムのインターネットへの送信アクセスのみ許可できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ファイアウォール]パネルで[プログラム許可機能]をクリックします。
- 4 [プログラム許可機能]で、[ブロック]または[すべてのアクセス]のプログラムを選択します。
- 5 [対応]で[送信アクセスのみを許可]をクリックします。
- 6 [OK]をクリックします。

最近のイベントログから送信アクセスのみを許可

最近のイベントログに表示されるブロックされた既存のプログラムを許可すると、インターネットへの送信アクセスのみ可能になります。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[詳細メニュー]をクリックします。
- 2 [レポートとログ]をクリックします。
- 3 [最近のイベント]で、イベントの説明を選択し、[送信アクセスのみを許可]をクリックします。
- 4 [プログラム許可機能]ダイアログで[はい]をクリックして、確認します。

送信イベントログから送信アクセスのみを許可

送信イベントログに表示されるブロックされた既存のプログラムを許可すると、インターネットへの送信アクセスのみ可能になります。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[詳細メニュー]をクリックします。
- 2 [レポートとログ]をクリックします。
- 3 [最近のイベント]で[ログを表示]をクリックします。
- 4 [インターネットとネットワーク]をクリックして、[送信イベント]をクリックします。
- 5 プログラムを選択して、[オプションの選択]で[送信アクセスのみを許可]をクリックします。
- 6 [プログラム許可機能]ダイアログで[はい]をクリックして、確認します。

プログラムのインターネットアクセスをブロック

ファイアウォールを使用すると、プログラムによるインターネットアクセスをブロックできます。プログラムをブロックすると、ネットワーク接続に影響があったり、正常に動作するためにインターネットアクセスを必要とするプログラムが中断される場合があります。このような影響がないことを確認してください。

プログラムのアクセスをブロック

プログラムのインターネットアクセスを送信、受信ともブロックできます。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネルで、[インターネットとネットワーク] をクリックしてから [設定] をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定] パネルの [ファイアウォールによる保護が有効です] で、[詳細設定] をクリックします。
- 3 [ファイアウォール] パネルで [プログラム許可機能] をクリックします。
- 4 [プログラム許可機能] で、[ブロック] または [送信アクセスのみ] のプログラムを選択します。
- 5 [対応] で [アクセスをブロック] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

新しいプログラムのアクセスをブロック

新しいプログラムのインターネットアクセスを送信、受信ともブロックできます。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネルで、[インターネットとネットワーク] をクリックしてから [設定] をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定] パネルの [ファイアウォールによる保護が有効です] で、[詳細設定] をクリックします。
- 3 [ファイアウォール] パネルで [プログラム許可機能] をクリックします。
- 4 [プログラム許可機能] で [許可されたプログラムを追加] をクリックします。
- 5 [プログラムの追加] ダイアログで、追加するプログラムを参照して選択し、[開く] をクリックします。

注: プログラムを選択して、[対応] の [送信アクセスのみを許可] または [アクセスを許可] をクリックすると、新しく追加したプログラムの権限を変更できます。

最近のイベントログからアクセスをブロック

最近のイベントログに表示されているプログラムが、インターネットアクセスで送受信されるのをブロックできます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[詳細メニュー]をクリックします。
- 2 [レポートとログ]をクリックします。
- 3 [最近のイベント]で、イベントの説明を選択し、[アクセスをブロック]をクリックします。
- 4 [プログラム許可機能]ダイアログで[はい]をクリックして、確認します。

プログラムのアクセス権を削除

プログラムの許可を削除する前に、削除がコンピュータの機能やネットワーク接続に影響しないことを確認してください。

プログラムの許可を削除

プログラムがインターネットアクセスで送受信されるのを削除できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネルで、[インターネットとネットワーク] をクリックしてから [設定] をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定] パネルの [ファイアウォールによる保護が有効です] で、[詳細設定] をクリックします。
- 3 [ファイアウォール] パネルで [プログラム許可機能] をクリックします。
- 4 [プログラム許可機能] でプログラムを選択します。
- 5 [対応] で [プログラムの許可を削除] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

注: プログラムの中には、特定の対応が無効 (灰色で表示) になっていて変更できないものがあります。

プログラムについての確認

プログラムに適用すべき権限がわからない場合は、マカフィーの HackerWatch の Web サイトで、プログラムに関する情報を取得できません。

プログラム情報を取得

マカフィーの HackerWatch の Web サイトからプログラム情報を取得して、インターネットへの送受信アクセスの許可またはブロックを選択できます。

注: マカフィーの HackerWatch の Web サイトが表示されるように、インターネットに接続していることを確認します。このサイトに、プログラム、インターネットアクセスの要件、セキュリティの脅威に関する最新情報を提供します。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定] パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ファイアウォール] パネルで[プログラム許可機能]をクリックします。
- 4 [プログラム許可機能]でプログラムを選択します。
- 5 [対応]で[詳細情報]をクリックします。

送信イベントログからプログラム情報を取得

送信イベントログで、マカフィーの HackerWatch の Web サイトからプログラム情報を取得して、インターネットへの送受信アクセスを許可またはブロックするプログラムを選択できます。

注: マカフィーの HackerWatch の Web サイトが表示されるように、インターネットに接続していることを確認します。このサイトに、プログラム、インターネットアクセスの要件、セキュリティの脅威に関する最新情報を提供します。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネルで、[詳細メニュー]をクリックします。
- 2 [レポートとログ]をクリックします。
- 3 [最近のイベント]で、イベントを選択して[ログを表示]をクリックします。
- 4 [インターネットとネットワーク]をクリックして、[送信イベント]をクリックします。
- 5 IP アドレスを選択し、[詳細情報]をクリックします。

第 19 章

システムサービスを管理

Web サーバやファイル共有サーバ プログラムといった特定のプログラムの中には、適切に動作するために、指定されたシステム サービスポートを介して別のコンピュータから要求していない接続を受け入れなければならないものもあります。多くの場合、これらのシステム サービスポートはシステムの安全性を損なう原因となるため、ファイアウォールはこれらのポートを閉じます。しかし、リモートコンピュータからの接続を許可するには、システム サービスポートが開いている必要があります。

このセクションの内容

システム サービスポートの設定.....98

システム サービス ポートの設定

システム サービス ポートを設定して、コンピュータ上のネットワーク サービスへのリモートアクセスを許可または拒否できます。

一般的なシステムサービスと関連するポートは次のとおりです。

- ファイル転送プロトコル (FTP) ポート 20~21
- メールサーバ (IMAP) ポート 143
- メールサーバ (POP3) ポート 110
- メールサーバ (SMTP) ポート 25
- Microsoft ディレクトリサーバ (MSFT DS) ポート 445
- Microsoft SQL サーバ (MSFT SQL) ポート 1433
- ネットワーク タイム プロトコル ポート 123
- リモートデスクトップ/リモートアシスタンス/端末サーバ(RDP)ポート 3389
- リモート プロシージャ コール (RPC) ポート 135
- セキュア Web サーバ (HTTPS) ポート 443
- ユニバーサル プラグ アンド プレイ (UPNP) ポート 5000
- Web サーバ (HTTP) ポート 80
- Windows ファイル共有 (NETBIOS) ポート 137~139

また、システム サービス ポートを設定すると、そのコンピュータに接続している他コンピュータも、同じネットワークを経由してインターネット接続を共有できます。インターネット接続共有 (ICS) といわれるこの接続方法では、インターネット接続を共有している一方のコンピュータが、接続されている他のコンピュータのゲートウェイとして機能します。

注:コンピュータに、Web または FTP サーバ接続のいずれかを受け入れるアプリケーションを搭載している場合、接続を共有しているコンピュータの関連するシステム サービス ポートを開き、そのポートへの接続の転送を許可する必要がある場合もあります。

既存のシステム サービス ポートへのアクセスを許可

既存のポートを開いて、コンピュータ上のネットワークサービスへのリモートアクセスを許可できます。

注:システム サービス ポートを開くと、インターネットセキュリティの脅威に対してコンピュータが脆弱な状態になる可能性があるため、ポートは必要な場合に限り開きます。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネルで、[インターネットとネットワーク] をクリックしてから [設定] をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定] パネルの [ファイアウォールによる保護が有効です] で、[詳細設定] をクリックします。
- 3 [ファイアウォール] パネルで [システムサービス] をクリックします。
- 4 [システムサービスのポートを開く] で、ポートを開くシステムサービスを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

既存のシステム サービス ポートへのアクセスをブロック

既存のポートを閉じて、コンピュータ上のネットワークサービスへのリモートアクセスをブロックできます。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネルで、[インターネットとネットワーク] をクリックしてから [設定] をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定] パネルの [ファイアウォールによる保護が有効です] で、[詳細設定] をクリックします。
- 3 [ファイアウォール] パネルで [システムサービス] をクリックします。
- 4 [システムサービスのポートを開く] で、ポートを閉じるシステムサービスの選択を解除します。
- 5 [OK] をクリックします。

新しいシステム サービス ポートの設定

ポートを開くか閉じて、コンピュータ上のリモートアクセスを許可またはブロックできるコンピュータ上で、新しいネットワーク サービス ポートを設定できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネルで、[インターネットとネットワーク] をクリックしてから [設定] をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定] パネルの [ファイアウォールによる保護が有効です] で、[詳細設定] をクリックします。
- 3 [ファイアウォール] パネルで [システムサービス] をクリックします。
- 4 [追加] をクリックします。

- 5 [システムサービス]パネルの[ポートとシステムサービス]で、次の項目を入力します。
 - プログラム名
 - 受信 TCP/IP ポート
 - 送信 TCP/IP ポート
 - 受信 UDP ポート
 - 送信 UDP ポート
- 6 インターネット接続を共有している他の Windows のネットワークコンピュータに、このポートのアクティビティ情報を送信する場合は、[このポートのネットワークアクティビティを インターネット接続共有(ICS)]を選択します。
- 7 新しい設定の説明を入力します(オプション)。
- 8 [OK]をクリックします。

注: コンピュータに、Web または FTP サーバ接続のいずれかを受け入れるアプリケーションを搭載している場合、接続を共有しているコンピュータの関連するシステム サービス ポートを開き、そのポートへの接続の転送を許可する必要がある場合もあります。インターネット接続共有(ICS)を使用している場合、[信用 IP アドレス]リストに信用するコンピュータ接続を追加する必要もあります。詳細については、「信用するコンピュータ接続を追加」を参照してください。

システム サービス ポートを変更

既存のシステム サービス ポートに関するネットワークの送受信アクセス情報を変更できます。

注:入力したポート情報が間違っていると、システムサービスは正常に動作しません。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ファイアウォール]パネルで[システムサービス]をクリックします。
- 4 システムサービスを選択し、[編集]をクリックします。
- 5 [システムサービス]パネルの[ポートとシステムサービス]で、次の項目を入力します。
 - プログラム名
 - 受信 TCP/IP ポート
 - 送信 TCP/IP ポート

- 受信 UDP ポート
 - 送信 UDP ポート
- 6 インターネット接続を共有している他の Windows のネットワークコンピュータに、このポートのアクティビティ情報を送信する場合は、**[このポートのネットワークアクティビティを インターネット接続共有 (ICS)]**を選択します。
 - 7 変更した設定の説明を入力します (オプション)。
 - 8 **[OK]**をクリックします。

システム サービス ポートを削除

既存のシステム サービス ポートをコンピュータから削除できます。削除すると、リモートコンピュータからコンピュータのネットワークサービスにはアクセスできなくなります。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネルで、**[インターネットとネットワーク]**をクリックしてから**[設定]**をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定] パネルの**[ファイアウォールによる保護が有効です]**で、**[詳細設定]**をクリックします。
- 3 [ファイアウォール] パネルで**[システムサービス]**をクリックします。
- 4 システムサービスを選択し、**[削除]**をクリックします。
- 5 プロンプトで、確認のために**[はい]**をクリックします。

第 20 章

コンピュータ接続を管理

リモートコンピュータに関連付けられたインターネット プロトコル アドレス (IP) に基づいてルールを作成し、コンピュータへの特定のリモート接続を管理するようにファイアウォールを設定できます。信用できる IP アドレスのコンピュータからご使用のコンピュータへの接続を信用したり、未知の IP、不審な IP、信用されていない IP のコンピュータからの接続を禁止することができます。

接続を許可する場合、信用するコンピュータが安全であることを確認してください。信用したコンピュータがワームやその他のメカニズムによってウイルスに感染すると、このコンピュータも危険にさらされることとなります。また、信用するコンピュータをファイアウォールと最新のウイルス対策プログラムで保護することをお勧めします。[信用 IP アドレス]リストの IP アドレスからのトラフィックは、ログに記録されず、またイベントアラートの対象にもなりません。

未知の IP、不審な IP、信用されていない IP のコンピュータからの接続を禁止することができます。

ファイアウォールは不要なトラフィックをすべてブロックするため、通常は、IP アドレスを禁止する必要はありません。あるインターネット接続によって危険にさらされることがわかっている場合を除き、IP アドレスは禁止しないでください。DNS サーバ、DHCP サーバ、または ISP のその他のサーバなどの重要な IP アドレスをブロックしないように特に注意してください。セキュリティの設定によっては、禁止されたコンピュータからのイベントをファイアウォールが検出した際に、アラートを表示させることができます。

このセクションの内容

コンピュータ接続を信用	104
コンピュータ接続を禁止	107

コンピュータ接続を信用

[信用 IP と禁止 IP] パネルの [信用 IP アドレス] で、信用 IP アドレスを追加、編集、削除できます。

[信用 IP と禁止 IP] パネルの [信用 IP アドレス] リストを使用して、特定のコンピュータからユーザのコンピュータへのトラフィックをすべて許可することができます。[信用 IP アドレス] リストの IP アドレスからのトラフィックは、ログに記録されず、またイベントアラートの対象にもなりません。

ファイアウォールはリストでチェックマークが付けられているすべての IP アドレスを信用し、信用 IP からのトラフィックに対して、すべてのポートのファイアウォールの通過を許可します。信用 IP アドレスのコンピュータとご使用のコンピュータの間で行われるアクティビティは、ファイアウォールでフィルタリングまたは分析されません。デフォルトでは、ファイアウォールで検出された最初のプライベートネットワークが、[信用 IP アドレス] に表示されます。

接続を許可する場合、信用するコンピュータが安全であることを確認してください。信用したコンピュータがワームやその他のメカニズムによってウイルスに感染すると、このコンピュータも危険にさらされることとなります。また、信用するコンピュータをファイアウォールと最新のウイルス対策プログラムで保護することをお勧めします。

信用するコンピュータ接続を追加

信用するコンピュータ接続と関連する IP アドレスを追加できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネルで、[インターネットとネットワーク] をクリックしてから [設定] をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定] パネルの [ファイアウォールによる保護が有効です] で、[詳細設定] をクリックします。
- 3 [ファイアウォール] パネルで [信用 IP と禁止 IP] をクリックします。
- 4 [信用 IP と禁止 IP] パネルで [信用 IP アドレス] を選択し、[追加] をクリックします。
- 5 [信用 IP アドレスルールを追加] で、次のいずれかの操作を実行します。
 - [単一の IP アドレス] を選択し、IP アドレスを入力します。
 - [IP アドレスの範囲] を選択して、[開始 IP アドレス] ボックスおよび [終了 IP アドレス] ボックスに開始 IP アドレスおよび終了 IP アドレスを入力します。
- 6 システムサービスでインターネット接続共有(ICS)
- 7 [ルールの有効期限] を選択し、ルールを施行する日数を入力します(オプション)。

- 8 ルールの説明を入力します (オプション)。
- 9 [OK]をクリックします。
- 10 [信用 IP と禁止 IP]ダイアログで、確認のために[はい]をクリックします。

注:インターネット接続共有(ICS)の詳細については、「新しいシステムサービスの設定」を参照してください。

受信イベントログから信用するコンピュータを追加

受信イベントログから、信用するコンピュータ接続とそのコンピュータに関連する IP アドレスを追加できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルの[よく使う機能]パネルで、[詳細メニュー]をクリックします。
- 2 [レポートとログ]をクリックします。
- 3 [最近のイベント]で[ログを表示]をクリックします。
- 4 [インターネットとネットワーク]をクリックして、[受信イベント]をクリックします。
- 5 送信元 IP アドレスを選択して、[オプションの選択]で[このアドレスを信用]をクリックします。
- 6 [はい]をクリックして、確認します。

信用するコンピュータ接続を編集

信用するコンピュータ接続と関連する IP アドレスを編集できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ファイアウォール]パネルで[信用 IP と禁止 IP]をクリックします。
- 4 [信用 IP と禁止 IP]パネルで[信用 IP アドレス]を選択します。
- 5 IP アドレスを選択し、[編集]をクリックします。
- 6 [信用 IP アドレスルールを編集]で、次のいずれかの操作を実行します。
 - [単一の IP アドレス]を選択し、IP アドレスを入力します。
 - [IP アドレスの範囲]を選択して、[開始 IP アドレス]ボックスおよび[終了 IP アドレス]ボックスに開始 IP アドレスおよび終了 IP アドレスを入力します。
- 7 [ルールの有効期限]にチェックマークを入れ、ルールを施行する日数を入力します (オプション)。

- 8 ルールの説明を入力します (オプション)。
- 9 [OK]をクリックします。

注:信用しているプライベートネットワークから、ファイアウォールにより自動的に追加された標準設定のコンピュータ接続は、編集できません。

信用するコンピュータ接続を削除

信用するコンピュータ接続と関連する IP アドレスを削除できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ファイアウォール]パネルで[信用 IP と禁止 IP]をクリックします。
- 4 [信用 IP と禁止 IP]パネルで[信用 IP アドレス]を選択します。
- 5 IP アドレスを選択し、[削除]をクリックします。
- 6 [信用 IP と禁止 IP]ダイアログで、確認のために[はい]をクリックします。

コンピュータ接続を禁止

[信用 IP と禁止 IP] パネルの [禁止 IP アドレス] で、禁止 IP アドレスを追加、編集、削除できます。

未知の IP、不審な IP、信用されていない IP のコンピュータからの接続を禁止することができます。

ファイアウォールは不要なトラフィックをすべてブロックするため、通常は、IP アドレスを禁止する必要はありません。あるインターネット接続によって危険にさらされることがわかっている場合を除き、IP アドレスは禁止しないでください。DNS サーバ、DHCP サーバ、または ISP のその他のサーバなどの重要な IP アドレスをブロックしないように特に注意してください。セキュリティの設定によっては、禁止されたコンピュータからのイベントをファイアウォールが検出した際に、アラートを表示させることができます。

禁止するコンピュータ接続を追加

禁止するコンピュータ接続と関連する IP アドレスを追加できます。

注: DNS サーバ、DHCP サーバ、または ISP のその他のサーバなどの重要な IP アドレスをブロックしないように特に注意してください。

- 1 [McAfee SecurityCenter] パネルで、[インターネットとネットワーク] をクリックしてから [設定] をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定] パネルの [ファイアウォールによる保護が有効です] で、[詳細設定] をクリックします。
- 3 [ファイアウォール] パネルで [信用 IP と禁止 IP] をクリックします。
- 4 [信用 IP と禁止 IP] パネルで [禁止 IP アドレス] を選択し、[追加] をクリックします。
- 5 [禁止 IP アドレスルールを追加] で、次のいずれかの操作を実行します。
 - [単一の IP アドレス] を選択し、IP アドレスを入力します。
 - [IP アドレスの範囲] を選択して、[開始 IP アドレス] ボックスおよび [終了 IP アドレス] ボックスに開始 IP アドレスおよび終了 IP アドレスを入力します。
- 6 [ルールの有効期限] を選択し、ルールを施行する日数を入力します (オプション)。
- 7 ルールの説明を入力します (オプション)。
- 8 [OK] をクリックします。
- 9 [信用 IP と禁止 IP] ダイアログで、確認のために [はい] をクリックします。

禁止するコンピュータ接続を編集

禁止するコンピュータ接続と関連する IP アドレスを編集できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ファイアウォール]パネルで[信用 IP と禁止 IP]をクリックします。
- 4 [信用 IP と禁止 IP]パネルで[禁止 IP アドレス]を選択し、[追加]をクリックします。
- 5 [禁止 IP アドレスルールを編集]で、次のいずれかの操作を実行します。
 - [単一の IP アドレス]を選択し、IP アドレスを入力します。
 - [IP アドレスの範囲]を選択して、[開始 IP アドレス]ボックスおよび[終了 IP アドレス]ボックスに開始 IP アドレスおよび終了 IP アドレスを入力します。
- 6 [ルールの有効期限]を選択し、ルールを施行する日数を入力します(オプション)。
- 7 ルールの説明を入力します (オプション)。
- 8 [OK]をクリックします。

禁止するコンピュータ接続を削除

禁止するコンピュータ接続と関連する IP アドレスを削除できます。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネルで、[インターネットとネットワーク]をクリックしてから[設定]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ファイアウォール]パネルで[信用 IP と禁止 IP]をクリックします。
- 4 [信用 IP と禁止 IP]パネルで[禁止 IP アドレス]を選択します。
- 5 IP アドレスを選択し、[削除]をクリックします。
- 6 [信用 IP と禁止 IP]ダイアログで、確認のために[はい]をクリックします。

受信イベントログからコンピュータを禁止

受信イベントログから、コンピュータ接続とそのコンピュータに関連する IP アドレスを禁止できます。

受信イベントログに表示される IP アドレスがブロックされます。したがって、コンピュータで意図的に開かれたポートが使用されている場合やインターネットアクセスを許可されたプログラムがある場合以外には、アドレスを禁止しても保護は強化されません。

意図的に開かれたポートがあり、これらのポートに対する特定のアドレスからのアクセスをブロックする必要がある場合にのみ、**[禁止 IP アドレス]**リストにその IP アドレスを追加します。

すべての受信トラフィックの IP アドレスが表示される**[受信イベント]**パネルを使用して、不審または不要なインターネット活動を行っている IP アドレスからの接続を禁止することができます。

- 1 **[McAfee SecurityCenter]**パネル(ウインドウ枠)の**[よく使う機能]**で、**[詳細メニュー]**をクリックします。
- 2 **[レポートとログ]**をクリックします。
- 3 **[最近のイベント]**で**[ログを表示]**をクリックします。
- 4 **[インターネットとネットワーク]**をクリックして、**[受信イベント]**をクリックします。
- 5 送信元 IP アドレスを選択して、**[オプションの選択]**で**[このアドレスを禁止]**をクリックします。
- 6 **[信用 IP アドレスルールを追加]**ダイアログで、確認のために**[はい]**をクリックします。

侵入検知イベントログからコンピュータを禁止

侵入検知イベントログから、コンピュータ接続とそのコンピュータに関連する IP アドレスを禁止できます。

- 1 **[McAfee SecurityCenter]**パネル(ウインドウ枠)の**[よく使う機能]**で、**[詳細メニュー]**をクリックします。
- 2 **[レポートとログ]**をクリックします。
- 3 **[最近のイベント]**で**[ログを表示]**をクリックします。
- 4 **[インターネットとネットワーク]**をクリックして、**[侵入検知イベント]**をクリックします。
- 5 送信元 IP アドレスを選択して、**[オプションの選択]**で**[このアドレスを禁止]**をクリックします。
- 6 **[禁止 IP アドレスルールを追加]**ダイアログで、確認のために**[はい]**をクリックします。

第 21 章

ログ記録、監視、分析

ファイアウォールには、インターネットイベントとトラフィックに対して、見やすいログ記録、監視機能、分析機能があります。インターネットトラフィックとイベントを理解すると、インターネット接続を管理しやすくなります。

このセクションの内容

イベントログを記録	112
統計を使用	114
インターネットトラフィックを追跡	115
インターネットトラフィックを監視	118

イベントログを記録

ファイアウォールにより、ログ記録を有効にするか無効にするかを指定できます。有効にした場合は、ログに記録するイベントタイプを指定できます。イベントログの記録では、最近の受信イベント、送信イベントおよび侵入イベントを表示できます。

イベントログの設定

記録するファイアウォールのイベントの種類を指定して設定できます。デフォルトでは、すべてのイベントおよびアクティビティに対してイベントログの記録が有効です。

- 1 [インターネットとネットワークの設定]パネルの[ファイアウォールによる保護が有効です]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [ファイアウォール]パネルで[イベントログ設定]をクリックします。
- 3 まだ選択していない場合は、[イベントログの有効化]を選択します。
- 4 [イベントログの有効化]で、記録するイベントの種類を選択し、記録しないイベントの種類を選択を解除します。イベントタイプには次のものがあります。
 - ブロックされたプログラム
 - ICMP ping
 - 禁止 IP アドレスからのトラフィック
 - システム サービス ポートのイベント
 - 不明なポートのイベント
 - 侵入検知システム (IDS) イベント
- 5 特定のポートのログ記録を行わないようにするには、[次のポートのイベントをログ記録しない]を選択し、カンマ区切りで単一のポート番号を続けて入力するか、ダッシュを使用してポート番号の範囲を入力します。たとえば 137-139、445、400-5000 のように入力します。
- 6 [OK]をクリックします。

最近のイベントを表示

ログ記録が有効な場合、最近のイベントを表示できます。[[最近のイベント]パネルには、イベントの日付と説明が表示されます。インターネットアクセスが明示的にブロックされたプログラムのアクティビティのみが表示されます。

- [詳細メニュー]の[よく使う機能]パネルで、[レポートとログ]または[最近のイベントの表示]をクリックします。または、標準メニューの[よく使う機能]パネルの[最近のイベントの表示]をクリックします。

受信イベントを表示

ログ記録が有効な場合、受信イベントを表示できます。受信イベントには、日時、送信元 IP アドレス、ホスト名、情報およびイベントの種類が含まれます。

- 1 [[詳細メニュー]が有効になっていることを確認してください。[よく使う機能]パネルで[レポートとログ]をクリックします。
- 2 [最近のイベント]で[ログを表示]をクリックします。
- 3 [インターネットとネットワーク]をクリックして、[受信イベント]をクリックします。

注: 受信イベントログから IP アドレスを信用、禁止、追跡できます。

送信イベントを表示

ログ記録が有効な場合、送信イベントを表示できます。送信イベントには、送信アクセスを行ったプログラム名、イベントの日時、コンピュータ上のプログラムの場所が含まれます。

- 1 [よく使う機能]パネルで[レポートとログ]をクリックします。
- 2 [最近のイベント]で[ログを表示]をクリックします。
- 3 [インターネットとネットワーク]をクリックして、[送信イベント]をクリックします。

注: 送信イベントログからすべてのアクセスまたは送信アクセスのみを許可できます。また、プログラムに関する詳細情報を検索することもできます。

侵入検知イベントを表示

ログ記録が有効な場合、受信侵入イベントを表示できます。侵入検知イベントには、イベントの日時、送信元 IP、ホスト名、種類が表示されます。

- 1 [よく使う機能]パネルで[レポートとログ]をクリックします。
- 2 [最近のイベント]で[ログを表示]をクリックします。
- 3 [インターネットとネットワーク]をクリックして、[侵入検知イベント]をクリックします。

注: 侵入検知イベントログから IP アドレスを禁止および追跡できます。

統計を使用

ファイアウォールは、マカフィーのセキュリティサイトである HackerWatch を活用して、世界中のインターネットのセキュリティイベントやポートアクティビティに関する統計を表示します。

世界中のセキュリティイベントの統計を表示

HackerWatch は世界中のインターネットのセキュリティイベントを追跡します。これらのイベントは McAfee SecurityCenter から表示できません。追跡された情報には、過去 24 時間、過去 7 日間、過去 30 日間で HackerWatch に報告された事象が表示されます。

- 1 詳細メニューが有効であることを確認し、[ツール]をクリックします。
- 2 [ツール]パネルで[HackerWatch]をクリックします。
- 3 [イベント追跡]に、セキュリティイベントの統計が表示されます。

世界中のインターネットのポートアクティビティを表示

HackerWatch は世界中のインターネットのセキュリティイベントを追跡します。これらのイベントは McAfee SecurityCenter から表示できません。表示される情報には、過去 7 日間に HackerWatch に報告された上位のポートが含まれます。通常は、HTTP、TCP、UDP ポートの情報が表示されます。

- 1 詳細メニューが有効であることを確認し、[ツール]をクリックします。
- 2 [ツール]パネルで[HackerWatch]をクリックします。
- 3 [最近行われたポート アクティビティ]に上位イベントポートのイベントが表示されます。

インターネットトラフィックを追跡

ファイアウォールには、インターネットトラフィックの追跡に関するさまざまなオプションがあります。これらのオプションを使用すると、ネットワークコンピュータを地理的に追跡したり、ドメイン情報やネットワーク情報を取得したり、受信イベントログおよび侵入検知イベントログからコンピュータを追跡できます。

ネットワークコンピュータを地理的に追跡

ビジュアル追跡機能は、コンピュータ名または IP アドレスを使用して、ご使用のコンピュータに接続または接続を試行しているコンピュータの地理的な場所を特定します。また、ビジュアル追跡機能を使用してネットワークや登録情報にアクセスすることもできます。ビジュアル追跡機能を実行すると世界地図が表示され、送信元コンピュータとご使用のコンピュータ間でデータが送受信されるときに使用される可能性が最も高いルートが表示されます。

- 1 詳細メニューが有効であることを確認し、[ツール]をクリックします。
- 2 [ツール]パネルで[ビジュアル追跡機能]をクリックします。
- 3 コンピュータの IP アドレスを入力して、[追跡]をクリックします。
- 4 [ビジュアル追跡機能] で [地図表示]を選択します。

注: ループ IP アドレス、プライベート IP アドレス、無効な IP アドレスのイベントは追跡できません。

コンピュータの登録情報を取得

ビジュアル追跡機能を使用して、McAfee SecurityCenter からコンピュータの登録情報を取得できます。情報には、ドメイン名、登録者名および住所、管理者連絡先などが含まれます。

- 1 詳細メニューが有効であることを確認し、[ツール]をクリックします。
- 2 [ツール]パネルで[ビジュアル追跡機能]をクリックします。
- 3 コンピュータの IP アドレスを入力して、[追跡]をクリックします。
- 4 [ビジュアル追跡機能]で[登録者表示]を選択します。

コンピュータのネットワーク情報を取得

ビジュアル追跡機能を使用して、McAfee SecurityCenter からコンピュータのネットワーク情報を取得できます。ネットワーク情報には、ドメインが存在するネットワークの詳細が含まれます。

- 1 詳細メニューが有効であることを確認し、[ツール]をクリックします。
- 2 [ツール]パネルで[ビジュアル追跡機能]をクリックします。
- 3 コンピュータの IP アドレスを入力して、[追跡]をクリックします。
- 4 [ビジュアル追跡機能]で[ネットワーク表示]を選択します。

受信イベントログからコンピュータを追跡

受信イベントログに表示される IP アドレスは [受信イベント] パネルから追跡できます。

- 1 [詳細メニュー]が有効になっていることを確認してください。[よく使う機能]パネルで[レポートとログ]をクリックします。
- 2 [最近のイベント]で[ログを表示]をクリックします。
- 3 [インターネットとネットワーク]をクリックして、[受信イベント]をクリックします。
- 4 [受信イベント]パネルで送信元 IP アドレスを選択し、[このアドレスを追跡]をクリックします。
- 5 [ビジュアル追跡機能]パネルで、次のいずれかの操作を実行します。
 - **地図表示:** 選択された IP アドレスからコンピュータの地理的な場所を特定します。
 - **登録者表示:** 選択した IP アドレスを使用してドメイン情報を特定します。
 - **ネットワーク表示:** 選択した IP アドレスを使用してネットワーク情報を特定します。
- 6 [終了]をクリックします。

侵入検知イベントログからコンピュータを追跡

侵入検知イベントログに表示される IP アドレスは [侵入検知イベント] パネルから追跡できます。

- 1 [よく使う機能]パネルで[レポートとログ]をクリックします。
- 2 [最近のイベント]で[ログを表示]をクリックします。
- 3 [インターネットとネットワーク]をクリックして、[侵入検知イベント]をクリックします。[侵入検知イベント]パネルで送信元 IP アドレスを選択し、[このアドレスを追跡]をクリックします。
- 4 [ビジュアル追跡機能]パネルで、次のいずれかの操作を実行します。
 - **地図表示:** 選択された IP アドレスからコンピュータの地理的な場所を特定します。
 - **登録者表示:** 選択した IP アドレスを使用してドメイン情報を特定します。
 - **ネットワーク表示:** 選択した IP アドレスを使用してネットワーク情報を特定します。
- 5 [終了]をクリックします。

監視対象の IP アドレスを追跡

監視対象の IP アドレスを追跡して地理的な場所を特定できます。地図には、送信元コンピュータからご使用のコンピュータにデータが送信されるときに、使用される可能性が最も高いルートが表示されます。また、IP アドレスの登録情報とネットワーク情報も取得できます。

- 1 詳細メニューが有効であることを確認し、[ツール]をクリックします。
- 2 [ツール]パネルで[トラフィックの監視]をクリックします。
- 3 [トラフィックの監視]で[アクティブなプログラム]をクリックします。
- 4 プログラムを選択し、プログラム名の下に表示される IP アドレスを選択します。
- 5 [プログラムアクティビティ]で[この IP を追跡]をクリックします。
- 6 [ビジュアル追跡機能]に、発信元コンピュータからご使用のコンピュータにデータが送信されるときに使用される可能性が最も高いルートが表示されます。また、IP アドレスの登録情報とネットワーク情報も取得できます。

注: 最新の統計を表示するには、[ビジュアル追跡機能]で[更新]をクリックします。

インターネットトラフィックを監視

ファイアウォールには、インターネットトラフィックを監視するための次のような方法があります。

- **トラフィックの分析グラフ**: 受信、送信にかかわらず最近のすべてのインターネットトラフィックが表示されます。
- **トラフィックの使用状況グラフ**: 過去 24 時間で最もアクティブなプログラムにより使用された帯域幅の使用率が表示されます。
- **アクティブなプログラム**: 現在ネットワーク接続を頻繁に行っているプログラムと、そのプログラムがアクセスしている IP アドレスが表示されます。

トラフィックの分析グラフについて

[トラフィック分析]グラフには、受信トラフィックと送信トラフィックが数値とグラフで表示されます。また、トラフィック監視機能を使用すると、現在ネットワーク接続を頻繁に行っているアプリケーションと、そのアプリケーションがアクセスしている IP アドレスを確認することができます。

[トラフィック分析]パネルから、最近のすべてのインターネットトラフィック、現在の転送速度、平均転送速度、最大転送速度を表示できます。また、ファイアウォールを起動してからのトラフィック量や、現在または前の月のトラフィックの合計など、トラフィック量を表示することもできます。

[トラフィック分析]パネルにはコンピュータのインターネットアクティビティがリアルタイムで表示され、最近の受信/送信インターネットトラフィックの量と割合、接続の速度、インターネットに転送された合計バイト数が表示されます。

緑色の実線は、受信トラフィックの現在の転送速度を表します。緑色の点線は、受信トラフィックの平均転送速度を表します。現在の転送速度と平均転送速度が同じである場合、点線はグラフに表示されません。実線が現在の転送速度と平均転送速度の両方を示します。

赤い実線は、送信トラフィックの現在の転送速度を表します。赤い点線は、送信トラフィックの平均転送速度を表します。現在の転送速度と平均転送速度が同じである場合、点線はグラフに表示されません。実線が現在の転送速度と平均転送速度の両方を示します。

受信トラフィックと送信トラフィックを分析

[トラフィック分析]グラフには、受信トラフィックと送信トラフィックが数値とグラフで表示されます。また、トラフィック監視機能を使用すると、現在ネットワーク接続を頻繁に行っているアプリケーションと、そのアプリケーションがアクセスしている IP アドレスを確認することができます。

- 1 詳細メニューが有効であることを確認し、[ツール]をクリックします。
- 2 [ツール]パネルで[トラフィックの監視]をクリックします。
- 3 [トラフィックの監視]で[トラフィックの分析]をクリックします。

ヒント: 最新の統計を表示するには、[トラフィックの分析]で[更新]をクリックします。

プログラムの帯域幅を監視

円グラフを表示して、過去 24 時間で最もアクティブなプログラムにより使用された帯域幅のおよその使用率を確認できます。グラフには、プログラムによる帯域幅の相対使用量が視覚的に表示されます。

- 1 詳細メニューが有効であることを確認し、[ツール]をクリックします。
- 2 [ツール]パネルで[トラフィックの監視]をクリックします。
- 3 [トラフィックの監視]で[トラフィックの使用状況]をクリックします。

ヒント: 最新の統計を表示するには、[トラフィックの使用状況]で[更新]をクリックします。

プログラムアクティビティを監視

内向きおよび外向きのプログラムアクティビティを表示できます。リモートコンピュータの接続とポートが表示されます。

- 1 詳細メニューが有効であることを確認し、[ツール]をクリックします。
- 2 [ツール]パネルで[トラフィックの監視]をクリックします。
- 3 [トラフィックの監視]で[アクティブなプログラム]をクリックします。
- 4 次の情報を表示できます。
 - プログラム アクティビティ グラフ: アクティビティのグラフを表示するプログラムを選択します。
 - 受信中の接続: プログラム名の下から受信中の項目を選択します。
 - コンピュータ接続: プログラム名、システムプロセス、サービスの下から IP アドレスを選択します。

注: 最新の統計を表示するには、[アクティブなプログラム]で[更新]をクリックします。

第 22 章

インターネットセキュリティについての確認

ファイアウォールは、マカフィーのセキュリティサイトである HackerWatch を活用して、プログラムと世界中のインターネット活動に関する最新の情報を提供します。HackerWatch には、ファイアウォールに関する HTML チュートリアルも提供されます。

このセクションの内容

HackerWatch チュートリアルを起動..... 122

HackerWatch チュートリアルを起動

McAfee SecurityCenter から HackerWatch にアクセスし、ファイアウォールについて学ぶことができます。

- 1 詳細メニューが有効であることを確認し、[ツール]をクリックします。
- 2 [ツール]パネルで[HackerWatch]をクリックします。
- 3 [HackerWatch リソース]で[チュートリアルの表示]をクリックします。

第 23 章

McAfee Anti-Spam

McAfee Anti-Spam (以前の製品名は McAfee SpamKiller) では、受信メールを検証して迷惑メール (広告メール) またはフィッシング詐欺メール (不正な可能性のある Web サイトを使用して個人情報を取得しようとするメール) としてマークすることにより、不要な E メール受信を防止します。McAfee Anti-Spam により迷惑メールはフィルタリングされ、McAfee Anti-Spam フォルダに移動されます。

友人が送信した正当なメッセージが迷惑メールとして判別される可能性がある場合、友人の E メールアドレスを McAfee Anti-Spam の友人リストに追加することにより、確実にフィルタリングされないようにすることができます。迷惑メールの検出方法をカスタマイズすることもできます。たとえば、より厳しくメッセージをフィルタリングし、検索内容を指定し、独自のフィルタを作成できます。

また McAfee Anti-Spam では、E メールメッセージ内のリンクを介して、不正な可能性のある Web サイトにユーザがアクセスしようとした場合にも保護します。不正な可能性のある Web サイトをクリックすると、フィッシング詐欺フィルタの安全なページにリダイレクトされます。フィルタリングしない Web サイトがある場合は、それらをホワイトリスト (このリスト内の Web サイトはフィルタリングされません) に追加できます。

McAfee Anti-Spam は、POP3、POP3 Webmail、Yahoo[®]、MSN[®]/Hotmail[®]、Windows[®] Live™ Mail、および MAPI (Microsoft Exchange サーバ) のアカウントなどさまざまな E メールプログラムと連動します。E メールを読むためにブラウザを使用する場合は、Web メールアカウントを McAfee Anti-Spam に追加する必要があります。他のアカウントは自動的に設定されるので、McAfee Anti-Spam に追加する必要はありません。

注: McAfee SecurityCenter は、問題を検出するとただちに重要な問題かどうかをレポートします。保護の問題を診断する上で詳細情報が必要な場合は、McAfee Virtual Technician を実行します。

このセクションの内容

McAfee Anti-Spamの機能	124
Webメールアカウントの設定	125
友人を設定	131
スパム検出の設定	137
Eメールのフィルタリング	145
フィルタリングされたEメールの使用	149
フィッシング詐欺対策の設定	151

McAfee Anti-Spam の機能

McAfee Anti-Spam には、次の機能が搭載されています。

迷惑メールのフィルタリング

McAfee Anti-Spam の高度なフィルタは、不要な E メールが受信ボックスに配信されるのを防止し、すべての E メールアカウントに対して自動的に更新されます。また、すべての迷惑メールがフィルタリングされたことを確認するためにカスタムフィルタを作成でき、分析のために迷惑メールをマカフィーに報告できます。

フィッシング詐欺フィルタリング

フィッシング詐欺フィルタでは、個人情報を搾取しようとするフィッシング詐欺の可能性のある Web サイトを識別します。

カスタマイズされた迷惑メールの処理

不要な E メールを迷惑メールとしてマークして McAfee Anti-Spam フォルダに移動するか、正当な E メールとしてマークして受信ボックスに移動します。

友人

友人からの Eメールのメッセージがフィルタリングされないように、その友人の Eメールアドレスを友人リストにインポートします。

リスト項目を関連性で並べ替え

パーソナルフィルタ、友人、アドレス帳、および Web メールアカウントを関連性で並べ替えることができます。

その他のサポート

McAfee Anti-Spam では、Mozilla® Thunderbird™ 1.5 および 2.0 をサポートし、Windows Mail に対して Windows Vista™ 64-bit のサポートを提供します。また、新しいゲームモード機能により、ビデオゲーム中や DVD の鑑賞中にコンピュータの動作が遅くならないよう、McAfee Anti-Spam のバックグラウンド処理が中止されます。また、McAfee Anti-Spam は、SSL (Secure Socket Layer) ポートを含むすべてのポート上の Microsoft® Outlook®、Outlook Express、または Windows Mail のアカウントをフィルタリングします。

第 24 章

Web メールアカウントの設定

E メールを読むためにブラウザを使用する場合は、McAfee Anti-Spam をアカウントに接続するように設定してメッセージをフィルタリングする必要があります。Web メールアカウントを McAfee Anti-Spam に追加するには、E メールプロバイダから提供されたアカウント情報を追加します。

Web メールアカウントを追加すると、アカウント情報を編集してフィルタリングされた Web メールの詳細を取得できます。使用していないまたはフィルタリングが必要ない Web メールアカウントがある場合は、その Web メールアカウントを削除できます。

McAfee Anti-Spam は、POP3、POP3 Webmail、Yahoo®、MSN/Hotmail、Windows Live Mail、および MAPI のアカウントなどさまざまな E メールプログラムと連動します。POP3 は最も一般的なアカウントタイプで、インターネット Eメールの標準です。POP3 アカウントを持っている場合、McAfee Anti-Spam が E メールサーバに直接接続され、使用している E メールプログラムがメッセージを取得する前にメッセージがフィルタリングされます。POP3 Web メール、Yahoo、MSN/Hotmail および Windows Mail のアカウントは Web ベースの E メールアカウントです。POP3 Web メールアカウントのフィルタリングは、POP3 アカウントのフィルタリングと同様です。MAPI は Microsoft によって設計されたシステムで、インターネット Eメール、ファックス、Exchange Server メッセージングなど、さまざまなタイプのメッセージングをサポートしています。現在 Microsoft Outlook のみが MAPI のアカウントと直接連動します。

注:McAfee Anti-Spam により MAPI のアカウントにアクセスできませんが、Microsoft Outlook でメッセージを取得するまで E メールをフィルタリングできません。

このセクションの内容

Webメールアカウントを追加	126
Webメールアカウントを編集	126
Webメールアカウントを削除	127
Webメールのアカウント情報について	128

Web メールアカウントを追加

アカウント内のメッセージを迷惑メールに対してフィルタリングする場合は、POP3(Yahoo など)、MSN/Hotmail、または Windows Mail(完全にサポートされるのは有料バージョンのみ) Web メールアカウントを追加します。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージング]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージング]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージングの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[Web メールアカウント]をクリックします。
 - 3 [Web メールアカウント]パネルで、[追加]をクリックします。
 - 4 **アカウント情報**(128 ページを参照)を指定して、[次へ]をクリックします。
 - 5 [確認オプション]で、**McAfee Anti-Spam**を使用してアカウントの**迷惑メールを確認する場合** (128 ページを参照)を指定します。
 - 6 ダイアルアップ接続を使用している場合は、**McAfee Anti-Spam**の**インターネット接続方法**(128 ページを参照)を指定します。
 - 7 [完了]をクリックします。

Web メールアカウントを編集

アカウントに変更が発生した場合は、Web メールアカウント情報を編集する必要があります。たとえば、パスワードを変更する場合、またはより頻繁に McAfee Anti-Spam を使用して迷惑メールを確認する場合は、Web メールアカウントを編集します。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージ]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージ]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[Web メールアカウント]をクリックします。
 - 3 変更するアカウントを選択し、[編集]をクリックします。
 - 4 アカウント情報(128 ページを参照)を指定して、[次へ]をクリックします。
 - 5 [確認オプション]で、McAfee Anti-Spamを使用してアカウントの迷惑メールを確認する場合(128 ページを参照)を指定します。
 - 6 ダイアルアップ接続を使用している場合は、McAfee Anti-Spam のインターネット接続方法(128 ページを参照)を指定します。
 - 7 [完了]をクリックします。

Web メールアカウントを削除

Web メールアカウントの E メールをフィルタリングする必要がない場合は、その Web メールアカウントを削除します。たとえば、アカウントが有効でない場合または問題がある場合は、問題を解決している間にそのアカウントを削除できます。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージ]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージ]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[Web メールアカウント]をクリックします。
 - 3 削除するアカウントを選択し、[削除]をクリックします。

Web メールアカウント情報について

以下の表に、Web メールアカウントを追加または編集する場合に指定する必要のある情報を示します。

アカウント情報

情報	説明
説明	参考のためにアカウントを説明します。このフィールドには任意の情報を入力できます。
電子メール アドレス	E メールアカウントに関連する E メールアドレスを指定します。
アカウントタイプ	追加する E メールアカウントの種類を指定します。(POP3 Web メールまたは MSN/Hotmail など)
サーバ	アカウントのホストであるメールサーバの名前を入力します。サーバ名を知らない場合は、インターネット サービス プロバイダ (ISP) に提供された情報を参照してください。
ユーザ名	E メールアカウントのユーザ名を入力します。たとえば、E メールアドレスが username@hotmail.com である場合、ユーザ名は username のようになります。
パスワード	E メールアカウントのパスワードを入力します。
パスワードの確認	E メールアカウントのパスワードを確認します。

確認オプション

オプション	説明
確認頻度	McAfee Anti-Spam は、指定した間隔(分単位)でこのアカウントの迷惑メールを確認します。間隔は 5 分から 3600 分の間である必要があります。
スタートアップで確認	McAfee Anti-Spam は、コンピュータの再起動時に毎回アカウントを確認します。

接続オプション

オプション	説明
ダイヤルアップ接続しない	McAfee Anti-Spam は自動的にインターネットにダイヤルしません。ダイヤルアップ接続を手動で行う必要があります。
接続を利用できないときにダイヤルアップ接続する	インターネット接続が無効になっている場合は、McAfee Anti-Spam は指定のダイヤルアップ接続に接続します。
指定された接続先に常にダイヤルアップ接続する	McAfee Anti-Spam は、指定のダイヤルアップ接続に接続します。指定したダイヤルアップ接続とは異なるダイヤルアップ接続を現在使用している場合は、接続が切断されます。
この接続先にダイヤルアップ接続する	McAfee Anti-Spam がインターネットに接続する場合に使用するダイヤルアップ接続を指定します。
フィルタリングが完了したあとも接続を維持する	フィルタリングが完了したあともインターネット接続は維持されます。

第 25 章

友人を設定

友人からの正当な E メールが McAfee Anti-Spam によりフィルタリングされないように、その友人のアドレスを McAfee Anti-Spam の友人リストに追加できます。

友人リストを更新する最も簡単な方法は、McAfee Anti-Spam にアドレス帳を追加して、すべての友人の E メールアドレスをインポートすることです。アドレス帳を追加すると、スケジュールで設定した間隔（毎日、毎週または毎月）でコンテンツが自動的にインポートされ、友人リストの内容が古いままになることを防ぎます。

McAfee Anti-Spam の友人リストを手動で更新でき、またはドメイン上の各ユーザを友人リストに追加する場合はドメイン全体を追加することもできます。たとえば、company.com というドメインを追加する場合、その組織からの E メールはフィルタリングされません。

このセクションの内容

友人を自動で設定	132
友人を手動で設定	134

友人を自動で設定

アドレス帳を McAfee Anti-Spam に追加することで、友人リストを自動的に更新します。アドレス帳を追加すると、McAfee Anti-Spam により対応する E メールアドレスがインポートされ、それらのアドレスに友人リストが移入されます。

アドレス帳を追加した後、友人リストにアドレス帳のコンテンツをインポートする頻度を変更できます。コンテンツをインポートする必要がない場合は、アドレス帳を削除することもできます。

アドレス帳を追加

アドレス帳を追加して、自動的にすべての E メールアドレスが McAfee Anti-Spam にインポートされ、友人リストが更新されるようにします。これにより、友人リストを常に最新の状態に維持できます。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージ]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージ]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[アドレス帳]をクリックします。
 - 3 [アドレス帳]パネルで[追加]をクリックします。
 - 4 [種類]リストで、インポートするアドレス帳の種類をクリックします。
 - 5 [場所]リストが移入されたら、アドレス帳の対象ファイルを選択します。たとえば、Outlook のアドレス帳がある場合は、リストから Outlook を選択する必要があります。
 - 6 [スケジュール]リストで[毎日]、[毎週]または[毎月]をクリックし、McAfee Anti-Spam によりアドレス帳の新しいアドレスを確認する頻度を決定します。
 - 7 [OK]をクリックします。

アドレス帳を編集

アドレス帳を追加した後、インポートの詳細およびスケジュールを変更できます。たとえば、McAfee Anti-Spam を使用してより頻繁に新しいアドレスを確認する場合は、アドレス帳を編集します。

- 1 [迷惑メール対策] パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の [ホーム] パネルで [E メールとメッセージ] をクリックします。
 2. [E メールとメッセージ] の情報領域で、[設定] をクリックします。
 3. [E メールとメッセージの設定] パネルの [スパム対策] で、[詳細設定] をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策] パネルで [アドレス帳] をクリックします。
 - 3 編集するアドレス帳を選択し、[編集] をクリックします。
 - 4 [種類] リストで、インポートするアドレス帳の種類をクリックします。
 - 5 [場所] リストが移入されたら、アドレス帳の対象ファイルを選択します。たとえば、Outlook のアドレス帳がある場合は、リストから Outlook を選択する必要があります。
 - 6 [スケジュール] リストで [毎日]、[毎週] または [毎月] をクリックし、McAfee Anti-Spam によりアドレス帳の新しいアドレスを確認する頻度を決定します。
 - 7 [OK] をクリックします。

アドレス帳を削除

McAfee Anti-Spam によりアドレス帳からアドレスを自動的にインポートする必要がない場合は、アドレス帳を削除できます (アドレス帳が古くなり、使用しない場合など)。

- 1 [迷惑メール対策] パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の [ホーム] パネルで [E メールとメッセージ] をクリックします。
 2. [E メールとメッセージ] の情報領域で、[設定] をクリックします。
 3. [E メールとメッセージの設定] パネルの [スパム対策] で、[詳細設定] をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策] パネルで [アドレス帳] をクリックします。
 - 3 削除するアドレス帳を選択し、[削除] をクリックします。

友人を手動で設定

エントリーを1つずつ編集することにより、友人リストを手動で更新できます。たとえば、アドレス帳にアドレスが登録されていない友人からEメールを受信した場合、すぐにその友人のEメールアドレスを手動で追加できます。McAfee Anti-Spam ツールバーを使用すると、簡単にこれを実行できます。McAfee Anti-Spam ツールバーを使用しない場合は、友人の詳細を入力する必要があります。

McAfee Anti-Spam ツールバーから友人を追加

Outlook、Outlook Express、Windows Mail、Eudora™またはThunderbirdを使用している場合、McAfee Anti-Spam ツールバーから友人を直接追加できます。

友人を追加するには	メッセージを選択し、次の操作を実行します。
Outlook、Outlook Express、Windows Mail	[友人を追加]をクリックします。
Eudora、Thunderbird	[Anti-Spam]メニューで、[友人を追加]をクリックします。

友人を手動で追加

Eメールを受信したときにツールバーから直接友人を追加しない場合、またはツールバーから直接友人を追加し忘れてしまった場合でも、McAfee Anti-Spam によりアドレス帳が自動的にインポートされる前に、友人を友人リストに追加できます。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[Eメールとメッセンジャー]をクリックします。
2. [Eメールとメッセンジャー]の情報領域で、[設定]をクリックします。
3. [Eメールとメッセンジャーの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[友人]をクリックします。
- 3 [友人]パネルで[追加]をクリックします。
- 4 [名前]ボックスに友人の名前を入力します。
- 5 [種類]リストの[1つのEメールアドレス]を選択します。
- 6 [Eメールアドレス]ボックスに友人のEメールアドレスを入力します。
- 7 [OK]をクリックします。

ドメインを追加

友人リストにドメイン上のすべてのユーザを追加する場合は、ドメイン全体を追加します。たとえば、company.com というドメインを追加する場合、その組織からの E メールはフィルタリングされません。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージ]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージ]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[友人]をクリックします。
 - 3 [友人]パネルで[追加]をクリックします。
 - 4 [名前]ボックスに組織またはグループの名前を入力します。
 - 5 [種類]リストの[ドメイン全体]を選択します。
 - 6 [E メールアドレス]ボックスにドメイン名を入力します。
 - 7 [OK]をクリックします。

友人を編集

友人の情報に変更があった場合、McAfee Anti-Spam によりその友人からのメッセージが迷惑メールとしてマークされないことを確実にするためにリストを更新できます。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージ]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージ]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[友人]をクリックします。
 - 3 編集する友人を選択し、[編集]をクリックします。
 - 4 [名前]ボックスの友人の名前を変更します。
 - 5 [E メールアドレス]ボックスの友人の E メールアドレスを変更します。
 - 6 [OK]をクリックします。

ドメインを編集

ドメインの情報に変更があった場合、McAfee Anti-Spam によりそのドメインからのメッセージが迷惑メールとしてマークされないことを確実にするためにリストを更新できます。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージ]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージ]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[友人]をクリックします。
 - 3 [友人]パネルで[追加]をクリックします。
 - 4 [名前]ボックスの組織またはグループの名前を変更します。
 - 5 [種類]リストの[ドメイン全体]を選択します。
 - 6 [E メールアドレス]ボックスでドメイン名を変更します。
 - 7 [OK]をクリックします。

友人を削除

友人リスト内の個人またはドメインから迷惑メールが送信された場合は、その送信元からの E メールが再度フィルタリングされるように McAfee Anti-Spam の友人リストから削除します。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージ]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージ]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[友人]をクリックします。
 - 3 削除する友人を選択し、[削除]をクリックします。

第 26 章

スパム検出の設定

McAfee Anti-Spam により迷惑メールの検出方法をカスタマイズすることもできます。メッセージのフィルタリングを強化し、検索内容を指定して、迷惑メールを分析する際に特定の文字セットを検索できます。また、McAfee Anti-Spam により迷惑メールとして識別されるメッセージの詳細を設定するパーソナルフィルタを作成できます。たとえば、「住宅ローン」という語句が含まれる不要な E メールがフィルタリングされていない場合、「住宅ローン」という語句を含むフィルタを追加できます。

E メールに問題がある場合は、トラブルシューティングの方法の一部として迷惑メール対策を無効にできます。

このセクションの内容

迷惑メール対策を無効化	137
フィルタリングオプションの設定	138
パーソナルフィルタの使用	142

迷惑メール対策を無効化

迷惑メール対策を無効にして、McAfee Anti-Spam による Eメールのフィルタリングを一時停止できます。

- 1 詳細メニューで[設定]をクリックします。
- 2 [設定]パネルで[Eメールとメッセージャー]をクリックします。
- 3 [迷惑メール対策]で[オフ]をクリックします。

ヒント:迷惑メールから保護されるように[迷惑メール対策]の[オン]をクリックしてください。

フィルタリングオプションの設定

より厳しくメッセージをフィルタリングし、検索内容指定し、迷惑メールを分析する場合の特定の文字セットを検索する場合は、McAfee Anti-Spam のフィルタリングオプションを調整します。

フィルタリングレベル

フィルタリングレベルにより、E メールをどの程度厳しくフィルタリングするかが決定されます。たとえば、迷惑メールがフィルタリングされずフィルタリングレベルが中レベルに設定されている場合は、レベルを高レベルに変更できます。ただし、フィルタリングレベルが高レベルに設定されている場合は、友人リストにある送信者からの E メールのみが受信されます。それ以外はすべてフィルタリングされます。

特別フィルタ

フィルタによって、McAfee Anti-Spam が確認する E メールメッセージの内容が指定されます。特別フィルタにより、隠しテキスト、埋め込まれた画像、意図的な HTML フォーマットエラーおよびスパム送信者により一般的に使用されるその他の手法が検出されます。これらの属性を持つ E メールは通常迷惑メールなので、特別フィルタは標準設定で有効です。たとえば、埋め込まれた画像を含む E メールを受信する場合は、画像の特別フィルタを無効にする必要があります。

文字セット

McAfee Anti-Spam により、迷惑メールを分析する場合の特定の文字セットを検索できます。文字セットは、アルファベット、数値、その他の記号など、言語を表す場合に使用されます。ギリシャ語で迷惑メールを受信した場合は、ギリシャ語の文字セットを含むすべてのメッセージをフィルタリングできます。

ただし、正当なメールを受信する言語に対する文字セットはフィルタリングしないでください。たとえば、イタリア語のメッセージのみをフィルタリングする場合は、イタリアは西ヨーロッパ系言語に含まれるので[西ヨーロッパ系言語]を選択します。ただし、英語で正当な E メールを受信する場合は、[西ヨーロッパ系言語]を選択すると、英語や西ヨーロッパ系言語の文字セットを持つその他の言語もフィルタリングされます。このような場合、イタリア語のメッセージのみをフィルタリングすることはできません。

注: 特定の文字セットからの文字を含むメッセージのフィルタリングは、上級者のみにお勧めします。

フィルタリングレベルを変更

E メールをどの程度厳しくフィルタリングするかを変更できます。たとえば、受信すべきメッセージが迷惑メールと判別されている場合、フィルタリングレベルを下げるすることができます。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージ]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージ]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[フィルタリングオプション]をクリックします。
 - 3 [フィルタリングオプション]で、適切なレベルにスライダを移動し、[OK]をクリックします。

レベル	説明
低	ほとんどの E メールが許可されます。
中-低	明らかに迷惑メールであるメッセージのみがフィルタリングされます。
中	Eメールのフィルタリングオプションが推奨レベルに設定されます。
中-高	迷惑メールに似ている E メールはすべてフィルタリングされます。
高	友人リストにある送信者からのメッセージのみが許可されます。

特別フィルタを無効化

特別フィルタは、スパム送信者が通常送信するメッセージをフィルタリングするため、標準設定で有効です。たとえば、埋め込み画像が含まれる E メールは大抵迷惑メールですが、埋め込み画像のある正当な E メールを受信することがある場合は、画像の特別フィルタを無効にします。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージャー]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージャー]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージャーの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[フィルタリングオプション]をクリックします。
 - 3 [特別フィルタ]で、適切なチェックボックスを選択または選択を解除して、[OK]をクリックします。

フィルタ	説明
隠しテキストを含むメッセージをフィルタリングします。	隠しテキストを含むメッセージは、迷惑メールのフィルタリングを回避するためにスパム送信者によって頻繁に使用されるため、隠しテキストを検索します。
テキストに対して特定の比率の画像を含むメッセージをフィルタリングします。	埋め込まれた画像を含むメッセージは通常迷惑メールであるため、埋め込まれた画像を検索します。
意図的な HTML フォーマットエラーを含むメッセージをフィルタリングします。	無効なフォーマットは迷惑メールのフィルタリングを回避するために使用されるため、無効なフォーマットを含むメッセージを検索します。
次のサイズを超えるメッセージはフィルタしません。	大きいサイズのメッセージは迷惑メールではない可能性があるため、指定したサイズより大きいメッセージは検索しません。メッセージサイズの値は変更できます (有効な範囲は 0 ~ 250 KB)。

文字セットのフィルタを適用

注: 特定の文字セットからの文字を含むメッセージのフィルタリングは、上級者のみにお勧めします。

特定の言語の文字セットをフィルタリングできます。ただし、正当なメールを受信する言語に対する文字セットはフィルタリングしないでください。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージャー]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージャー]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージャーの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[文字セット]をクリックします。
 - 3 フィルタリングする文字セットの横のチェックボックスをオンにします。
 - 4 [OK]をクリックします。

パーソナルフィルタの使用

フィルタによって、McAfee Anti-Spamが確認するEメールメッセージの内容が指定されます。迷惑メールが検出されると、そのメッセージは迷惑メールとしてマークされ、受信箱に残されるかMcAfee Anti-Spamフォルダに移動されます。迷惑メールの処理方法の詳細については、146 ページの「**メッセージを処理およびマークする方法を変更**」を参照してください。

標準設定では、McAfee Anti-Spam で多くのフィルタが使用されますが、新しいフィルタを作成するか、既存のフィルタを編集することによって、迷惑メールとして識別するメッセージの詳細を設定できます。たとえば、「住宅ローン」という語句が含まれるフィルタを追加すると、McAfee Anti-Spam は「住宅ローン」という語句が含まれるメッセージをフィルタリングします。迷惑メールではない E メールにも使用される一般的な言葉については、迷惑メールとしてフィルタリングされることのないよう、フィルタを作成しないことをお勧めします。フィルタを作成した後、フィルタリングされていない迷惑メールがある場合はフィルタを編集できます。たとえば、メッセージの件名にあるバイアグラという単語を検索するフィルタを作成したけれども、メッセージの本文にバイアグラという単語を含むメッセージを受信している場合は、メッセージの件名ではなく、メッセージの本文にあるバイアグラという単語を検索するようにフィルタを変更します。

正規表現(RegEx)は、パーソナルフィルタで使用できる特別な文字および文字列ですが、上級者にのみ正規表現の使用をお勧めします。正規表現を理解していない場合、または正規表現に使用の詳細を知りたい場合は、Web で正規表現について調べることができます (http://en.wikipedia.org/wiki/Regular_expression などにアクセスしてください)。

パーソナルフィルタを追加

McAfee Anti-Spam により迷惑メールとして識別されるメッセージの詳細を設定するフィルタを追加することもできます。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージャー]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージャー]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージャーの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[パーソナルフィルタ]をクリックします。
 - 3 [追加]をクリックします。

- 4 Eメール内のパーソナルフィルタが検索する内容を指定します。
(144 ページを参照)

- 5 [OK]をクリックします。

パーソナルフィルタを編集

迷惑メールとして識別されるメッセージの詳細を設定する既存のフィルタを編集します。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージャー]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージャー]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージャーの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[パーソナルフィルタ]をクリックします。
 - 3 編集する友人を選択し、[編集]をクリックします。
 - 4 Eメール内のパーソナルフィルタが検索する内容を指定します。
(144 ページを参照)
 - 5 [OK]をクリックします。

パーソナルフィルタを削除

不要になったフィルタは永久に削除することができます。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージャー]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージャー]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージャーの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[パーソナルフィルタ]をクリックします。
 - 3 削除するフィルタを選択し、[削除]をクリックします。
 - 4 [OK]をクリックします。

パーソナルフィルタの指定

以下の表に、パーソナルフィルタにより検索される E メール内の内容を示します。

情報	説明
アイテム	いずれかの項目をクリックし、メッセージの件名、本文、ヘッダ、送信者に含まれる単語または語句を検索するかどうかを決定します。
状況	いずれかの項目をクリックし、指定した単語または語句が含まれるメッセージを検索するか、または含まれないメッセージを検索するかどうかを決定します。
単語または語句	検索内容を入力します。たとえば、「住宅ローン」と指定した場合、「住宅ローン」という単語を含むメッセージがすべてフィルタリングされます。
このフィルタでは正規表現 (RegEx) を使用しません	フィルタ条件で使用される文字パターンを指定します。文字パターンをテストするには、[テスト]をクリックします。

第 27 章

Eメールのフィルタリング

McAfee Anti-Spam は、受信メールを検証し、迷惑メール(広告メール)、またはフィッシング詐欺メール(不正な可能性のある Web サイトを使用して個人情報取得しようとするメール)として分類します。標準設定では、不要な各 E メールは迷惑メールまたはフィッシング詐欺メールとしてマーク([SPAM]タグまたは[PHISH]タグがメッセージの件名に表示されます)され、McAfee Anti-Spam フォルダに移動されます。

McAfee Anti-Spam による Eメールのフィルタリング方法をカスタマイズするには、McAfee Anti-Spam ツールバーから Eメールを迷惑メールまたは非迷惑メールとしてマークするか、迷惑メールの移動先を変更するか、または件名に表示されるタグを変更します。

迷惑メールの処理方法およびマーキング方法を変更するには、迷惑メールやフィッシング詐欺メールの移動先をカスタマイズし、件名に表示されるタグの名前をカスタマイズできます。

また、Eメールのプログラムに問題がある場合は、トラブルシューティングの方法の一部として McAfee Anti-Spam ツールバーを無効にできます。

このセクションの内容

McAfee Anti-Spam ツールバーからメッセージをマーク	146
メッセージを処理およびマークする方法を変更	146
McAfee Anti-Spam ツールバーを無効化	147

McAfee Anti-Spam ツールバーからメッセージをマーク

迷惑メールとしてメッセージをマークすると、メッセージには[SPAM]タグまたは選択したタグが追加され、受信ボックス、McAfee Anti-Spam フォルダ (Outlook、Outlook Express、Windows Mail、Thunderbird の場合)、または Junk フォルダ (Eudora® の場合) に保存されます。非迷惑メールとしてメッセージをマークすると、メッセージタグが削除され、メッセージは受信ボックスに移動されます。

メッセージをマークするには	メッセージを選択し、次の操作を実行します。
Outlook、Outlook Express、Windows Mail	[迷惑メールとしてマーク]または[非迷惑メールとしてマーク]をクリックします。
Eudora、Thunderbird	[Anti-Spam]メニューで、[迷惑メールとしてマーク]または[非迷惑メールとしてマーク]をクリックします。

メッセージを処理およびマークする方法を変更

迷惑メールのメッセージを処理したり迷惑メールとしてマークする方法は、変更できます。たとえば、E メールを受信ボックスに残すか、または McAfee Anti-Spam フォルダに残すかを決定でき、メッセージの件名に表示される[SPAM]タグまたは[PHISH]タグを変更できます。

1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

- McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージング]をクリックします。
- [E メールとメッセージング]の情報領域で、[設定]をクリックします。
- [E メールとメッセージングの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。

2 [迷惑メール対策]パネルで[処理]をクリックします。

3 適切なチェックボックスを選択または選択を解除して、[OK]をクリックします。

オプション	説明
迷惑メールとしてマークして McAfee Anti-Spam フォルダに移動	これは標準設定です。迷惑メールメッセージは McAfee Anti-Spam フォルダに移動されます。
迷惑メールとしてマークして受信ボックスに残す	迷惑メールメッセージは受信ボックスに保存されます。

オプション	説明
迷惑メールの件名にカスタマイズ可能な次のタグを追加	指定したタグが迷惑メールメッセージの件名に追加されます。
フィッシング詐欺メールの件名にカスタマイズ可能な次のタグを追加	指定したタグがフィッシング詐欺メッセージの件名に追加されます。

McAfee Anti-Spam ツールバーを無効化

Outlook、Outlook Express、Windows Mail、Eudora または Thunderbird を使用している場合は、McAfee Anti-Spam ツールバーを無効にできます。

- 1 [迷惑メール対策] パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の [ホーム] パネルで [E メールとメッセンジャー] をクリックします。
 2. [E メールとメッセンジャー] の情報領域で、[設定] をクリックします。
 3. [E メールとメッセンジャーの設定] パネルの [スパム対策] で、[詳細設定] をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策] パネルで [Eメールのツールバー] をクリックします。
 - 3 無効にするツールバーの横にあるチェックボックスの選択を解除します。
 - 4 [OK] をクリックします。

ヒント: チェックボックスを選択すると、いつでも McAfee Anti-Spam ツールバーを再び有効にできます。

第 28 章

フィルタリングされた E メールの使用

迷惑メールが検出されない場合もあります。このような場合は、マカフィーに迷惑メールを報告できます。報告された迷惑メールはマカフィーで分析され、フィルタの更新に活用されます。

Web メールアカウントを使用している場合は、フィルタリングされた Eメールの詳細をコピー、削除、および取得できます。これは、正当なメッセージがフィルタリングされたかどうかを確認できない場合、またはそのメッセージがフィルタリングされた日時を確認する必要がある場合に役立ちます。

このセクションの内容

マカフィーに迷惑メールを報告	149
フィルタリングされたWebメールのメッセージをコピーまたは削除します。.....	150
フィルタリングされたWebメールのイベントを表示.....	150

マカフィーに迷惑メールを報告

マカフィーに迷惑メールを報告できます。報告された迷惑メールはマカフィーによって分析され、フィルタの更新のために活用されます。

- 1 [迷惑メール対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[E メールとメッセージャー]をクリックします。
 2. [E メールとメッセージャー]の情報領域で、[設定]をクリックします。
 3. [E メールとメッセージャーの設定]パネルの[スパム対策]で、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [迷惑メール対策]パネルで[マカフィーに報告]をクリックします。
 - 3 適切なチェックボックスを選択して、[OK]をクリックします。

オプション	説明
[迷惑メールとしてマーク]をクリックしたときのレポート機能を有効化	迷惑メールとしてマークするたびに、マカフィーにメッセージを報告します。

オプション	説明
[非迷惑メールとしてマーク]をクリックしたときのレポート機能を有効化	非迷惑メールとしてマークするたびに、マカフィーにメッセージを報告します。
(ヘッダだけでなく)メッセージ全体を送信	マカフィーにメッセージを報告する場合、(ヘッダだけでなく)メッセージ全体を送信します。

フィルタリングされた Web メールメッセージをコピーまたは削除します。

Web メールアカウントのフィルタリングされたメッセージをコピーまたは削除できます。

- 1 [よく使う機能]で[最近のイベントを表示]をクリックします。
- 2 [最近のイベント]パネルで[ログを表示]をクリックします。
- 3 左パネルで[E メールとメッセージング]リストを展開してから、[Webメールのフィルタリングイベント]をクリックします。
- 4 メッセージを選択します。
- 5 [オプションの選択]で、次のいずれかの操作を実行します。
 - [コピー]をクリックして、メッセージをクリップボードにコピーします。
 - このメッセージを削除するには[削除]をクリックします。

フィルタリングされた Web メールイベントを表示

E メールがフィルタリングされた日時およびフィルタリングされた E メールを受信したアカウントを表示できます。

- 1 [よく使う機能]で[最近のイベントを表示]をクリックします。
- 2 [最近のイベント]パネルで[ログを表示]をクリックします。
- 3 左パネルで[E メールとメッセージング]リストを展開してから、[Webメールのフィルタリングイベント]をクリックします。
- 4 表示するログを選択します。

第 29 章

フィッシング詐欺対策の設定

McAfee Anti-Spam により、不要な E メールは、迷惑メール（広告メール）、またはフィッシング詐欺メール（既知または不正な可能性のある Web サイトを使用して個人情報取得しようとするメール）として分類されます。フィッシング詐欺対策により、不正な Web サイトから保護されます。E メール内にある、既知または不正な可能性のある Web サイトへのリンクをクリックすると、McAfee Anti-Spam によりフィッシング詐欺フィルタの安全なページにリダイレクトされます。

フィルタリングしない Web サイトがある場合は、フィッシング詐欺のホワイトリストにそれらの Web サイトを追加します。また、ホワイトリスト内の Web サイトは編集または削除できます。Google[®]、Yahoo、McAfee などの Web サイトは詐欺サイトではないとみなされるので、これらのサイトを追加する必要はありません。

注: McAfee SiteAdvisor をインストール済みの場合は、McAfee SiteAdvisor（マカフィー・サイトアドバイザー）に McAfee Anti-Spam と同様のフィッシング詐欺対策があるため、McAfee Anti-Spam のフィッシング詐欺対策は実行されません。

このセクションの内容

Webサイトをホワイトリストに追加	151
ホワイトリスト内のサイトを編集	152
Webサイトをホワイトリストから削除	152
フィッシング詐欺対策を無効化	152

Web サイトをホワイトリストに追加

フィルタリングしない Web サイトがある場合は、ホワイトリストにそれらの Web サイトを追加します。

1 [フィッシング詐欺対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. SecurityCenter の[ホーム]パネルで[インターネットとネットワーク]をクリックします。
 2. [インターネットとネットワーク]の情報セクションで[設定]をクリックします。
- #### 2 [フィッシング詐欺対策]パネルで[詳細設定]をクリックします。

- 3 [ホワイトリスト]で、[追加]をクリックします。
- 4 Web サイトのアドレスを入力して、[OK]をクリックします。

ホワイトリスト内のサイトを編集

Web サイトをホワイトリストに追加した後にその Web サイトのアドレスが変更された場合は、いつでもアドレスを更新できます。

- 1 [フィッシング詐欺対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. SecurityCenter の[ホーム]パネルで[インターネットとネットワーク]をクリックします。
 2. [インターネットとネットワーク]の情報セクションで[設定]をクリックします。
- 2 [フィッシング詐欺対策]パネルで[詳細設定]をクリックします。
 - 3 [ホワイトリスト]で更新する Web サイトを選択し、[編集]をクリックします。
 - 4 Web サイトのアドレスを編集して、[OK]をクリックします。

Web サイトをホワイトリストから削除

アクセスする必要があったためホワイトリストに追加した Web サイトについて、現在はフィルタリングする必要がある場合、その Web サイトをホワイトリストから削除します。

- 1 [フィッシング詐欺対策]パネルを開きます。

機能の内容

1. SecurityCenter の[ホーム]パネルで[インターネットとネットワーク]をクリックします。
 2. [インターネットとネットワーク]の情報セクションで[設定]をクリックします。
- 2 [フィッシング詐欺対策]パネルで[詳細設定]をクリックします。
 - 3 [ホワイトリスト]で、削除する Web サイトを選択し、[削除]をクリックします。

フィッシング詐欺対策を無効化

マカフィー製品以外のフィッシング対策ソフトウェアをすでに使用していて競合する場合は、McAfee Anti-Spam のフィッシング詐欺対策を無効にできます。

- 1 SecurityCenter の[ホーム]パネルで[インターネットとネットワーク]をクリックします。
- 2 [インターネットとネットワーク]の情報セクションで[設定]をクリックします。
- 3 [フィッシング詐欺対策]で[オフ]をクリックします。

ヒント:完了したら、不正な Web サイトから保護するため[フィッシング詐欺対策]の[オン]をクリックしてください。

第 30 章

McAfee Privacy Service

McAfee Privacy Service は、ユーザやその家族、個人ファイル、およびコンピュータを保護する高度な機能を提供するソフトウェアです。オンラインでの個人情報の漏えいを阻止し、個人情報の送出手をブロックし、有害な可能性のあるオンラインコンテンツ(画像など)をフィルタリングします。また、無認可の Web 閲覧履歴の監視、制御、ログの記録を行う高度な保護者機能や、個人のパスワードを記録できる安全な記憶領域も提供されます。

McAfee Privacy Service を使用する前に、よく利用する機能について理解することができます。これらの機能の設定と使用方法に関する詳細は、McAfee Privacy Service のヘルプを参照してください。

注: McAfee SecurityCenter は、問題を検出するとただちに重要な問題かどうかをレポートします。保護の問題を診断する上で詳細情報が必要な場合は、McAfee Virtual Technician を実行します。

このセクションの内容

McAfee Privacy Serviceの機能	156
保護者機能をセットアップ	157
Webでの情報を保護	171
パスワードを保護	173

McAfee Privacy Service の機能

McAfee Privacy Service には、次の機能が搭載されています。

- 保護者機能
- 個人情報保護
- Password Vault

保護者機能

保護者機能では、SecurityCenter のユーザに対して、不適切と思われる画像のフィルタリングや、コンテンツ レーティング グループ(閲覧できる Web サイトやコンテンツを制限する年齢のグループ)、また Web 閲覧の制限時間が設定できます。さらに、特定の Web サイトへのアクセスを全体的に制限したり、関連するキーワードに基づいてアクセスを許可またはブロックできます。

個人情報保護

個人情報保護により、個人情報(クレジットカード番号、銀行の口座番号、住所など)が Web を介して転送されることを防止できます。

Password Vault

Password Vault は、個人のパスワードを記録できる安全な記憶領域です。この記憶領域ではパスワードが保存できます。保存すると、管理者を含む一切のユーザがアクセスできなくなります。

第 31 章

保護者機能をセットアップ

青少年がコンピュータを使用する場合は、保護者機能が設定できます。保護者機能を使用して、Web ブラウザの際に青少年の閲覧や動作を規制できます。保護者機能を設定するには、画像フィルタリングを有効または無効にして、コンテンツ レーティング グループを選択し、Web 閲覧の制限時間を設定します。画像フィルタリングによって、青少年の Web 閲覧時に不適切と思われる画像の表示をブロックすることができます。またコンテンツ レーティング グループによって、年齢層に応じて、アクセス可能な Web サイトやコンテンツの種類を決めることができます。Web 閲覧の制限時間では、青少年が Web にアクセスできる日付や時間を設定できます。また、保護者機能では、青少年向けに一部の Web サイトをフィルタリング（ブロックまたは許可）できます。

注: 保護者機能をセットアップするには、管理者権限が必要です。

このセクションの内容

ユーザの設定	158
不適切な可能性のあるWeb画像をフィルタリング	162
コンテンツの格付けグループの設定	163
Web閲覧の時間制限の設定	165
Webサイトをフィルタリング	166
キーワードを使用したWebサイトのフィルタリング	169

ユーザの設定

保護者機能を設定するには、McAfee SecurityCenter ユーザに権限を割り当てます。デフォルトでは、McAfee SecurityCenter ユーザは、McAfee SecurityCenter を設定している Windows のユーザと一致します。ただし、McAfee SecurityCenter の旧バージョンからアップグレードしている場合、前のユーザや権限は引き継がれます。

注:ユーザを設定するには、McAfee SecurityCenter に管理者としてログインする必要があります。

Windows ユーザの使用

保護者機能を設定するには、各ユーザがインターネット上で何を閲覧し、どの動作をするかを決定するユーザに対して、権限を割り当てる必要があります。デフォルトでは、McAfee SecurityCenter ユーザは、McAfee SecurityCenter を設定している Windows のユーザと一致します。Windows の[コンピュータの管理]では、ユーザの追加や削除や、アカウント情報の編集ができます。McAfee SecurityCenter ユーザに保護者機能を設定できます。

McAfee SecurityCenterの旧バージョンからアップグレードしている場合は、158 ページの「**McAfeeユーザの使用**」を参照してください。

McAfee ユーザの使用

McAfee SecurityCenter の旧バージョンからアップグレードしている場合、前のユーザや権限は自動的に引き継がれます。McAfee ユーザの設定および管理が続行できます。ただし、メンテナンスをより簡単にするために、Windows ユーザに切り替えることをお勧めします。一度 Windows ユーザに切り替えると、McAfee ユーザに戻すことはできません。

McAfee ユーザの使用を続ける場合は、ユーザの追加、編集または削除が可能で、McAfee の管理者パスワードを変更、あるいは取得できません。

Windows ユーザへの切り替え

メンテナンスを簡単にするために、Windows ユーザに切り替えることをお勧めします。一度 Windows ユーザに切り替えると、McAfee ユーザに戻すことはできません。

- 1 [ユーザ設定]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
 2. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[保護者機能]をクリックします。
 3. [保護者機能の情報]セクションで[設定]をクリックします。
 4. [保護者機能の設定]パネルで、[詳細設定]をクリックします。
- 2 [ユーザ設定]パネルで[切り替え]をクリックします。
 - 3 処理を確定します。

McAfee ユーザの追加

McAfee ユーザの作成後、ユーザに対して保護者機能が設定できるようになります。詳細については、McAfee Privacy Service ヘルプを参照してください。

- 1 管理者ユーザとして McAfee SecurityCenter にログインします。
- 2 [ユーザ設定]パネルを開きます。
機能の内容
 1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
 2. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[保護者機能]をクリックします。
 3. [保護者機能の情報]セクションで[設定]をクリックします。
 4. [保護者機能の設定]パネルで、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ユーザ設定]パネルで[追加]をクリックします。
- 4 画面に表示される手順に従って、ユーザ名、パスワード、アカウントの種類、保護者機能を設定します。
- 5 [作成]をクリックします。

マカフィー ユーザ アカウント情報の編集

マカフィーユーザのパスワード、アカウントタイプまたは自動ログイン機能を変更できます。

- 1 管理者ユーザとして McAfee SecurityCenter にログインします。
- 2 [ユーザ設定]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
 2. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[保護者機能]をクリックします。
 3. [保護者機能の情報]セクションで[設定]をクリックします。
 4. [保護者機能の設定]パネルで、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ユーザ設定]パネルで、ユーザ名をクリックしてから[編集]をクリックします。
 - 4 画面の指示に従い、ユーザのパスワード、アカウントタイプまたは保護者機能を編集します。
 - 5 [OK]をクリックします。

マカフィーユーザを削除します。

マカフィーユーザはいつでも削除できます。

マカフィーユーザを削除するには、次の手順に従います。

- 1 管理者ユーザとして McAfee SecurityCenter にログインします。
- 2 [ユーザ設定]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
 2. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[保護者機能]をクリックします。
 3. [保護者機能の情報]セクションで[設定]をクリックします。
 4. [保護者機能の設定]パネルで、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ユーザ設定]パネルの[マカフィー ユーザ アカウント]で、ユーザ名を選択してから[削除]をクリックします。

マカフィー管理者パスワードの変更。

マカフィー管理者パスワードを忘れてしまった場合、または管理者パスワードが攻撃を受けている場合は、管理者パスワードを変更できます。


- 1 管理者ユーザとして McAfee SecurityCenter にログインします。
- 2 [ユーザ設定]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
 2. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[保護者機能]をクリックします。
 3. [保護者機能の情報]セクションで[設定]をクリックします。
 4. [保護者機能の設定]パネルで、[詳細設定]をクリックします。
- 3 [ユーザ設定]パネルの[マカフィー ユーザ アカウント]で、[管理者]選択してから[編集]をクリックします。
 - 4 [ユーザアカウントの編集]ダイアログボックスで、[新しいパスワード]ボックスに新しいパスワードを入力し、[パスワードの確認]ボックスにパスワードを再び入力します。
 - 5 [OK]をクリックします。

マカフィー管理者パスワードの取得。

管理者パスワードを忘れてしまった場合、救済方法が用意されています。

- 1 McAfee SecurityCenter のアイコンを右クリックしてから、[ユーザの切り替え]をクリックします。
- 2 [ユーザ名]リストで、[管理者]をクリックしてから[パスワードを忘れた場合]をクリックします。
- 3 [回答]ボックスに、秘密の質問の回答を入力します。
- 4 [送信]をクリックします。

不適切な可能性のある Web 画像をフィルタリング

ユーザの年齢や成長に応じて、Webを閲覧する際に不適切な可能性のある画像をフィルタリング(ブロックまたは許可)することができます。たとえばご家庭で、幼児がWebを閲覧する際には不適切な可能性のある画像をブロックし、10代後半や成人が閲覧する場合には許可することができます。デフォルトでは、すべての成年グループのメンバーに対して画像のフィルタリングが無効になっています。これは、成年グループのユーザがWebを閲覧する場合に不適切な可能性のある画像が表示されることを表します。ユーザの年齢グループの設定の詳細については、163 ページの「コンテンツの格付けグループの設定」を参照してください。

不適切な可能性のある Web 画像をフィルタリング

デフォルトでは、新しいユーザは成年グループに追加され、画像のフィルタリングは無効です。特定のユーザが Web を閲覧する際に、不適切な可能性のある画像の表示をブロックする場合は、画像のフィルタリングを有効にできます。不適切な可能性のある Web の画像は、自動的にマカフィーの静止画像に置き換えられます。

- 1 [ユーザ設定]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[保護者機能]をクリックします。
 2. [保護者機能の情報]セクションで[設定]をクリックします。
 3. [保護者機能の設定]パネルで、[詳細設定]をクリックします。
 4. [保護者機能の設定]パネルで、[ユーザ設定]をクリックします。
- 2 [ユーザ設定]パネルで、ユーザ名をクリックしてから[編集]をクリックします。
 - 3 [ユーザアカウントの編集]ウィンドウの[画像のフィルタリング]で、[オン]をクリックします。
 - 4 [OK]をクリックします。

コンテンツの格付けグループの設定

ユーザは、次のコンテンツの格付けのグループのいずれかに属することができます。

- 幼児
- 子供
- 10 代前半
- 10 代後半
- 成人

McAfee Privacy Serviceでは、ユーザが属するグループに基づいて Webコンテンツが格付け(ブロックまたは許可)されます。これでご家庭内の特定のユーザに対して特定のWebサイトをブロックまたは許可できます。たとえば、特定のWebサイトを、幼児グループに属するユーザに対してはブロックし、10 代前半のグループに属するユーザに対してはそれを許可する場合があります。ユーザに対してコンテンツの格付けをより厳格に行う場合、**[フィルタリングする Web サイト]**リストで許可されているWebサイトのみを表示するよう許可できます。詳細については、166 ページの「**Webサイトをフィルタリング**」を参照してください。

デフォルトでは、新しいユーザは成年グループに追加されます。これは、新しいユーザがすべての Web コンテンツにアクセスできることを表します。

ユーザのコンテンツの格付けグループの設定

デフォルトでは、新しいユーザは成年グループに追加されます。これは、新しいユーザがすべての Web コンテンツにアクセスできることを表します。ユーザのコンテンツの格付けグループを、個人の年齢や成長に応じて調整できます。

1 [ユーザ設定]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで**[保護者機能]**をクリックします。
2. [保護者機能の情報]セクションで**[設定]**をクリックします。
3. [保護者機能の設定]パネルで、**[詳細設定]**をクリックします。
4. [保護者機能の設定]パネルで、**[ユーザ設定]**をクリックします。

2 [ユーザ設定]パネルで、ユーザ名をクリックしてから**[編集]**をクリックします。

- 3 [ユーザアカウントの編集]ウィンドウの[コンテンツの格付け]で、ユーザにアサインする年齢グループをクリックします。

[フィルタリングする Web サイト]リストでブロックされた、すべての Web サイトを閲覧できないようにするには、[このユーザは、「フィルタリングする Web サイト」リストに含まれるサイトにのみアクセスできます]チェックボックスを選択します。
- 4 [OK]をクリックします。

Web 閲覧の時間制限の設定

過度のインターネットの使用を控えさせる場合は、子供たちの Web の閲覧に対して適切な時間制限を設定することができます。子供たちに対して、Web の閲覧を特定の時間に制限すれば、外出中でも、SecurityCenter が閲覧時間を制限します。

デフォルトでは、子供は 365 日いつでも Web の閲覧が可能になっていますが、Web の閲覧を特定の時間または曜日に制限したり、Web の閲覧自体を禁止することもできます。禁止期間中に子供が Web へアクセスしようとした場合、McAfee Privacy Service からアクセスの不可が通知されます。Web の閲覧自体を禁止する場合、子供たちはコンピュータにログインして E メール、メッセージャー、ftp、ゲームなどの他のインターネットプログラムは使用できますが、Web の閲覧はできません。

Web 閲覧の時間制限の設定

Web の閲覧時間制限を使用して、子供たちの Web の閲覧を特定の曜日や時間に制限できます。

1 [ユーザ設定]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[**保護者機能**]をクリックします。
 2. [保護者機能の情報]セクションで[**設定**]をクリックします。
 3. [保護者機能の設定]パネルで、[**詳細設定**]をクリックします。
 4. [保護者機能の設定]パネルで、[**ユーザ設定**]をクリックします。
- 2 [ユーザ設定]パネルで、ユーザ名をクリックしてから[**編集**]をクリックします。
- 3 [ユーザアカウントの編集]ウィンドウの[**インターネット使用時間制限**]で、マウスをドラッグして、そのユーザに Web の閲覧を許可しない曜日や時間を指定します。
- 4 [**OK**]をクリックします。

Web サイトをフィルタリング

成年グループに属するユーザ以外のすべてのユーザに対して、Web サイトをフィルタリング(ブロックまたは許可)できます。子供たちが Web を閲覧する際に、特定の Web サイトを閲覧できないように Web サイトをブロックします。ブロックされた Web サイトへのアクセスを子供が試行すると、そのサイトがマカフィーによりブロックされているためアクセスできないことを示すメッセージが表示されます。

デフォルトでブロックされているWebサイトを子供たちがアクセスできるようにするには、そのWebサイトを許可します。デフォルトでブロックされているWebサイトの詳細については、169 ページの「**キーワードを使用したWebサイトのフィルタリング**」を参照してください。また、フィルタリングしたWebサイトをいつでも更新または削除できます。

注:成年グループに属しているユーザ(管理者を含む)は、Web サイトがブロックされている場合でも、すべての Web サイトにアクセスできます。ブロックする Web サイトをテストするには、未成年ユーザとしてログインする必要があります。

Web サイトをブロック

子供たちが Web を閲覧する際に、特定の Web サイトを閲覧できないように Web サイトをブロックします。ブロックされた Web サイトへのアクセスを子供が試行すると、そのサイトがマカフィーによりブロックされているためアクセスできないことを示すメッセージが表示されます。

- 1 [保護者機能]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[保護者機能]をクリックします。
 2. [保護者機能の情報]セクションで[設定]をクリックします。
 3. [保護者機能の設定]パネルで、[保護者機能]が有効になっていることを確認してから[詳細設定]をクリックします。
- 2 [保護者機能の設定]パネルで、[フィルタリングする Web サイト]をクリックします。
 - 3 [フィルタリングする Web サイト]パネルで、[http://]ボックスに Web サイトのアドレスを入力してから[ブロック]をクリックします。
 - 4 [OK]をクリックします。

ヒント:[フィルタリングする Web サイト]リストで Web サイトのアドレスをクリックしてから[ブロック]をクリックすると、以前許可した Web サイトをブロックできます。

Web サイトを許可

すべてのユーザに対して Web サイトの閲覧をブロックせずに許可します。デフォルトでブロックされている Web サイトを許可する場合、標準設定を無効にします。

- 1 [保護者機能] パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の [ホーム] パネルで [保護者機能] をクリックします。
 2. [保護者機能の情報] セクションで [設定] をクリックします。
 3. [保護者機能の設定] パネルで、[保護者機能] が有効になっていることを確認してから [詳細設定] をクリックします。
- 2 [保護者機能の設定] パネルで、[フィルタリングする Web サイト] をクリックします。
 - 3 [フィルタリングする Web サイト] パネルで、[http://] ボックスに Web サイトのアドレスを入力してから [許可] をクリックします。
 - 4 [OK] をクリックします。

ヒント:[フィルタリングする Web サイト] リストで Web サイトのアドレスをクリックしてから [許可] をクリックすると、以前ブロックした Web サイトを許可できます。

フィルタリングした Web サイトの更新

Web サイトをブロックまたは許可しているとき、その Web サイトのアドレスが変更された場合、または誤って入力した場合にそれを更新できます。

- 1 [保護者機能] パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の [ホーム] パネルで [保護者機能] をクリックします。
 2. [保護者機能の情報] セクションで [設定] をクリックします。
 3. [保護者機能の設定] パネルで、[保護者機能] が有効になっていることを確認してから [詳細設定] をクリックします。
- 2 [保護者機能の設定] パネルで、[フィルタリングする Web サイト] をクリックします。
 - 3 [フィルタリングする Web サイト] パネルで、[フィルタリングする Web サイト] リストのエントリをクリックして、[http://] ボックスにある Web サイトのアドレスを変更して、[更新] をクリックします。
 - 4 [OK] をクリックします。

フィルタリングする Web サイトを削除

今後、フィルタリングした Web サイトをブロックまたは許可する必要がない場合は、それを削除できます。

1 [保護者機能]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[保護者機能]をクリックします。
 2. [保護者機能の情報]セクションで[設定]をクリックします。
 3. [保護者機能の設定]パネルで、[保護者機能]が有効になっていることを確認してから[詳細設定]をクリックします。
- 2 [保護者機能の設定]パネルで、[フィルタリングする Web サイト]をクリックします。
- 3 [フィルタリングする Web サイト]パネルで、[フィルタリングする Web サイト]リストにあるエントリをクリックしてから[削除]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックします。

キーワードを使用した Web サイトのフィルタリング

キーワードフィルタリングを使用すると、未成年ユーザが不適切な単語が含まれる Web サイトを表示することをブロックできます。キーワードフィルタリングが有効になっている場合、キーワードの標準設定のリストおよび対応するルールは、コンテンツの格付けグループに基づいたユーザに対するコンテンツの格付けに使用されます。ユーザが特定のキーワードが含まれる Web サイトにアクセスするには、特定のグループに属する必要があります。たとえば、ポルノという言葉が含まれる Web サイトには成年グループのメンバーのみがアクセスでき、ドラッグという言葉が含まれる Web サイトには子供グループ(およびそれ以上のグループ)のメンバーのみがアクセスできます。

ただし、固有のキーワードを標準設定のリストに追加し、キーワードと特定のコンテンツの格付けグループを関連付けることができます。追加したルールのキーワードが、標準設定のリストのキーワードに一致すると、既存のルールは無視されます。

キーワードフィルタリングの無効化

デフォルトでは、キーワードフィルタリングが有効になっており、キーワードの標準設定のリストと対応するルールが、コンテンツの格付けグループに応じて行われるコンテンツの格付けに使用されます。決してお勧めしませんが、キーワードフィルタリングはいつでも無効にすることができます。

- 1 [保護者機能]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[保護者機能]をクリックします。
 2. [保護者機能の情報]セクションで[設定]をクリックします。
 3. [保護者機能の設定]パネルで、[保護者機能]が有効になっていることを確認してから[詳細設定]をクリックします。
- 2 [保護者機能の設定]パネルで、[キーワード]をクリックします。
 - 3 [キーワード]パネルで、[オフ]をクリックします。
 - 4 [OK]をクリックします。

キーワードにより Web サイトをブロック

不適切なコンテンツが含まれる Web サイトをブロックする上で、特定の Web サイトのアドレスがわからない場合は、キーワードに基づいて Web サイトをブロックできます。キーワードを入力するだけで、そのキーワードが含まれる Web サイトを、どのコンテンツの格付けグループに対して表示/非表示にするかを決定できます。

- 1 [保護者機能]パネルを開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の[ホーム]パネルで[保護者機能]をクリックします。
 2. [保護者機能の情報]セクションで[設定]をクリックします。
 3. [保護者機能の設定]パネルで、[保護者機能]が有効になっていることを確認してから[詳細設定]をクリックします。
- 2 [保護者機能の設定]パネルで、[キーワード]をクリックして、キーワードフィルタリングを有効にします。
 - 3 [キーワード]で、[検索]ボックスにキーワードを入力します。
 - 4 最低年齢グループを指定するには、[最低年齢]スライダを移動します。
すると、その年齢グループ以上の年齢のユーザは、このキーワードが含まれる Web サイトを表示できます。
 - 5 [OK]をクリックします。

第 32 章

Web での情報を保護

Web の閲覧時に情報をブロックすると、個人情報とファイルを保護できます。たとえば、ブロックする情報に情報を追加することにより、個人情報(名前、住所、クレジットカード番号、銀行の口座番号など)が Web を介して転送されることも防止できます。

注:Privacy Service では、銀行のサイトなどの安全な Web サイト (https://プロトコルを使用した Web サイト)の個人情報の伝送はブロックされません。

このセクションの内容

個人情報の保護 172

個人情報の保護

個人情報をブロックすることにより、個人情報(名前、住所、クレジットカード番号、銀行の口座番号など)が Web を介して転送されることを防止できます。Web 経由で送信しようとした情報(フォームのフィールドまたはファイルなど)の中に個人情報が検出されると、次の内容が実行されます。

- 管理者にはメッセージが表示され、情報を送信するかどうかを決定する必要があります。
- 管理者でないユーザには、ブロックされた部分が星印(*)で表示されます。たとえば、不正な Web サイトが他のコンピュータにクレジットカード番号を送信しようとした場合、その番号自体がアスタリスクに置き換えられます。

個人情報の保護

ブロックできる個人情報の種類は次のとおりです。名前、住所、郵便番号、社会保障情報(米国)、電話番号、クレジットカード番号、銀行口座、証券口座、および電話カード。別の種類の個人情報をブロックする場合には、種類を[**その他**]に設定します。

- 1 [個人情報保護]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
 2. SecurityCenter の[ホーム]パネルで[インターネットとネットワーク]をクリックします。
 3. [インターネットとネットワーク]の情報セクションで[設定]をクリックします。
 4. [インターネットとネットワークの設定]パネルで、個人情報保護が有効になっていることを確認してから[詳細設定]をクリックします。
- 2 [個人情報保護]パネルで[追加]をクリックします。
 - 3 リストからブロックする情報の種類を選択します。
 - 4 個人情報を入力し、[OK]をクリックします。

第 33 章

パスワードを保護

Password Vault は、個人のパスワードを記録できる安全な記憶領域です。この記憶領域に保存すると、管理者を含む他のユーザは、記録されたパスワードに一切アクセスできません。

このセクションの内容

Password Vault をセットアップ..... 174

Password Vault をセットアップ

Password Vault の使用を開始する前に、Password Vault のパスワードを設定する必要があります。Password Vault にアクセスできるのは、Password Vault のパスワードを知っているユーザのみです。Password Vault のパスワードを忘れた場合は、リセットすることができます。ただし、リセットを実行すると、これまでに Password Vault に保存されていたパスワードはすべて削除されます。

Password Vault のパスワードを設定したあとに、Vault 内のパスワードを追加、編集、削除できます。また、Password Vault のパスワードはいつでも変更できます。

パスワードの追加

Password Vault のパスワードを忘れた場合は、Password Vault にパスワードを追加できます。Password Vault は、Password Vault のパスワードを知っているユーザのみがアクセスできる、安全な領域です。

- 1 [Password Vault]パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
 2. SecurityCenter の[ホーム]パネルで[インターネットとネットワーク]をクリックします。
 3. [インターネットとネットワーク]の情報セクションで[設定]をクリックします。
 4. [インターネットとネットワークの設定]パネルで、[Password Vault]の[詳細設定]をクリックします。
- 2 [パスワード]ボックスに Password Vault のパスワードを入力し、[パスワードの確認]ボックスにパスワードを再び入力します。
 - 3 [開く]をクリックします。
 - 4 [Password Vault の管理]パネルで[追加]をクリックします。
 - 5 [説明]ボックスに、パスワードの説明(目的など)を入力してから、[パスワード]ボックスにパスワードを入力します。
 - 6 [OK]をクリックします。

パスワードの変更

Password Vault の登録項目が常に正確で信頼性の高いものにするためには、パスワードの変更時にこれらを更新する必要があります。

- 1 [Password Vault] パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能] で [ホーム] をクリックします。
 2. SecurityCenter の [ホーム] パネルで [インターネットとネットワーク] をクリックします。
 3. [インターネットとネットワーク] の情報セクションで [設定] をクリックします。
 4. [インターネットとネットワークの設定] パネルで、
[Password Vault] の [詳細設定] をクリックします。
- 2 [パスワード] ボックスに Password Vault のパスワードを入力します。
 - 3 [開く] をクリックします。
 - 4 [Password Vault の管理] パネルでパスワードのエントリをクリックしてから、[編集] をクリックします。
 - 5 [説明] ボックスのパスワードの説明(目的など)を変更してから、
[パスワード] ボックスにパスワードを変更します。
 - 6 [OK] をクリックします。

パスワードの削除

Password Vault のパスワードはいつでも削除できます。Vault から削除したパスワードは復元できません。

- 1 [Password Vault] パネルを開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能] で [ホーム] をクリックします。
 2. SecurityCenter の [ホーム] パネルで [インターネットとネットワーク] をクリックします。
 3. [インターネットとネットワーク] の情報セクションで [設定] をクリックします。
 4. [インターネットとネットワークの設定] パネルで、
[Password Vault] の [詳細設定] をクリックします。
- 2 [パスワード] ボックスに Password Vault のパスワードを入力します。
 - 3 [開く] をクリックします。
 - 4 [Password Vault の管理] パネルでパスワードのエントリをクリックしてから、[削除] をクリックします。
 - 5 [削除の確認] ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

Password Vault のパスワードの変更

Password Vault のパスワードはいつでも変更できます。

- 1 [Password Vault]パネルを開きます。
機能の内容
 1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
 2. SecurityCenter の[ホーム]パネルで[インターネットとネットワーク]をクリックします。
 3. [インターネットとネットワーク]の情報セクションで[設定]をクリックします。
 4. [インターネットとネットワークの設定]パネルで、[Password Vault]の[詳細設定]をクリックします。
- 2 [Password Vault]パネルで、[パスワード]ボックスに現在のパスワードを入力し、[開く]をクリックします。
- 3 [Password Vault の管理]パネルで[パスワードの変更]をクリックします。
- 4 [パスワードの選択]ボックスに新しいパスワードを入力し、[パスワードの確認]ボックスにパスワードを再び入力します。
- 5 [OK]をクリックします。
- 6 [Password Vault のパスワードが変更されました]ダイアログボックスで、[OK]をクリックします。

Password Vault のパスワードをリセット

Password Vault のパスワードを忘れた場合は、リセットすることができます。ただし、リセットを実行すると、これまでに入力したパスワードはすべて削除されます。

- 1 [Password Vault]パネルを開きます。
機能の内容
 1. [よく使う機能]で[ホーム]をクリックします。
 2. SecurityCenter の[ホーム]パネルで[インターネットとネットワーク]をクリックします。
 3. [インターネットとネットワーク]の情報セクションで[設定]をクリックします。
 4. [インターネットとネットワークの設定]パネルで、[Password Vault]の[詳細設定]をクリックします。
- 2 [Password Vault をリセット]で、[パスワード]ボックスに新しいパスワードを入力し、[パスワードの確認]ボックスにパスワードを再び入力します。
- 3 [リセット]をクリックします。
- 4 [パスワードのリセットの確認]ダイアログボックスで、[はい]をクリックします。

第 34 章

McAfee Data Backup

McAfee Data Backup を使用すると、ファイルを CD、DVD、USB ドライブ、外部ハードディスク、ネットワークドライブにアーカイブ（保管）し、データの不意の損失を防ぐことができます。ローカルアーカイブを使用すると、個人的なデータを CD、DVD、USB ドライブ、外部ハードディスク、ネットワークドライブにアーカイブ（バックアップ）できます。これにより、データの不意の損失に備えて、記録や文書、個人的に重要なデータがローカルにコピーされます。

McAfee Data Backup の使用を開始する前に、よく利用する機能について理解することができます。これらの機能の設定と使用方法に関する詳細は、McAfee Data Backup のヘルプに書かれています。プログラムの機能を確認したら、ローカルアーカイブの実行に使用するアーカイブメディアの容量が十分かどうか確認する必要があります。

注: McAfee SecurityCenter は、問題を検出するとただちに重要な問題かどうかをレポートします。保護の問題を診断する上で詳細情報が必要な場合は、McAfee Virtual Technician を実行します。

このセクションの内容

機能	178
ファイルをアーカイブ	179
アーカイブ済みファイルを使用	187

機能

写真や音楽、その他の重要なファイルを保存したり、復元するために、McAfee Data Backup には次の機能が搭載されています。

スケジュールによるローカルアーカイブ

ファイルとフォルダを CD、DVD、USB ドライブ、外部ハードディスク、ネットワークドライブにアーカイブし、データを保護します。最初のアーカイブを実行したあとは、差分アーカイブが自動的に実行されます。

ワンクリックで復元

ファイルやフォルダを誤って削除してしまったり、壊してしまっても、最後にアーカイブしたファイルからデータを復元することができます。

圧縮と暗号化

標準設定では、アーカイブ済みファイルは圧縮されます。これにより、アーカイブメディアの容量を節約できます。セキュリティ強化策として、アーカイブが暗号化されるように標準で設定されています。

第 35 章

ファイルをアーカイブ

McAfee Data Backup を使用すると、ご使用のコンピュータ上のファイルを CD、DVD、USB ドライブ、外部ハードディスク、ネットワークドライブにアーカイブ（保管）できます。この方法でファイルをアーカイブすると、データを誤って消してしまったり、壊してしまった場合でも、簡単に情報を復元できます。

ファイルのアーカイブを開始する前に、アーカイブの標準設定の保存場所（CD、DVD、USB ドライブ、外部ハードディスク、ネットワークドライブ）を選択する必要があります。アーカイブするフォルダやファイルタイプなど、いくつかの項目は事前に設定されていますが、これらの設定は変更できます。

ローカル アーカイブ オプションを設定すると、McAfee Data Backup の完全アーカイブまたはクイックアーカイブの頻度が設定できます。手動アーカイブはいつでも実行できます。

このセクションの内容

アーカイブオプションの設定	180
完全アーカイブとクイックアーカイブを実行	183

アーカイブオプションの設定

データのアーカイブ (保管) を開始する前に、ローカル アーカイブ オプションを設定する必要があります。たとえば、監視場所と監視するファイルタイプを設定する必要があります。監視場所とは、McAfee Data Backup が新規ファイルや変更ファイルの監視を行うコンピュータ内のフォルダのことです。監視対象のファイルタイプとは、McAfee Data Backup が監視場所内でアーカイブを行うファイルのタイプ(たとえば、.doc、.xls など)のことです。標準設定では、McAfee Data Backup は監視場所に保存されているすべてのファイルタイプを監視します。

監視場所には、重点監視する場所と部分的に監視する場所の 2 種類を設定できます。重点監視する場所を設定した場合、McAfee Data Backup は、このフォルダとサブフォルダ内の監視対象のファイルタイプをアーカイブします。部分的に監視する場所を設定した場合、McAfee Data Backup は、このフォルダ(サブフォルダは除く)の監視対象のファイルをアーカイブします。また、ローカルアーカイブから除外する場所を指定することもできます。標準設定では、Windows のデスクトップとマイドキュメントは重点監視する場所として設定されています。

監視対象のファイルタイプと場所を設定したら、アーカイブの保存場所 (CD、DVD、USB、ネットワークドライブ、外部ハードディスクなど)を設定する必要があります。アーカイブの場所はいつでも変更できます。

セキュリティ上の理由とサイズの問題から、暗号化と圧縮は、アーカイブ済みファイルでは標準設定で有効になっています。暗号化とは、ファイルの内容をテキストからコードに変換し、解読方法を知らなければ読むことができないようにすることです。圧縮ファイルは、保存または転送時に必要な最小容量に圧縮されます。決してお勧めしませんが、暗号化と圧縮はいつでも無効にすることができます。

アーカイブ対象を追加

アーカイブの監視場所には、重点監視する場所と部分的に監視する場所の 2 種類を設定できます。重点監視する場所を設定すると、McAfee Data Backup はフォルダとサブフォルダのコンテンツの変更を監視します。部分的に監視する場所を設定すると、McAfee Data Backup はフォルダ(サブフォルダは除く)のコンテンツの変更のみを監視します。

アーカイブの場所を追加するには

- 1 [ローカルアーカイブ]タブをクリックします。
- 2 左パネルで[設定]をクリックします。
- 3 [ローカルアーカイブの設定]ダイアログボックスで[監視場所]をクリックします。
- 4 次のいずれかの操作を実行します。

- フォルダとそのすべてのサブフォルダのコンテンツをアーカイブするには、[重点監視する場所]の下の[フォルダを追加]をクリックします。
 - サブフォルダのコンテンツを除いてフォルダのコンテンツをアーカイブするには、[部分的に監視する場所]の下の[フォルダを追加]をクリックします。
- 5 [フォルダの選択] ダイアログボックスで、監視するフォルダを指定して[OK]をクリックします。
 - 6 [保存]をクリックします。

ヒント: まだ作成していないフォルダを McAfee Data Backup の監視対象にするには、[フォルダの選択]ダイアログボックスの[新しいフォルダの作成]をクリックし、そのフォルダを監視場所として設定します。

アーカイブファイルタイプのせっていアーカイブ ファイル タイプの設定

重点監視する場所と部分的に監視する場所で、アーカイブ対象のファイルタイプを指定できます。既存のファイルタイプのリストから選択するか、リストに新しいタイプを追加できます。

アーカイブするファイルタイプを設定するには

- 1 [ローカルアーカイブ]タブをクリックします。
- 2 左パネルで[設定]をクリックします。
- 3 [ローカルアーカイブの設定]ダイアログボックスで[ファイルタイプ]をクリックします。
- 4 ファイルタイプのリストを展開して、アーカイブするファイルタイプの横のチェックボックスを選択します。
- 5 [保存]をクリックします。

ヒント: [選択されたファイルタイプ]リストに新しいファイルタイプを追加するには、[カスタムのファイルタイプを[その他]に追加]ボックスにファイルの拡張子を入力して、[追加]をクリックします。新しいファイルタイプは自動的に監視対象のファイルタイプになります。

アーカイブ対象から除外

特定の場所 (フォルダ) とそのコンテンツをオンラインでアーカイブしないようにするには、その場所をアーカイブの対象から除外します。

アーカイブの対象から除外するには

- 1 [ローカルアーカイブ]タブをクリックします。
- 2 左パネルで[設定]をクリックします。
- 3 [ローカルアーカイブの設定]ダイアログボックスで[監視中のフォルダ]をクリックします。
- 4 [監視から除外する場所]の下の[フォルダを追加]をクリックします。

5 [フォルダの選択]ダイアログボックスで、除外するフォルダを指定して[OK]をクリックします。

6 [保存]をクリックします。

ヒント: まだ作成していないフォルダを McAfee Data Backup の監視対象から除外するには、[フォルダの選択]ダイアログボックスの[新しいフォルダの作成]をクリックし、除外するフォルダを追加します。

アーカイブの保存場所を変更

アーカイブの保存場所を変更すると、以前に別の場所にアーカイブしたファイルは「未アーカイブ」として表示されます。

アーカイブの保存場所を変更するには

- 1 [ローカルアーカイブ]タブをクリックします。
- 2 左パネルで[設定]をクリックします。
- 3 [アーカイブ保存場所を変更]をクリックします。
- 4 [アーカイブ保存場所]ダイアログボックスで、次のいずれかを実行します。
 - [CD/DVD 書き込みドライブを選択]をクリックして、ご使用のコンピュータの CD または DVD ドライブを[書き込みドライブ]リストでクリックしてから、[保存]をクリックします。
 - [ドライブの場所を選択]をクリックし、USB ドライブ、ローカルドライブ、または外部ハードディスクのいずれかを指定して[OK]をクリックします。
 - [ネットワークの場所を選択]をクリックしてネットワークフォルダを選択し、[OK]をクリックします。
- 5 [選択されたアーカイブ保存場所]で、新しいアーカイブ保存場所を確認して、[OK]をクリックします。
- 6 確認のダイアログボックスで、[OK]をクリックします。
- 7 [保存]をクリックします。

アーカイブに対する暗号化と圧縮を無効化

アーカイブ済みファイルを暗号化し、解読方法を知らなければ読むことができないように変換することで、データの機密性を保護します。アーカイブ済みファイルを圧縮すると、ファイルのサイズを最小にすることができます。標準設定では、暗号化機能と圧縮機能の両方が有効になっています。ただし、これらのオプションはいつでも無効にできます。

アーカイブの暗号化および圧縮を無効にするには

- 1 [ローカルアーカイブ]タブをクリックします。
- 2 左パネルで[設定]をクリックします。
- 3 [ローカルアーカイブの設定]ダイアログボックスで[詳細設定]をクリックします。

- 4 [暗号化を有効にしてセキュリティを強化] チェックボックスをオフにします。
- 5 [圧縮を有効にして容量を削減] チェックボックスをオフにします。
- 6 [保存] をクリックします。

注: ファイルアーカイブ時の暗号化と圧縮は無効にしないことをお勧めします。

完全アーカイブとクイックアーカイブを実行

2 種類のアーカイブ(完全アーカイブとクイックアーカイブ)を実行できます。完全アーカイブを実行すると、監視するファイルタイプと場所の設定に従って、データが完全にアーカイブされます。クイックアーカイブを実行すると、完全アーカイブまたはクイックアーカイブの最終実行時から変更された監視中ファイルのみがアーカイブされます。

標準設定では、監視対象のファイルタイプの完全アーカイブを毎週月曜日の午前 9 時に実行し、最後の完全アーカイブまたはクイックアーカイブ以降 48 時間ごとにクイックアーカイブを実行するように設定されています。このスケジュールにより、ファイルの最新のアーカイブが常に維持されます。ただし、アーカイブが 48 時間ごとに実行されないように、必要に応じてスケジュールを調節できます。

監視場所のコンテンツのアーカイブを必要に応じて行いたい場合は、いつでも実行できます。たとえば、ファイルを変更してからアーカイブしたいときに、McAfee Data Backup による完全アーカイブまたはクイックアーカイブが数時間以内に実行されるように設定されていない場合は、手動でファイルをアーカイブできます。手動でファイルをアーカイブすると、設定された自動アーカイブの間隔はリセットされます。

不適切なタイミングで自動アーカイブまたは手動アーカイブが実行された場合には中断することもできます。たとえば、リソースを消費するタスクの実行中に自動アーカイブが開始された場合に、自動アーカイブを停止できます。自動アーカイブを停止すると、設定された自動アーカイブの間隔はリセットされます。

自動アーカイブをスケジュール

完全アーカイブとクイックアーカイブの頻度を設定し、データを常に保護できます。

自動アーカイブのスケジュールを設定するには

- 1 [ローカルアーカイブ] タブをクリックします。
- 2 左パネルで[設定]をクリックします。
- 3 [ローカルアーカイブの設定]ダイアログボックスで[全般]をクリックします。

- 4 完全アーカイブを毎日、毎週、または毎月実行するには、**[完全アーカイブの実行間隔]**で以下のいずれかをクリックします。
 - 日単位
 - 週単位
 - 月単位
- 5 完全アーカイブを実行する日の横のチェックボックスを選択します。
- 6 **[開始時刻]**リストの値をクリックして、完全アーカイブを実行する時間を指定します。
- 7 クイックアーカイブを毎日または毎時実行するには、**[クイックアーカイブ]**で以下のいずれかをクリックします。
 - 時間
 - 日
- 8 頻度を表す数値を**[クイックアーカイブの実行間隔]**ボックスに入力します。
- 9 **[保存]**をクリックします。

自動アーカイブを中断

McAfee Data Backup は、ユーザが定義したスケジュールに従って、監視場所内のファイルを自動的にアーカイブします。実行中の自動アーカイブはいつでも停止できます。

自動アーカイブを中断するには

- 1 左パネルで**[アーカイブを停止]**をクリックします。
- 2 確認のダイアログボックスで、**[はい]**をクリックします。

注: **[アーカイブを停止]**は、アーカイブの実行中にのみ表示されます。

アーカイブを手動で実行

自動アーカイブは、事前に定義されたスケジュールに従って実行されますが、クイックアーカイブと完全アーカイブはいつでも実行できます。クイックアーカイブは、完全アーカイブまたはクイックアーカイブの最終実行時以降に変更されたファイルのみをアーカイブします。完全アーカイブでは、すべての監視場所にある対象ファイルをアーカイブします。

クイックアーカイブまたは完全アーカイブを手動で実行するには

- 1 **[ローカルアーカイブ]**タブをクリックします。
- 2 クイックアーカイブを実行するには、左パネルの**[クイックアーカイブ]**をクリックします。
- 3 完全アーカイブを実行するには、左パネルの**[完全アーカイブ]**をクリックします。
- 4 **[アーカイブを開始する準備が整いました]**ダイアログボックスで、ストレージの容量と設定を確認し、**[続行]**をクリックします。

第 36 章

アーカイブ済みファイルを使用

ファイルをアーカイブすると、これらのファイルを McAfee Data Backup で操作できます。アーカイブ済みファイルは従来のエクスプローラ形式で表示されるため、簡単にファイルを見つけることができます。アーカイブのサイズが大きくなると、ファイルの並べ替えや検索が必要になります。ファイルを取得せずに、エクスプローラ表示でファイルを直接開き、内容を確認することもできます。

ローカルにコピーしたファイルが最新ではなかったり、不足していたり、壊れている場合は、アーカイブからファイルを取得します。また、McAfee Data Backup では、ローカルアーカイブやストレージメディアの管理に必要な情報が提供されます。

このセクションの内容

ローカルアーカイブのエクスプローラを使用	188
アーカイブ済みファイルを復元	190
アーカイブを管理	192

ローカルアーカイブのエクスプローラを使用

ローカルアーカイブのエクスプローラを使用すると、ローカルでアーカイブしたファイルの表示および操作を行うことができます。各ファイルの名前、タイプ、サイズ、状態 (アーカイブ済み、未アーカイブ、アーカイブ中)、ファイルが最後にアーカイブされた日付を表示できます。これらの基準のいずれかに従ってファイルを並べ替えることもできます。

アーカイブが大きい場合、検索すると迅速にファイルを見つけることができます。ファイル名またはパスのすべてまたは一部を入力して検索し、次におよそのファイルサイズと最後にアーカイブされた日付を指定して検索対象を絞り込めます。

ファイルの場所がわかれば、ローカルアーカイブのエクスプローラで直接ファイルを開くことができます。McAfee Data Backup は、そのファイルを作成したプログラムで直接ファイルを開き、ローカルアーカイブのエクスプローラを表示したままファイルに変更を加えることができます。このファイルは、コンピュータ上の元の監視場所に保存され、定義されたアーカイブスケジュールに従って自動的にアーカイブされます。

アーカイブ済みファイルを並べ替え

アーカイブ済みのファイルとフォルダは、次の基準で並べ替えを行うことができます。名前、ファイルタイプ、サイズ、状態(アーカイブ済み、未アーカイブ、アーカイブ中)、ファイルが最後にアーカイブされた日付、コンピュータ上のファイルの場所(パス)

アーカイブ済みファイルを並べ替えるには

- 1 [ローカルアーカイブ]タブをクリックします。
- 2 右パネルで、列の名前をクリックします。

アーカイブ済みファイルを検索

アーカイブ済みファイルのリポジトリ(保管領域)が大きい場合、検索すると迅速にファイルを見つけることができます。ファイル名またはパスのすべてまたは一部を入力して検索し、次におよそのファイルサイズと最後にアーカイブされた日付を指定して検索対象を絞り込めます。

アーカイブ済みファイルを検索するには

- 1 ファイル名のすべてまたは一部を画面上部の[検索]ボックスに入力し、ENTER キーを押します。
- 2 パスのすべてまたは一部を[パスのすべてまたは一部]ボックスに入力します。

- 3 次のいずれかを実行して、検索するファイルのおよそのサイズを指定します。
 - [100 KB 未満]、[1 MB 未満]または[1 MB より大きい]をクリックします。
 - [サイズ (KB)]をクリックし、ボックスに適切なサイズ値を指定します。
- 4 次のいずれかを実行して、ファイルのオンラインバックアップが最後に実行されたおよその日付を指定します。
 - [今週]、[今月]または[今年]をクリックします。
 - [日付を指定]をクリックして、リストで[アーカイブ済み]をクリックしたら、データリストから適切なデータ値を選択します。
- 5 [検索]をクリックします。

注: サイズまたは最後にアーカイブを実行した日付がわからない場合には、[不明]をクリックします。

アーカイブ済みファイルを使用

ローカルアーカイブのエクスプローラでアーカイブファイルを開き、コンテンツを確認できます。

アーカイブ済みファイルを開くには

- 1 [ローカルアーカイブ]タブをクリックします。
- 2 右パネルでファイル名をクリックし、[開く]をクリックします。

ヒント: ファイル名をダブルクリックして、アーカイブ済みのファイルを開くこともできます。

アーカイブ済みファイルを復元

監視対象のファイルが壊れた場合、不足している場合、または誤って削除された場合には、ローカルアーカイブからファイルのコピーを復元できます。したがって、定期的にファイルをアーカイブすることが重要です。ローカルアーカイブから古いバージョンのファイルを復元することもできます。たとえば、定期的にファイルをアーカイブしているときに、ファイルを以前のバージョンに戻したい場合には、アーカイブ保存場所のファイルを使用して以前のバージョンに戻すことができます。アーカイブ保存場所がローカルドライブまたはネットワークドライブの場合は、ファイルを参照できます。アーカイブ保存場所が外部ハードディスクまたは USB ドライブの場合は、ドライブをコンピュータに接続してからファイルを参照します。アーカイブ保存場所が CD または DVD の場合は、CD または DVD をコンピュータに挿入してからファイルを参照します。

あるコンピュータでアーカイブしたファイルを別のコンピュータから復元することもできます。たとえば、コンピュータ A で外部ハードディスクにファイルをアーカイブした場合、コンピュータ B でこれらのファイルを復元できます。これを実行するには、コンピュータ B に McAfee Data Backup をインストールしてその外部ハードディスクに接続する必要があります。McAfee Data Backup でファイルを参照すると、ファイルが **[不足ファイル]** リストに追加されます。

ファイルのアーカイブについては、「ファイルをアーカイブ」を参照してください。監視対象のファイルをアーカイブから意図的に削除した場合、**[不足ファイル]** リストのエントリも削除できます。

ローカルアーカイブから不足ファイルを復元

McAfee Data Backup のローカルアーカイブを使用すると、ローカルコンピュータ上の監視対象のフォルダで不足しているデータを復元できます。たとえば、監視対象のフォルダからファイルが移動または削除された場合、すでにアーカイブが行われていれば、ローカルアーカイブからファイルを復元できます。

ローカルアーカイブから不足ファイルを取得するには

- 1 **[ローカルアーカイブ]** タブをクリックします。
- 2 画面の下部にある **[不足ファイル]** タブで、復元するファイル名の横のチェックボックスを選択します。
- 3 **[復元]** をクリックします。

ヒント: **[すべてを復元]** をクリックすると、**[不足ファイル]** リストのファイルをすべて復元できます。

ローカルアーカイブから古いバージョンのファイルを復元

アーカイブ済みの古いバージョンのファイルを復元するには、ファイルの場所を指定して、[不足ファイル]リストに追加します。[不足ファイル]リスト内のほかのファイルと同様に、ファイルの復元を行うことができます。

ローカルアーカイブから古いバージョンのファイルを復元するには

- 1 [ローカルアーカイブ]タブをクリックします。
- 2 画面の下部にある[不足ファイル]タブで、[参照]をクリックし、アーカイブの保存場所を指定します。
- 3 場所を選択して、[OK]をクリックします。

選択した場所に含まれるファイルは、[不足ファイル]リストに表示され、復元できる状態になっています。詳細については、「ローカルアーカイブから不足ファイルを復元」を参照してください。

変更ファイルのリストからファイルを削除

アーカイブ済みファイルを監視対象のフォルダから移動したり、削除すると、ファイルは自動的に[不足ファイル]リストに表示されます。さらに、アーカイブ済みファイルと監視対象のフォルダ内のファイルが一致しないという警告メッセージが表示されます。ファイルが監視対象のフォルダから移動されたか、意図的に削除された場合、[不足ファイル]リストからファイルを削除できます。

変更ファイルのリストからファイルを削除するには

- 1 [ローカルアーカイブ]タブをクリックします。
- 2 画面の下部にある[不足ファイル]タブで、削除するファイル名の横のチェックボックスを選択します。
- 3 [削除]をクリックします。

ヒント: [すべてを削除]をクリックすると、[不足ファイル]リストのファイルをすべて削除できます。

アーカイブを管理

完全アーカイブとクイックアーカイブに関する情報の概要は、いつでも表示できます。たとえば、現在監視中のデータの量、アーカイブ済みのデータの量、現在監視中でまだアーカイブされていないデータの量などの情報を表示できます。最後のアーカイブや次のアーカイブの日付といったスケジュールに関する情報も表示できます。

アーカイブアクティビティの概要を表示

アーカイブのアクティビティに関する情報は、いつでも表示できます。たとえば、アーカイブ済みのファイルの割合、監視中のデータのサイズ、アーカイブ済みのデータのサイズ、および監視中でまだアーカイブが行われていないデータのサイズを表示できます。最後のアーカイブおよび次のアーカイブの日時を表示することもできます。

バックアップのアクティビティの概要を表示するには

- 1 [ローカルアーカイブ]タブをクリックします。
- 2 画面の上部で、[アカウントの概要]をクリックします。

第 37 章

McAfee QuickClean

McAfee QuickClean で不要なファイルを削除し、コンピュータのパフォーマンスを向上させることができます。また、ごみ箱を空にして一時ファイル、ショートカットを削除し、破損ファイルの断片、レジストリファイル、キャッシュファイル、Cookie、ブラウザ履歴ファイル、送信済みおよび削除済み E メール、最近使用したファイル、Active X ファイル、およびシステム復元ポイントファイルを削除します。また、McAfee QuickClean では、McAfee Shredder のコンポーネントを使用して、名前や住所などの個人情報や機密情報を含む項目を安全な方法で永久に削除し、プライバシーを守ります。ファイルの抹消の詳細については、「McAfee Shredder」を参照してください。

ディスク最適化プログラムにより、コンピュータのハードドライブへの保存時にファイルやフォルダが断片化されないように調整できます。ハードドライブを定期的に最適化することで、これらの断片化されたファイルおよびフォルダを後ですばやく取得できるように整理することができます。

コンピュータを手動で保守しない場合は、McAfee QuickClean およびディスク最適化プログラムの両方を、独立したタスクとしてさまざまな頻度で自動実行するようにスケジュールできます。

注: McAfee SecurityCenter は、問題を検出するとただちに重要な問題かどうかをレポートします。保護の問題を診断する上で詳細情報が必要な場合は、McAfee Virtual Technician を実行します。

このセクションの内容

McAfee QuickCleanの機能	194
コンピュータをクリーニング	194
コンピュータの最適化	198
タスクのスケジュール	199

McAfee QuickClean の機能

McAfee QuickClean には、必要のないファイルを安全で効率的に削除するさまざまなクリーナが用意されています。これらのファイルを削除することにより、コンピュータのハードドライブの空き容量が増加し、パフォーマンスが改善されます。

コンピュータをクリーニング

McAfee QuickClean により、コンピュータ上に作成された不要なファイルが削除されます。ごみ箱が空になり、一時ファイル、ショートカット、破損ファイルの断片、レジストリファイル、キャッシュファイル、Cookie、ブラウザ履歴ファイル、送信済み E メールと削除済み E メール、最近使用したファイル、Active-X ファイル、およびシステム復元ポイントファイルが削除されます。McAfee QuickClean により、他の必要な情報に影響を与えることなくこれらの項目を削除できます。

McAfee QuickClean のクリーナを使用して、コンピュータから不要なファイルを削除できます。以下の表に、McAfee QuickClean のクリーナを示します。

名前	機能
ごみ箱クリーナ	ごみ箱内のファイルを削除します。
一時ファイルクリーナ	一時フォルダに保存されているファイルを削除します。
ショートカットクリーナ	機能していないショートカットや、関連するプログラムがないショートカットを削除します。
破損ファイルの断片クリーナ	コンピュータから破損ファイルの断片を削除します。
レジストリクリーナ	コンピュータ上に存在していないプログラムの Windows®レジストリ情報を削除します。 レジストリは、Windows によって設定情報が格納されるデータベースです。レジストリには、各ユーザのプロフィール、およびシステムのハードウェア、インストールされたプログラムおよびロパティの設定に関する情報が含まれます。 Windows は動作中にこの情報を継続的に参照します。

名前	機能
キャッシュクリーナ	<p>Web ページの閲覧中に蓄積したキャッシュファイルを削除します。通常、これらのファイルはキャッシュフォルダに一時ファイルとして保存されます。</p> <p>キャッシュフォルダは、コンピュータ上の一時的な記憶領域です。Web 閲覧の速度と効率を向上するために、次回閲覧時にはリモートサーバからではなくキャッシュから Web ページを取得できます。</p>
Cookie クリーナ	<p>Cookie を削除します。通常、これらのファイルは一時ファイルとして保存されます。</p> <p>Cookie は情報を含む小さなファイルで、通常ユーザ名と現在の日時を含み、Web を閲覧するコンピュータに保存されています。Cookie は主に Web サイトで使用され、以前に登録したユーザまたはサイトにアクセスしたユーザを特定します。ただし、同時にハッカーにとっても情報源となります。</p>
ブラウザ履歴クリーナ	<p>Web ブラウザ履歴を削除します。</p>
Outlook Express E メールクリーナと Outlook E メールクリーナ (送信済み項目と削除済み項目)	<p>送信済み E メールと削除済み E メールを Outlook® と Outlook Express から削除します。</p>
最近使用した項目クリーナ	<p>これらのプログラムで作成した、最近使用したファイルを削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Adobe Acrobat® • Corel® WordPerfect® Office (Corel 事務所) • Jasc® • Lotus® • Microsoft® Office® • RealPlayer™ • Windows 履歴 • Windows Media Player • WinRAR® • WinZip®

名前	機能
ActiveX クリーナ	ActiveX コントロールを削除します。 ActiveX は、複合した機能を追加するためにプログラムまたは Web ページで使用されるソフトウェアコンポーネントで、通常のプログラムまたは Web ページの一部として表示されます。ActiveX コントロールの多くは無害ですが、コンピュータから情報が収集される場合もあります。
システム復元ポイントク リーナ	古いシステム復元ポイント(最新のものを除く)をコンピュータから削除します。 システム復元ポイントは、Windows によって作成され、コンピュータへの変更がマークされるため、問題が発生した場合に以前の状態に戻すことができます。

コンピュータをクリーニング

McAfee QuickClean のクリーナを使用して、コンピュータから不要なファイルを削除できます。完了すると、[**McAfee QuickClean の概要**]に、クリーンアップ後に増加した空き容量、削除されたファイル数、および最後にコンピュータで McAfee QuickClean の操作を実行した日時が表示されます。

- 1 [McAfee SecurityCenter] ペイン(ウインドウ枠)の [**よく使う機能**] で、[**コンピュータの保守**] をクリックします。
- 2 [**McAfee QuickClean**] で [**開始**] をクリックします。
- 3 次のいずれかの操作を実行します。
 - [**次へ**] をクリックして、リスト内の標準設定のクリーナを使用します。
 - 適切なクリーナを選択または選択を解除して、[**次へ**] をクリックします。[最近使用した項目クリーナ] を選択する場合は、[**プロパティ**] をクリックして、リスト内の最近作成したファイルを選択または選択を解除し、[**OK**] をクリックします。
 - [**デフォルトに戻す**] をクリックして、標準設定のクリーナを戻し、[**次へ**] をクリックします。
- 4 分析が実行されたら、[**次へ**] をクリックします。
- 5 ファイルの削除を確認するには、[**次へ**] をクリックします。

- 6 次のいずれかの操作を実行します。
 - [次へ]をクリックして標準設定の[Windows の通常の削除方法でファイルを削除します。]を選択します。
 - [Shredder を使用して安全な方法でファイルを削除します。]をクリックして、削除する回数を最高 10 回で指定し、[次へ]をクリックします。消去する情報が大量にある場合、ファイルの抹消には時間がかかります。
- 7 クリーンアップ中にファイルまたは項目がロックされていた場合、コンピュータを再起動するようメッセージが表示される場合があります。このメッセージを閉じるには[OK]をクリックします。
- 8 [完了]をクリックします。

注: McAfee Shredder で削除したファイルは復元できません。ファイルの抹消の詳細については、「McAfee Shredder」を参照してください。

コンピュータの最適化

ディスク最適化プログラムは、コンピュータ上のファイルとフォルダを配置し、コンピュータのハードドライブに保存するときに散在(断片化)しないようにします。ハードドライブを定期的に最適化することで、これらの断片化されたファイルおよびフォルダを後ですばやく取得できるように整理することができます。

コンピュータの最適化

コンピュータを最適化して、ファイルとフォルダのアクセスおよび読み込みの性能を向上します。

- 1 [McAfee SecurityCenter]パネル(ウインドウ枠)の[よく使う機能]で、[コンピュータの保守]をクリックします。
- 2 [ディスク最適化プログラム]で[分析]をクリックします。
- 3 画面に表示された指示に従います。

注: ディスク最適化プログラムの詳細については、Windows のヘルプを参照してください。

タスクのスケジュール

タスクスケジューラを使用して、McAfee QuickClean またはディスク最適化プログラムをコンピュータ上で実行する頻度を自動化します。たとえば、毎週日曜日の午後 9 時にごみ箱を空にするよう McAfee QuickClean タスクのスケジュールを設定できます。また、毎月末にコンピュータのハードドライブを最適化するようディスク最適化プログラムタスクのスケジュールを設定できます。タスクの作成、変更、削除はいつでも実行することができます。スケジュールタスクを実行するには、コンピュータにログインする必要があります。タスクが何らかの理由で実行されない場合は、次回ログイン後の 5 分後に再スケジュールされます。

McAfee QuickClean タスクのスケジュール

McAfee QuickClean タスクをスケジュールすると、1 つ以上のクリーナを使用して自動的にコンピュータの不要物を削除できます。完了すると、[QuickClean の概要] に次回タスクが実行される日時が表示されます。

1 [タスクスケジューラ] ペイン (ウインドウ枠) を開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の [よく使う機能] で、[コンピュータの保守] をクリックします。
2. [タスクスケジューラ] で [開始] をクリックします。

2 [スケジュール設定する操作を選択] リストで、[McAfee QuickClean] をクリックします。

3 [タスク名] ボックスにタスク名を入力し、[作成] をクリックします。

4 次のいずれかの操作を実行します。

- [次へ] をクリックして、リスト内の標準設定のクリーナを使用します。
- 適切なクリーナを選択または選択を解除して、[次へ] をクリックします。[最近使用した項目クリーナ] を選択する場合は、[プロパティ] をクリックして、リスト内の最近作成したファイルを選択または選択を解除し、[OK] をクリックします。
- [デフォルトに戻す] をクリックして、標準設定のクリーナを戻し、[次へ] をクリックします。

5 次のいずれかの操作を実行します。

- [スケジュール] をクリックして標準設定の [Windows の通常の削除方法でファイルを削除します。] を選択します。
- [Shredder を使用して安全な方法でファイルを削除します。] をクリックして、削除する回数を最高 10 回で指定し、[スケジュール] をクリックします。

- 6 [スケジュール]ダイアログボックスで、タスクを実行する頻度を選択し、[OK]をクリックします。
- 7 [最近使用した項目クリーナ]プロパティを変更すると、コンピュータを再起動するようメッセージが表示されます。このメッセージを閉じるには[OK]をクリックします。
- 8 [完了]をクリックします。

注: McAfee Shredder で削除したファイルは復元できません。ファイルの抹消の詳細については、「McAfee Shredder」を参照してください。

McAfee QuickClean タスクの変更

スケジュール設定した McAfee QuickClean タスクを変更すると、クリーナや自動実行の頻度を変更できます。完了すると、[QuickClean の概要]に次回タスクが実行される日時が表示されます。

- 1 [タスクスケジューラ]ペイン(ウインドウ枠)を開きます。
機能の内容
 1. McAfee SecurityCenter の[よく使う機能]で、[コンピュータの保守]をクリックします。
 2. [タスクスケジューラ]で[開始]をクリックします。
- 2 [スケジュール設定する操作を選択]リストで、[McAfee QuickClean]をクリックします。
- 3 [既存のタスクを選択]リストでタスクを選択し、[変更]をクリックします。
- 4 次のいずれかの操作を実行します。
 - [次へ]をクリックして、タスク用に選択したクリーナを許可します。
 - 適切なクリーナを選択または選択を解除して、[次へ]をクリックします。[最近使用した項目クリーナ]を選択する場合は、[プロパティ]をクリックして、リスト内の最近作成したファイルを選択または選択を解除し、[OK]をクリックします。
 - [デフォルトに戻す]をクリックして、標準設定のクリーナを戻し、[次へ]をクリックします。
- 5 次のいずれかの操作を実行します。
 - [スケジュール]をクリックして標準設定の[Windows の通常の削除方法でファイルを削除します。]を選択します。
 - [Shredder を使用して安全な方法でファイルを削除します。]をクリックして、削除する回数を最高 10 回で指定し、[スケジュール]をクリックします。
- 6 [スケジュール]ダイアログボックスで、タスクを実行する頻度を選択し、[OK]をクリックします。

- 7 [最近使用した項目クリーナ]プロパティを変更すると、コンピュータを再起動するようメッセージが表示されます。このメッセージを閉じるには[OK]をクリックします。
- 8 [完了]をクリックします。

注: McAfee Shredder で削除したファイルは復元できません。ファイルの抹消の詳細については、「McAfee Shredder」を参照してください。

McAfee QuickClean タスクの削除

タスクを自動実行しない場合は、スケジュール設定した McAfee QuickClean タスクを削除できます。

- 1 [タスクスケジューラ]ペイン(ウインドウ枠)を開きます。
機能の内容
 1. McAfee SecurityCenter の[よく使う機能]で、[コンピュータの保守]をクリックします。
 2. [タスクスケジューラ]で[開始]をクリックします。
- 2 [スケジュール設定する操作を選択]リストで、[McAfee QuickClean]をクリックします。
- 3 [既存のタスクを選択]リストでタスクを選択します。
- 4 [削除]をクリックし、削除を確認するには[はい]をクリックします。
- 5 [完了]をクリックします。

ディスク最適化プログラムタスクのスケジュール

ディスク最適化プログラムタスクをスケジュールすると、コンピュータのハードドライブを自動的に最適化する頻度をスケジュールできます。完了すると、[ディスク最適化プログラム]に次回タスクが実行される日時が表示されます。

- 1 [タスクスケジューラ]ペイン(ウインドウ枠)を開きます。
機能の内容
 1. McAfee SecurityCenter の[よく使う機能]で、[コンピュータの保守]をクリックします。
 2. [タスクスケジューラ]で[開始]をクリックします。
- 2 [スケジュール設定する操作を選択]リストで、[ディスク最適化プログラム]をクリックします。
- 3 [タスク名]ボックスにタスク名を入力し、[作成]をクリックします。

- 4 次のいずれかの操作を実行します。
 - [スケジュール]をクリックして標準設定の[空き容量が少ない場合でもディスクの最適化を実行]オプションを選択します。
 - [空き容量が少ない場合でもディスクの最適化を実行]オプションの選択を解除して、[スケジュール]をクリックします。
- 5 [スケジュール]ダイアログボックスで、タスクを実行する頻度を選択し、[OK]をクリックします。
- 6 [完了]をクリックします。

ディスク最適化プログラムタスクの変更

ディスク最適化プログラムタスクを変更すると、コンピュータのハードドライブを自動的に最適化する頻度を変更できます。完了すると、[ディスク最適化プログラム]に次回タスクが実行される日時が表示されます。

- 1 [タスクスケジューラ]ペイン(ウインドウ枠)を開きます。

機能の内容

 1. McAfee SecurityCenter の[よく使う機能]で、[コンピュータの保守]をクリックします。
 2. [タスクスケジューラ]で[開始]をクリックします。
- 2 [スケジュール設定する操作を選択]リストで、[ディスク最適化プログラム]をクリックします。
- 3 [既存のタスクを選択]リストでタスクを選択し、[変更]をクリックします。
- 4 次のいずれかの操作を実行します。
 - [スケジュール]をクリックして標準設定の[空き容量が少ない場合でもディスクの最適化を実行]オプションを選択します。
 - [空き容量が少ない場合でもディスクの最適化を実行]オプションの選択を解除して、[スケジュール]をクリックします。
- 5 [スケジュール]ダイアログボックスで、タスクを実行する頻度を選択し、[OK]をクリックします。
- 6 [完了]をクリックします。

ディスク最適化プログラムタスクの削除

タスクを自動実行しない場合は、スケジュール設定したディスク最適化プログラムタスクを削除できます。

- 1 [タスクスケジューラ] ペイン (ウインドウ枠) を開きます。

機能の内容

1. McAfee SecurityCenter の [よく使う機能] で、[コンピュータの保守] をクリックします。
 2. [タスクスケジューラ] で [開始] をクリックします。
- 2 [スケジュール設定する操作を選択] リストで、[ディスク最適化プログラム] をクリックします。
 - 3 [既存のタスクを選択] リストでタスクを選択します。
 - 4 [削除] をクリックし、削除を確認するには [はい] をクリックします。
 - 5 [完了] をクリックします。

第 38 章

McAfee Shredder

McAfee Shredder は、ご使用のコンピュータのハードドライブから項目を完全に削除(または抹消)します。手動でファイルおよびフォルダを削除したり、ごみ箱を空にしたり、またはインターネット一時ファイルを削除した場合でも、入手可能な専用のツールを使用することで誰でも情報を復元することができます。また、プログラムによっては開いているファイルのコピーが隠しファイルとして一時的に保存されることもあるため、削除したファイルの復元が可能です。McAfee Shredder は、これらの不要なファイルを安全な方法で永久に消去してプライバシーを守ります。抹消されたファイルは復元できないことに注意してください。

注: McAfee SecurityCenter は、問題を検出するとただちに重要な問題かどうかをレポートします。保護の問題を診断する上で詳細情報が必要な場合は、McAfee Virtual Technician を実行します。

このセクションの内容

McAfee Shredderの機能	206
ファイル、フォルダ、ディスクの抹消	206

McAfee Shredder の機能

McAfee Shredder は、ファイルの関連情報を復元できないようにするためにコンピュータのハードドライブから項目を削除します。これにより、ごみ箱およびインターネット一時ファイルにあるファイルやフォルダ、また書き換え可能 CD、外部ハードディスクおよびフロッピーディスクのようなコンピュータ全体のデータを削除して安全な方法で永久にプライバシーを守ります。

ファイル、フォルダ、ディスクの抹消

McAfee Shredder を使用すると、特別なツールを使用しても、ごみ箱やインターネット一時ファイルにある削除済みファイルやフォルダ内の情報を復元できなくなります。McAfee Shredder では、単一の項目を抹消する回数を最大で 10 回まで指定できます。抹消の回数が多くなるほど、ファイルの削除の安全性レベルが高くなります。

ファイルとフォルダを抹消

コンピュータのハードドライブから、ごみ箱およびインターネット一時ファイル内にある項目を含む、ファイルおよびフォルダを抹消できます。

1 Shredder を開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能] の下の [McAfee SecurityCenter] ペイン (ウインドウ枠) で、[詳細メニュー] をクリックします。
2. 左ペイン (ウインドウ枠) で、[ツール] をクリックします。
3. [Shredder] をクリックします。
4. [オプションの選択] の下の [ファイルとフォルダを抹消] パネルで、[ファイルおよびフォルダの消去] をクリックします。
5. [抹消のレベル] で、次の抹消のレベルのいずれかをクリックします。
 - 簡易: 選択した項目の抹消を 1 回実行します。
 - 嚴重: 選択した項目の抹消を 7 回実行します。
 - カスタム: 選択した項目の抹消を最高 10 回実行します。
6. [次へ] をクリックします。
7. 次のいずれかの操作を実行します。
 - [抹消するファイルを選択] リストで、[ごみ箱の中身] または [インターネット一時ファイル] のいずれかをクリックします。
 - [参照] をクリックして抹消するファイルの場所を指定し、ファイルを選択し、[Open (開く)] をクリックします。

- 6 [次へ]をクリックします。
- 7 [開始]をクリックします。
- 8 Shredder が終了したら、[終了]をクリックします。

注:Shredder がタスクを実行している間はどのファイルにもアクセスしないでください。

ディスク全体のデータの抹消

ディスク全体のデータを 1 回で抹消できます。外部ハードディスク、書き換え可能 CD、およびフロッピーディスクのようなリムーバブルドライブのみ抹消できます。

- 1 **Shredder** を開きます。

機能の内容

1. [よく使う機能]の下の[McAfee SecurityCenter]ペイン(ウインドウ枠)で、[詳細メニュー]をクリックします。
 2. 左ペイン(ウインドウ枠)で、[ツール]をクリックします。
 3. [Shredder]をクリックします。
- 2 [オプションの選択]の下の[ファイルとフォルダを抹消]ペイン(ウインドウ枠)で、[ファイルおよびフォルダの消去]をクリックします。
 - 3 [抹消のレベル]で、次の抹消のレベルのいずれかをクリックします。
 - 簡易: 選択したドライブの抹消を 1 回実行します。
 - 嚴重: 選択したドライブの抹消を 7 回実行します。
 - カスタム: 選択したドライブの抹消を 10 回実行します。
 - 4 [次へ]をクリックします。
 - 5 [ディスクの選択]リストで、抹消するドライブをクリックします。
 - 6 [次へ]をクリックし、確認するには[はい]をクリックします。
 - 7 [開始]をクリックします。
 - 8 Shredder が終了したら、[終了]をクリックします。

注:Shredder がタスクを実行している間はどのファイルにもアクセスしないでください。

第 39 章

McAfee Network Manager

McAfee Network Manager では、ホームネットワーク内のコンピュータおよびコンポーネントに関する情報をグラフィカルに表示できます。McAfee Network Manager を使用すると、ネットワーク上の管理された各コンピュータの保護の状態を監視したり、管理されたコンピュータに存在する、報告されているセキュリティ上の脆弱性をリモートで修復できます。

McAfee Network Manager の使用を開始する前に、いくつかの機能について理解することができます。これらの機能の設定と使用方法に関する詳細は、McAfee Network Manager のヘルプに書かれています。

注: McAfee SecurityCenter は、問題を検出するとただちに重要な問題かどうかをレポートします。保護の問題を診断する上で詳細情報が必要な場合は、McAfee Virtual Technician を実行します。

このセクションの内容

McAfee Network Managerの機能	210
McAfee Network Manager のアイコンについて	211
管理されたネットワークをセットアップ	213
ネットワークをリモートで管理	219

McAfee Network Manager の機能

McAfee Network Manager には、次の機能が搭載されています。

グラフィカルなネットワーク地図














McAfee Network Manager のネットワーク地図では、ホームネットワーク上のコンピュータおよびコンポーネントに関する保護の状態を簡単に把握できます。ネットワークに対して変更が行われると(たとえば、コンピュータの追加など)、その変更はネットワーク地図に反映されます。ネットワーク地図を更新したり、ネットワークの名称を変更したり、ネットワーク地図のコンポーネントを表示または非表示にして表示画面をカスタマイズできます。また、ネットワーク地図に表示されているすべてのコンポーネントに関する詳細を表示することもできます。

リモート管理

McAfee Network Manager のネットワーク地図を使用すると、ホームネットワーク上のコンピュータに関する保護の状態を管理できます。管理されたネットワークに参加するようほかのコンピュータを招待したり、管理されたコンピュータの保護の状態を監視したり、ネットワーク上のリモートコンピュータから既知のセキュリティ上の脆弱性を修復できます。

McAfee Network Manager のアイコンについて

次の表に、McAfee Network Manager のネットワーク地図で通常使用されるアイコンを示します。

アイコン	説明
	オンラインの管理されたコンピュータを示します。
	オフラインの管理されたコンピュータを示します。
	McAfee SecurityCenter がインストールされている、管理されていないコンピュータを示します。
	オフラインの管理されていないコンピュータを示します。
	McAfee SecurityCenter がインストールされていない、オンラインのコンピュータまたは未知のネットワークデバイスを示します。
	McAfee SecurityCenter がインストールされていない、オフラインのコンピュータまたはオフラインの未知のネットワークデバイスを示します。
	保護および接続されている該当項目を示します。
	対応を必要とする該当項目を示します。
	早急な対応を必要とする該当項目を示します。
	家庭用のワイヤレスルータを示します。
	標準の家庭用ルータを示します。
	インターネットが接続されている状態を示します。
	インターネットが切断されている状態を示します。

第 40 章

管理されたネットワークをセットアップ

管理されたネットワークをセットアップするには、ネットワーク地図上の項目を使用し、メンバー(コンピュータ)をネットワークに追加します。コンピュータをリモートで管理する前、またはネットワーク上の他のコンピュータをリモートで管理する権限を得る前に、そのコンピュータをネットワーク上の信頼するメンバーに設定する必要があります。ネットワークメンバーシップは、管理者権限のある既存のネットワークメンバー(コンピュータ)により、新しいコンピュータに対して許可されます。

たとえば、コンピュータの追加など、ネットワークに変更を加えた後でも、ネットワーク地図に表示されるコンポーネントに関連付けられている詳細が表示されます。

このセクションの内容

ネットワーク地図を使用	214
管理されたネットワークに参加	216

ネットワーク地図を使用

コンピュータをネットワークに接続する場合は、McAfee Network Manager はネットワークを分析し、管理されたメンバーまたは管理されていないメンバーの有無、ルータの属性、およびインターネットの状態を確認します。メンバーが検出されない場合は、McAfee Network Manager は、現在接続されているコンピュータをネットワーク上の最初のコンピュータと見なし、そのコンピュータを管理者権限のある管理されたメンバーであると認識します。標準設定では、ネットワーク名には、最初にネットワークに接続した McAfee SecurityCenter がインストール済みのコンピュータのワークグループまたはドメイン名が含まれます。ただし、ネットワーク名はいつでも変更できます。

ネットワークに対して変更を行った場合(たとえば、コンピュータの追加など)は、ネットワーク地図をカスタマイズできます。たとえば、ネットワーク地図を更新したり、ネットワークの名称を変更したり、ネットワーク地図のコンポーネントを表示または非表示にして表示画面をカスタマイズできます。また、ネットワーク地図に表示されているすべてのコンポーネントに関する詳細を表示することもできます。

ネットワーク地図にアクセス

ネットワーク地図では、家庭のネットワーク上のコンピュータおよびコンポーネントに関する情報をグラフィカルに表示できます。

- 標準メニューまたは詳細メニューで、[ネットワークの管理]をクリックします。

注: ネットワーク地図に初めてアクセスする場合、ネットワーク上の他のコンピュータを信頼することを要求するメッセージが表示されます。

ネットワーク地図を更新

ネットワーク地図はいつでも更新できます(たとえば、管理されたネットワークに別のコンピュータが追加された場合など)。

- 1 標準メニューまたは詳細メニューで、[ネットワークの管理]をクリックします。
- 2 [オプションの選択]の下の[ネットワーク地図を更新]をクリックします。

注: ネットワーク地図で項目が選択されていない場合に限り、[ネットワーク地図を更新]リンクを使用できます。項目の選択を解除するには、選択した項目をクリックするか、ネットワーク地図の空いている領域をクリックします。

ネットワークの名称を変更

標準設定では、ネットワーク名には、最初にネットワークに接続した McAfee SecurityCenter がインストール済みのコンピュータのワークグループまたはドメイン名が含まれます。他の名称を使用したい場合は、名称を変更できます。

- 1 標準メニューまたは詳細メニューで、[ネットワークの管理]をクリックします。
- 2 [オプションの選択]の下の[ネットワークの名称を変更]をクリックします。
- 3 [ネットワーク名]ボックスにネットワーク名を入力します。
- 4 [OK]をクリックします。

注:ネットワーク地図で項目が選択されていない場合に限り、[ネットワークの名称を変更]リンクを使用できます。項目の選択を解除するには、選択した項目をクリックするか、ネットワーク地図の空いている領域をクリックします。

ネットワーク地図で項目を表示/非表示

標準設定では、ホームネットワーク上のコンピュータおよびコンポーネントはすべてネットワーク地図に表示されます。ただし、項目を非表示にした場合でも、いつでも再び表示するように変更できます。非表示にできるのは、管理されていない項目のみです。管理されたコンピュータは非表示にできません。

目的...	標準メニューまたは詳細メニューで、[ネットワークの管理]をクリックしてから、次の操作を実行します。
項目をネットワーク地図に非表示	ネットワーク地図上の項目をクリックして、[オプションの選択]で[この項目を表示しない]をクリックします。確認のダイアログボックスで、[はい]をクリックします。
非表示の項目をネットワーク地図に表示	[オプションの選択]で、[非表示の項目を表示]をクリックします。

項目の詳細を表示

ネットワーク地図のコンポートメントを選択すると、ネットワーク地図に表示されているすべてのコンポーネントに関する詳細を表示することができます。この情報には、コンポーネント名、保護の状態など、コンポーネントの管理に必要な情報が含まれます。

- 1 ネットワーク地図の項目のアイコンをクリックします。
- 2 [詳細]に、項目の詳細が表示されます。

管理されたネットワークに参加

コンピュータをリモートで管理する前、またはネットワーク上の他のコンピュータをリモートで管理する権限を得る前に、そのコンピュータをネットワーク上の信頼するメンバーに設定する必要があります。ネットワークメンバーシップは、管理者権限のある既存のネットワークメンバー(コンピュータ)により、新しいコンピュータに対して許可されます。信頼するコンピュータのみがネットワークに参加するようにするには、コンピュータを許可するユーザとコンピュータに参加させるユーザが互いを認証する必要があります。

コンピュータがネットワークに参加する際は、そのコンピュータのマカフィーによる保護状態をネットワーク上の他のコンピュータに公開するよう要求されます。保護の状態を他のコンピュータに公開することに同意した場合、そのコンピュータはネットワークの管理されたメンバーとなります。保護の状態を他のコンピュータに公開することを拒否した場合、そのコンピュータはネットワークの管理されていないメンバーとなります。通常、ネットワーク上の管理されていないメンバーとは、他のネットワーク機能(ファイルの送信またはプリンタの共有など)にアクセスするゲストコンピュータとなります。

注: 他のマカフィー ネットワーク プログラム(McAfee EasyNetwork など)がインストールされている場合、ネットワークに参加すると、そのコンピュータはこれらのプログラムでも管理されたコンピュータとして認識されます。McAfee Network Manager のコンピュータに割り当てられた権限レベルは、すべてのマカフィー ネットワーク プログラムに適用されます。ほかのマカフィー ネットワーク プログラムで適用されるゲスト、すべて、管理者の内容の詳細については各プログラムのユーザガイドやヘルプを参照してください。

管理されたネットワークに参加

管理されたネットワークへの招待を受信すると、招待を受け入れるか拒否するかを選択できます。このコンピュータとネットワーク上の他のコンピュータとで、セキュリティ設定(コンピュータのウイルス対策サービスが最新であるかどうかなど)を互いに監視するかどうかを指定することもできます。

- 1 [管理されたネットワーク]ダイアログボックスで、[このネットワークのすべてのコンピュータにセキュリティ設定の監視を許可]チェックボックスが選択されているかどうか確認します。
- 2 [参加]をクリックします。
招待を受け入れると、2枚のカードが表示されます。
- 3 表示されたカードが、ご使用のコンピュータを管理されたネットワークに招待したコンピュータに表示されているカードと同じであることを確認します。
- 4 [OK]をクリックします。

注:ご使用のコンピュータを管理されたネットワークに招待したコンピュータに表示されているカードが、セキュリティを確認するダイアログボックスに表示されているものと異なる場合、管理されたネットワーク上にセキュリティ侵害があったことを示します。ネットワークに参加するとコンピュータが危険にさらされる可能性があるため、[管理されたネットワーク]ダイアログボックスで[キャンセル]をクリックしてください。

管理されたネットワークにコンピュータを招待

管理されたネットワークにコンピュータが追加された場合、または管理されていない別のコンピュータが存在する場合、そのコンピュータを管理されたネットワークに招待できます。ネットワーク上で管理者権限のあるコンピュータのみが他のコンピュータを招待できます。招待を送信するときに、参加するコンピュータに割り当てる権限レベルを指定することもできます。

- 1 ネットワーク地図で管理されていないコンピュータのアイコンをクリックします。
- 2 [オプションの選択]の下の[このコンピュータを監視]をクリックします。

- 3 [管理されたネットワークに招待する]ダイアログボックスで、次のいずれかの操作を実行します。
 - [管理されたネットワークプログラムへのゲストアクセスを許可]をクリックして、ネットワークへのアクセスを許可します(家庭での一時ユーザ用にこのオプションを使用できます)。
 - [管理されたネットワークプログラムへのすべてのアクセスを許可]をクリックして、ネットワークへのアクセスを許可します。
 - [管理されたネットワークプログラムへの管理者アクセスを許可]をクリックして、管理者権限がある場合にネットワークへのアクセスを許可します。また、このコンピュータは、管理されたネットワークに参加しようとする他のコンピュータにアクセスを許可することもできます。
- 4 [OK]をクリックします。
管理されたネットワークへの招待がコンピュータに送信されます。送信先のコンピュータが招待を受け入れると、2枚のカードが表示されます。
- 5 表示されたカードが、招待したコンピュータに表示されているカードと同じであることを確認します。
- 6 [アクセスを許可]をクリックします。

注:管理されたネットワークに招待したコンピュータに表示されているカードが、セキュリティを確認するダイアログボックスに表示されているものと異なる場合、管理されたネットワーク上にセキュリティ侵害があったことを示します。そのコンピュータがネットワークに参加すると他のコンピュータが危険にさらされる可能性があるため、セキュリティを確認するダイアログボックスの[アクセスを拒否]をクリックします。

ネットワーク上のコンピュータの信頼を取り消し

誤ってネットワーク上の他のコンピュータを信頼してしまった場合は、信頼を取り消すことができます。

- [オプションの選択]の下の[ネットワーク上のコンピュータの信頼を取り消す]をクリックします。

注: ネットワーク上に管理者権限のある管理されたコンピュータが他に
ある場合は、[ネットワーク上のコンピュータの信頼を取り消す]リンクを使用できません。

第 41 章

ネットワークをリモートで管理

管理されたネットワークをセットアップしたあと、ネットワークを構成するコンピュータおよびコンポーネントをリモートで管理できます。コンピュータおよびコンポーネントの状態および権限レベルを監視したり、多くのセキュリティ上の脆弱性をリモートで修復できます。

このセクションの内容

状態の監視と権限	220
セキュリティ上の脆弱性を修復	222

状態の監視と権限

管理されたネットワークには、管理されたメンバーと管理されていないメンバーがあります。管理されたメンバーは、ネットワーク上のほかのコンピュータに対して、マカフィーによる保護の状態の監視を許可できます。一方、管理されていないメンバーはこれを実行できません。通常、管理されていないメンバーは、他のネットワーク機能(ファイルの送信またはプリンタの共有など)にアクセスするゲストコンピュータです。ネットワーク上の管理されている別のコンピュータは、いつでも管理されていないコンピュータに対して、管理されたコンピュータになるように招待できます。同様に、管理されているコンピュータもいつでも管理されていないコンピュータになることができます。

管理されたコンピュータには、管理者、すべて、またはゲスト権限が付与されています。管理者権限では、管理されたコンピュータはネットワーク上の他の管理されたコンピュータすべての保護の状態を管理したり、他のコンピュータにネットワークへの参加を許可できます。すべての権限またはゲスト権限では、コンピュータはネットワークへのアクセスのみができます。コンピュータの権限レベルは、いつでも変更できます。

管理されたネットワークには、デバイス(ルータなど)も含まれるため、McAfee Network Manager を使用してこれらのデバイスも管理することができます。また、ネットワーク地図のデバイスの表示プロパティを設定したり変更することもできます。

コンピュータの保護の状態を監視

コンピュータがネットワークのメンバーでないか、コンピュータがネットワークの管理されていないメンバーであるかのいずれかの理由により、コンピュータの保護の状態がネットワークから監視されていない場合、監視するための要求を送信できます。

- 1 ネットワーク地図の管理されていないコンピュータのアイコンをクリックします。
- 2 [オプションの選択]の下の[このコンピュータを監視]をクリックします。

コンピュータの保護の状態の監視を停止

ネットワークの管理されているコンピュータの保護の状態の監視を停止します。ただし、取り消すと、コンピュータは管理されない状態になり、リモートから保護の状態を監視することはできません。

- 1 ネットワーク地図で管理されたコンピュータのアイコンをクリックします。
- 2 [オプションの選択]の下の[このコンピュータの監視を停止]をクリックします。
- 3 確認のダイアログボックスで、[はい]をクリックします。

管理されたコンピュータの権限を変更

管理されたコンピュータの権限は、いつでも変更できます。これにより、ネットワーク上の他のコンピュータの保護の状態を監視するコンピュータを変更できます。

- 1 ネットワーク地図で管理されたコンピュータのアイコンをクリックします。
- 2 [オプションの選択]の下の[このコンピュータの権限を変更]をクリックします。
- 3 [権限を変更]ダイアログボックスで、チェックボックスをオンまたはオフにし、このコンピュータおよび管理されたネットワーク上のほかのコンピュータが互いの保護の状態を監視するかどうかを決定します。
- 4 [OK]をクリックします。

デバイスを管理

McAfee Network Manager から、管理用 Web ページにアクセスしてデバイスを管理することができます。

- 1 ネットワーク地図のデバイスのアイコンをクリックします。
- 2 [オプションの選択]で[このデバイスを管理]をクリックします。Web ブラウザが起動され、デバイスの管理 Web ページが表示されます。
- 3 Web ブラウザで、ログイン情報を入力し、デバイスのセキュリティ設定を設定します。

注: デバイスが McAfee Wireless Network Security で保護されているワイヤレスルータまたはアクセスポイントである場合、McAfee Wireless Network Security を使用してデバイスのセキュリティ設定を設定する必要があります。

デバイスの表示プロパティを変更

デバイスの表示プロパティを変更する場合、ネットワーク地図のデバイスの表示名を変更し、デバイスがワイヤレスルータであるかどうかを指定できます。

- 1 ネットワーク地図のデバイスのアイコンをクリックします。
- 2 [オプションの選択]の下の[デバイスのプロパティを変更]をクリックします。
- 3 デバイスの表示名を指定するには、[名前]ボックスに名前を入力します。
- 4 デバイスの種類を指定するには、ワイヤレスルータでない場合は[標準ルータ]を、ワイヤレスの場合は[ワイヤレスルータ]をクリックします。
- 5 [OK]をクリックします。

セキュリティ上の脆弱性を修復

管理者権限のある管理されたコンピュータは、ネットワーク上の管理された他のコンピュータのマカフィーによる保護の状態を監視し、報告されているセキュリティ上の脆弱性をリモートで修復できます。たとえば、管理されたコンピュータのマカフィーによる保護の状態に、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)が無効になっていることが示されている場合、管理者権限のある別のコンピュータが、リモートで McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)を有効にできます。

セキュリティ上の脆弱性をリモートで修復すると、McAfee Network Manager は報告されている問題のほとんどを修復します。ただし、一部のセキュリティ上の脆弱性については、ローカルコンピュータでの手動操作が必要です。この場合、McAfee Network Manager はリモートで修復できる問題を修復してから、ユーザに対して、脆弱なコンピュータで McAfee SecurityCenter にログインして推奨される対処方法に従って残りの問題を修復するよう要求します。推奨される解決方法として、リモートコンピュータまたはネットワーク上のコンピュータで McAfee SecurityCenter の最新のバージョンをインストールするよう提案される場合もあります。

セキュリティ上の脆弱性を修復

McAfee Network Manager を使用し、管理されたりリモートコンピュータのほとんどのセキュリティ上の脆弱性を修復できます。たとえば、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)がリモートコンピュータ上で無効であれば、有効にできます。

- 1 ネットワーク地図の項目のアイコンをクリックします。
- 2 [詳細]で、項目の保護の状態を表示します。
- 3 [オプションの選択]の下の[セキュリティ上の脆弱性を修復]をクリックします。
- 4 セキュリティ上の問題が修復されたら、[OK]をクリックします。

注: McAfee Network Manager はほとんどのセキュリティ上の脆弱性を自動的に修復しますが、問題によっては、ユーザに対して、脆弱なコンピュータで McAfee SecurityCenter を開いて推奨される対処方法に従うよう要求する場合があります。

リモートコンピュータにマカフィー セキュリティ ソフトウェアをインストール

ネットワーク上の 1 台または複数のコンピュータが McAfee SecurityCenter の最新のバージョンを使用していない場合、そのコンピュータの保護の状態はリモートで監視できません。これらのコンピュータをリモートで監視する場合、各コンピュータに直接、McAfee SecurityCenter の最新のバージョンをインストールする必要があります。

- 1 セキュリティソフトウェアをインストールするコンピュータ上で、McAfee SecurityCenter を開きます。
- 2 [よく使う機能] で [マイアカウント] をクリックします。
- 3 インストール時にセキュリティソフトウェアに登録した E メールアドレスとパスワードを使用してログインします。
- 4 該当する製品を選択して、[ダウンロード/インストール] アイコンをクリックし、画面の指示に従います。

第 42 章

McAfee EasyNetwork

McAfee EasyNetwork を使用すると、家庭のネットワーク内のコンピュータ同士で安全にファイルを共有したり、簡単にファイルを転送できます。また、プリンタを共有することもできます。ただし、この機能を活用するためには、ネットワーク内のコンピュータに McAfee EasyNetwork を必ずインストールしてください。

McAfee EasyNetwork を使用する前に、よく利用する機能について理解することができます。これらの機能の設定と使用方法に関する詳細は、McAfee EasyNetwork のヘルプに書かれています。

注: McAfee SecurityCenter は、問題を検出するとただちに重要な問題かどうかをレポートします。保護の問題を診断する上で詳細情報が必要な場合は、McAfee Virtual Technician を実行します。

このセクションの内容

McAfee EasyNetworkの機能.....	226
McAfee EasyNetwork の設定.....	227
ファイルを共有および送信	233
プリンタを共有	239

McAfee EasyNetwork の機能

McAfee EasyNetwork には、次の機能が搭載されています。

ファイルの共有

McAfee EasyNetwork により、ネットワーク上のほかのコンピュータとファイルを簡単に共有できます。ファイルを共有する場合、ほかのコンピュータに対してそのファイルへの読み取り専用のアクセスを許可します。管理されたネットワークに対してすべてのアクセス権または管理者としてのアクセス権があるコンピュータのみがファイルを共有したり、ほかのメンバーによって共有されているファイルにアクセスできます。

ファイルの転送

管理されたネットワーク(メンバー)に対してすべてのアクセス権または管理者としての権があるほかのコンピュータにファイルを送信できます。受信したファイルは、McAfee EasyNetwork の受信ボックスに表示されます。受信ボックスとは、ネットワーク上の他のコンピュータから受信したすべてのファイルが一時的に保存される場所です。

プリンタの自動共有

管理されたネットワークに参加すると、ご使用のコンピュータで設定されているすべてのローカルプリンタが自動的に共有されます。そのプリンタの現在の名称が共有プリンタの名称として使用されます。また、ネットワーク上のほかのコンピュータによって共有されているプリンタが検出されるため、それらのプリンタを設定して使用できます。

第 43 章

McAfee EasyNetwork の設定

McAfee EasyNetwork を使用する前に、管理されたネットワークに参加する必要があります。管理されたネットワークに参加した後で、ファイルを共有したり、検索したり、ネットワーク上の他のコンピュータにファイルを送信できます。また、プリンタも共有することができます。ネットワークの切断はいつでも可能です。

このセクションの内容

McAfee EasyNetworkを開く.....	227
管理されたネットワークに参加	228
管理されたネットワークを切断.....	231

McAfee EasyNetwork を開く

標準設定では、McAfee EasyNetwork をインストールするとすぐに開くことを確認するメッセージが表示されます。また、あとで開くこともできます。

- [スタート]メニューで、[すべてのプログラム]を指定し、[McAfee]を指定してから、[McAfee EasyNetwork]をクリックします。

ヒント: インストール中にデスクトップやクイック起動アイコンを作成した場合は、デスクトップ上やタスクバーの右隅にある通知領域の McAfee EasyNetwork アイコンをダブルクリックしても McAfee EasyNetwork を起動できます。

管理されたネットワークに参加

現在接続しているネットワーク上に McAfee SecurityCenter を搭載したコンピュータが存在しない場合は、ご使用のコンピュータがネットワークのメンバーとなります。また、そのネットワークが信頼されているネットワークかどうかを特定するためのメッセージが表示されます。ネットワークに参加する最初のコンピュータである場合は、ご使用のコンピュータの名前がネットワークの名称に含まれます。ただし、ネットワークの名称はいつでも変更できます。

コンピュータがネットワークに接続すると、そのネットワークに接続している他のすべてのコンピュータに参加要求が送信されます。要求は、ネットワークで管理権限を持ついずれかのコンピュータにより許可されます。許可を与えるコンピュータは、ネットワークに参加しているコンピュータの権限レベルも決定できます。権限レベルには、ゲスト(ファイルの転送のみ)またはすべて/管理者(ファイルの転送とファイルの共有)などがあります。McAfee EasyNetwork では、管理者としてのアクセス権を持つコンピュータが他のコンピュータにアクセスを許可し、権限を管理(コンピュータの権限の引き上げまたは引き下げ)します。すべてのアクセス権を持つコンピュータは、このような管理タスクは実行できません。

注: 他のマカフィー ネットワーク プログラム (McAfee Network Manager など) がインストールされている場合、ネットワークに参加すると、そのコンピュータはこれらのプログラムでも管理されたコンピュータとして認識されます。McAfee EasyNetwork 内のコンピュータに割り当てられた権限レベルは、すべてのマカフィー ネットワーク プログラムに適用されます。ほかのマカフィー ネットワーク プログラムで適用されるゲスト、すべて、管理者の内容の詳細については各プログラムのユーザガイドやヘルプを参照してください。

ネットワークに参加

McAfee EasyNetwork のインストール後、初めて信頼されているネットワークに接続すると、管理されたネットワークに参加するかどうかを確認するメッセージが表示されます。参加に同意すると、ネットワーク上で管理者としてのアクセス権を持つ他のすべてのコンピュータに要求が送信されます。このネットワーク上でプリンタまたはファイルを共有したり、ファイルを送信およびコピーするには、この要求が許可される必要があります。ネットワーク上の最初のコンピュータに自動的に管理者権限が付与されます。

- 1 [共有ファイル]ウィンドウで[このネットワークに参加する]をクリックします。

このネットワークの管理権限を持つコンピュータにより要求が許可されると、このコンピュータとネットワーク上の他のコンピュータ間でお互いのセキュリティ設定の管理を許可するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- 2 このコンピュータと他のコンピュータ間でお互いのセキュリティ設定の管理を許可するには[OK]をクリックします。許可しない場合は[キャンセル]をクリックします。
- 3 セキュリティを確認するダイアログボックスに表示されているカードと同じカードが、許可を与えるコンピュータで表示されていることを確認し、[OK]をクリックします。

注:ご使用のコンピュータを管理されたネットワークに招待したコンピュータに表示されているカードが、セキュリティを確認するダイアログボックスに表示されているものと異なる場合、管理されたネットワーク上にセキュリティ侵害があったことを示します。ネットワークに参加するとコンピュータが危険にさらされる可能性があるため、セキュリティを確認するダイアログボックスで[キャンセル]をクリックしてください。

ネットワークへのアクセスを許可

コンピュータが管理されたネットワークへの参加を要求すると、ネットワーク上で管理者としてのアクセス権を持つ他のコンピュータにメッセージが送信されます。最初に応答したコンピュータが、許可を与えるコンピュータとなります。許可を与えるコンピュータは、コンピュータに許可するアクセス権の種類を決定します。アクセス権の種類には、ゲスト、すべて、管理者があります。

- 1 アラートで、適切なアクセスレベルをクリックします。
- 2 [管理されたネットワークに招待する]ダイアログボックスで、次のいずれかの操作を実行します。
 - [管理されたネットワークプログラムへのゲストアクセスを許可]をクリックして、ネットワークへのアクセスを許可します(家庭での一時ユーザ用にこのオプションを使用できます)。
 - [管理されたネットワークプログラムへのすべてのアクセスを許可]をクリックして、ネットワークへのアクセスを許可します。
 - [管理されたネットワークプログラムへの管理者アクセスを許可]をクリックして、管理者権限がある場合にネットワークへのアクセスを許可します。また、このコンピュータは、管理されたネットワークに参加しようとする他のコンピュータにアクセスを許可することもできます。
- 3 [OK]をクリックします。
- 4 セキュリティを確認するダイアログボックスに表示されているカードと同じカードが、コンピュータで表示されていることを確認し、[アクセスを許可]をクリックします。

注: セキュリティを確認するダイアログボックスに表示されたものと同じカードが、コンピュータで表示されていない場合、管理されたネットワークのセキュリティが侵害されています。そのコンピュータがネットワークにアクセスすると他のコンピュータが危険にさらされる可能性があるため、セキュリティを確認するダイアログボックスの[アクセスを拒否]をクリックします。

ネットワークの名称を変更

標準設定では、ネットワークに最初に参加したコンピュータの名前がネットワークの名称に含まれます。ただし、ネットワークの名称はいつでも変更できます。ネットワークの名称を変更すると、McAfee EasyNetwork に表示されるネットワークの説明が変更されます。

- 1 [オプション]メニューで[設定]をクリックします。
- 2 [設定]ダイアログボックスの[ネットワーク名]ボックスにネットワークの名称を入力します。
- 3 [OK]をクリックします。

管理されたネットワークを切断

管理されたネットワークに参加していて、メンバーであることをやめる場合、ネットワークを切断できます。管理されたネットワークを切断した後、いつでもネットワークに再参加できますが、権限が必要です。参加の詳細については、228 ページの「[管理されたネットワークに参加](#)」を参照してください。

管理されたネットワークを切断

以前に参加した、管理されたネットワークを切断できます。

- 1 [ツール]メニューで[**ネットワークの切断**]をクリックします。
- 2 [ネットワークの切断]ダイアログボックスで、切断するネットワークの名称を選択します。
- 3 [**ネットワークの切断**]をクリックします。

第 44 章

ファイルを共有および送信

McAfee EasyNetwork により、ファイルをローカルネットワーク上の他のコンピュータとの間で簡単に共有および送信できます。ファイルを共有する場合、他のコンピュータに対してそのファイルへの読み取り専用のアクセスを許可します。管理されたネットワークのメンバーとなっているコンピュータ(すべてまたは管理者としてのアクセス権がある場合)のみがファイルを共有したり、他のメンバーコンピュータによって共有されているファイルにアクセスできます。

注:多数のファイルを共有すると、コンピュータリソースに影響が出る場合があります。

このセクションの内容

ファイルを共有	234
ほかのコンピュータにファイルを送信	236

ファイルを共有

管理されたネットワークのメンバーとなっているコンピュータ(すべてまたは管理者としてのアクセス権がある場合)のみがファイルを共有したり、他のメンバーコンピュータによって共有されているファイルにアクセスできます。フォルダを共有すると、そのフォルダに含まれるすべてのファイルと、そのフォルダのサブフォルダが共有されます。ただし、共有されたあとでフォルダに追加されたファイルは自動的に共有されません。共有されているファイルまたはフォルダが削除されると、これらは[共有ファイル]ウィンドウから削除されます。ファイルの共有はいつでも停止できます。

共有ファイルにアクセスする場合は、McAfee EasyNetwork から直接ファイルを開くか、コンピュータにコピーしてから開きます。共有ファイルのリストが大規模で、ファイルの場所を特定するのが困難な場合は、ファイルを検索することもできます。

注:McAfee EasyNetwork で共有しているファイルは、Windows Explorer を使用している他のコンピュータからアクセスできません。McAfee EasyNetwork の共有ファイルは、安全な接続を介して実行されます。

ファイルを共有

ファイルを共有すると、そのファイルは、管理されたネットワークのすべてまたは管理者としてのアクセス権を持つすべてのメンバーに対して、使用可能になります。

- 1 Windows Explorer で、共有するファイルの場所を特定します。
- 2 Windows Explorer から McAfee EasyNetwork の「[共有ファイル]ウィンドウにファイルをドラッグします。

ヒント:[ツール]メニューの[ファイル共有]をクリックしても、ファイルを共有できます。[共有]ダイアログボックスで共有するファイルを保存するフォルダを指定し、ファイルを選択して[共有]をクリックします。

ファイルの共有を停止

管理されたネットワークでファイルを共有している場合、いつでも共有を停止できます。ファイルの共有を停止すると、管理されたネットワークの他のメンバーはファイルにアクセスできなくなります。

- 1 [ツール]メニューで[ファイルの共有の停止]をクリックします。
- 2 [ファイルの共有の停止]ダイアログボックスで、共有を停止するファイルを選択します。
- 3 [OK]をクリックします。

共有ファイルをコピー

共有ファイルをコピーしておく、そのファイルが共有されなくなった後もファイルを維持できます。管理されたネットワーク上にあるどのコンピュータからも共有ファイルをコピーできます。

- McAfee EasyNetwork の [共有ファイル] ウィンドウから、Windows Explorer の特定の場所または Windows のデスクトップにファイルをドラッグします。

ヒント: McAfee EasyNetwork 内のファイルを選択して、[ツール]メニューの [コピー先] をクリックしても、共有ファイルをコピーできます。[フォルダにコピー] ダイアログボックスで、ファイルをコピーするフォルダを選択し、[保存] をクリックします。

共有ファイルを検索

ネットワークのメンバーが共有しているファイルを検索できます。検索条件を入力すると、McAfee EasyNetwork により、対応する検索結果が [共有ファイル] ウィンドウに表示されます。

- [共有ファイル] ウィンドウで [検索] をクリックします。
- [条件] リストから適切な条件 (235 ページを参照) を選択します。
- ファイル名またはパス名の一部またはすべてを [ファイル名またはパス名] リストに入力します。
- [ファイルタイプ] リストから適切なファイルタイプ (235 ページを参照) を選択します。
- [開始] リストと [終了] リストから日付を選択して、ファイルを作成した日付の範囲を指定します。

検索条件

以下の表に、共有ファイルの検索時に指定できる検索条件を示します。

ファイル名またはパス名

条件	説明
次のすべての単語を含む	[ファイル名またはパス名] リストで指定したすべての単語を含むファイル名またはパス名が検索されます。単語の順序は問いません。
次のいずれかの単語を含む	[ファイル名またはパス名] リストで指定したいずれかの単語を含むファイル名またはパス名が検索されます。
次と完全に一致する文字列を含む	[ファイル名またはパス名] リストで指定した文字列と完全に一致する文字列を含むファイル名またはパス名が検索されます。

ファイルの種類

タイプ	説明
すべて	共有されているすべてのファイルが検索されます。
ドキュメント	共有されているすべての文書ファイルが検索されます。
画像	共有されているすべての画像ファイルが検索されます。
動画	共有されているすべての動画ファイルが検索されます。
音声	共有されているすべての音声ファイルが検索されます。
圧縮済み	すべての圧縮ファイル(.zip ファイルなど)が検索されます。

ほかのコンピュータにファイルを送信

管理されたネットワークのメンバーであるほかのコンピュータにファイルを送信できます。McAfee EasyNetwork は、ファイルを送信する前に、ファイルを受信するコンピュータに十分な空き容量があるかどうかを確認します。

受信したファイルは、McAfee EasyNetwork の受信ボックスに表示されます。受信ボックスとは、ネットワーク上の他のコンピュータから受信したすべてのファイルが一時的に保存される場所です。ファイルを受信するときに McAfee EasyNetwork を開いていた場合は、ファイルは即座に受信ボックスに表示されます。開いていない場合は、タスクバーの右端の通知領域にメッセージが表示されます。たとえば、作業の邪魔になるため、通知メッセージを受信したくない場合は、この機能を無効にできます。受信ボックスに同じ名前のファイルがすでに存在する場合は、新しいファイルの名前の最後に数字が追加されます。ファイルは、ユーザに受け入れられるまで(コンピュータ上のいずれかの場所にコピーされるまで)受信ボックスに保存されます。

ほかのコンピュータにファイルを送信

ファイルを共有していなくても、管理されたネットワーク上の他のコンピュータにファイルを送信できます。受信側のコンピュータのユーザがファイルを表示するには、ローカルの場所にファイルを保存する必要があります。詳細については、237 ページの「ほかのコンピュータからファイルを受け入れ」を参照してください。

- 1 Windows Explorer で、送信するファイルを見つけます。
- 2 Windows Explorer から McAfee EasyNetwork のアクティブなコンピュータアイコンにファイルをドラッグします。

ヒント: CTRL キーを押しながらファイルを選択すると、1 つのコンピュータに複数のファイルを送信できます。[ツール]メニューの[送信]をクリックし、ファイルを選択して[送信]をクリックしても、ファイルを送信できます。

ほかのコンピュータからファイルを受け入れ

管理されたネットワーク上の他のコンピュータからご使用のコンピュータにファイルが送信された場合、ファイルを受け入れる(コンピュータ上に保存する)必要があります。ファイルがコンピュータに送信されたときに McAfee EasyNetwork が実行されていない場合は、タスクバーの右隅にある通知領域に通知メッセージが表示されます。McAfee EasyNetwork を開いてファイルにアクセスするには、通知メッセージをクリックしてください。

- [受信済み]をクリックし、McAfee EasyNetwork の受信ボックスから Windows Explorer のフォルダにファイルをドラッグします。

ヒント: McAfee EasyNetwork の受信ボックスでファイルを選択し、[ツール]メニューの[許可]をクリックしても、他のコンピュータからのファイルを受信できます。[フォルダに保存]ダイアログボックスで、受信したファイルを保存するフォルダを選択し、[保存]をクリックします。

ファイルが送信されたときに通知を受信

管理されたネットワーク上の他のコンピュータからご使用のコンピュータにファイルが送信されたときに、通知メッセージを受信できます。McAfee EasyNetwork が実行されていない場合は、タスクバーの右隅にある通知領域に通知メッセージが表示されます。

- 1 [オプション]メニューで[設定]をクリックします。
- 2 [設定]ダイアログボックスで[別のコンピュータからファイルを受信した場合に通知]チェックボックスを選択します。
- 3 [OK]をクリックします。

第 45 章

プリンタを共有

管理されたネットワークに参加すると、McAfee EasyNetwork により、ご使用のコンピュータで設定されているローカルプリンタが共有されます。そのプリンタの現在の名称が共有プリンタの名称として使用されます。また、McAfee EasyNetwork により、ネットワーク上の他のコンピュータによって共有されているプリンタが検出されるため、それらのプリンタを設定して使用できます。

ネットワーク プリント サーバ(ワイヤレス USB プリントサーバなど)を使用して印刷するようにプリンタドライバを設定している場合、McAfee EasyNetwork はプリンタをローカルプリンタとみなし、このプリンタをネットワーク上で共有します。プリンタの共有も、いつでも停止できます。

このセクションの内容

共有プリンタを使用.....240

共有プリンタを使用

ネットワーク上のコンピュータが共有しているプリンタを検出します。まだご使用のコンピュータに接続されていないリモートプリンタが McAfee EasyNetwork により検出されると、最初に McAfee EasyNetwork を開いたときに、[共有ファイル]ウィンドウに[利用可能なネットワークプリンタ]リンクが表示されます。これにより、利用可能なプリンタをインストールしたり、ご使用のコンピュータにすでに接続しているプリンタをアンインストールできます。また、プリンタのリストを更新して、最新情報を表示しているかどうか確認できます。

管理されたネットワークに接続していて、まだ参加していない場合は、Windows のプリンタ コントロール パネルから共有プリンタにアクセスできます。

プリンタの共有を停止

プリンタの共有を停止すると、メンバーはそのプリンタを使用できなくなります。

- 1 [ツール]メニューで[プリンタ]をクリックします。
- 2 [ネットワークプリンタの管理]ダイアログボックスで、共有を停止するプリンタの名称をクリックします。
- 3 [共有しない]をクリックします。

利用可能なネットワークプリンタをインストール

管理されたネットワークのメンバーは共有プリンタにアクセスできますが、プリンタが使用するプリンタドライブのインストールが必要です。プリンタの所有者がプリンタの共有を停止すると、そのプリンタは使用できなくなります。

- 1 [ツール]メニューで[プリンタ]をクリックします。
- 2 [利用可能なネットワークプリンタ]ダイアログボックスで、プリンタの名称をクリックします。
- 3 [インストール]をクリックします。

リファレンス

用語集では、マカフィー製品でよく使用されている用語とその定義について説明します。

用語集

8

802.11

無線 LAN でデータ転送を行うための IEEE 標準規格のセット。802.11 は Wi-Fi といいます。

802.11a

5GHz 帯で最大 54Mbps のデータを転送する 802.11 の拡張仕様。802.11b より伝送速度は高速ですが、通信範囲は狭くなります。

802.11b

2.4GHz 帯で最大 11Mbps のデータを転送する 802.11 の拡張仕様。802.11a より伝送速度は低下しますが、通信範囲は広がります。

802.1x

有線ネットワークおよびワイヤレスネットワーク用の IEEE 認証規格。802.1x は、一般的に 802.11 ワイヤレスネットワークが使用されています。

A

ActiveX コントロール

通常のプログラムまたは Web ページの一部として表示される複合した機能を追加するためにプログラムまたは Web ページで使用されるソフトウェアコンポーネント。ActiveX コントロールの多くは無害ですが、コンピュータから情報が収集される場合もあります。

C

Cookie

情報を含む小さなファイルで、通常ユーザ名と現在の日時を含み、Web を閲覧するコンピュータに保存されています。Cookie は主に Web サイトで使用され、以前に登録したユーザまたはサイトにアクセスしたユーザを特定します。ただし、同時にハッカーにとっても情報源となります。

D

DAT

(Data signature files) 使用しているコンピュータまたは USB ドライブ上でウイルス、トロイの木馬、スパイウェア、アドウェアおよびその他の怪しいプログラムを検出する際の定義を含むファイル。

DNS

(Domain Name System) ホスト名またはドメイン名を IP アドレスに変換するシステム。Web では DNS を使用して、読み取り可能な Web アドレス (www.myhostname.com など) を簡単に IP アドレス (111.2.3.44 など) に変換でき、Web サイトをロードできます。DNS を使用しない場合、IP アドレスを Web ブラウザに直接入力する必要があります。

DNS サーバ

(Domain Name System サーバ)ホスト名またはドメイン名に関連する IP アドレスを戻すコンピュータ。「DNS」も参照してください。

E

E メール

(E メール)コンピュータのネットワーク経由で電子的に送受信されるメッセージ。「Web メール」も参照してください。

E メールクライアント

E メールを送受信するためにコンピュータ上で実行するプログラム (Microsoft Outlook など)。

ESS

(Extended Service Set)単一のサブネットワークを構築する 2 つ以上のネットワークのセット。

I

IP スプーフィング

IP パケット内の IP アドレスを偽装すること。この方法は、セッションハイジャックなどのさまざまな攻撃に使用されます。また、攻撃元を突き止められないように、迷惑メールのヘッダを偽装する場合にも使用されます。

IP アドレス

TCP/IP ネットワーク上のコンピュータまたはその他の機器の識別番号。TCP/IP プロトコルを使用するネットワークでは、宛先の IP アドレスに基づいてメッセージの経路が指定されます。IP アドレスは、ピリオドで 4 つに区切られた 32 ビットの数値アドレスで表します。0 から 255 までの数字を入力できます (たとえば 192.168.1.100)。

L

LAN

(Local Area Network)比較的狭い範囲のコンピュータネットワーク(たとえば建物内など)。LAN 上のコンピュータは相互通信が可能で、プリンタやファイルなどのリソースを共有できます。

Launchpad

U3 対応 USB プログラムの起動や管理の開始場所として動作する U3 インターフェースコンポーネント。

M

MAC アドレス

(メディアアクセス制御アドレス)ネットワークにアクセスする物理デバイスに割り当てられた一意のシリアル番号。

Man-in-the-Middle 攻撃 (中間者攻撃)

気付かれることなく 2 者間の通信に介入し、メッセージを傍受して可能であれば改変する攻撃手法

MAPI

(Messaging Application Programming Interface) Microsoft 社が発表したインターフェースの仕様で、さまざまなメッセージングアプリケーションおよびワークグループアプリケーション (E メール、ボイスメール、FAX など) を、Exchange クライアントなどの単一のクライアントで利用できるようにします。

MSN

(Microsoft Network) Microsoft 社によって提供されている、検索エンジン、E メール、インスタントメッセージ、ポータルなどの Web ベースのサービス群

N

NIC

(ネットワークカード) ノートパソコンや他のデバイスに差し込み、それらと LAN を接続するためのカード。

P

Password Vault

個人のパスワードを記録できる安全な記録領域。この記憶領域に保存すると、管理者を含む他のユーザは、記録されたパスワードに一切アクセスできません。

PCI ワイヤレス アダプタ カード

(Peripheral Component Interconnect) コンピュータ内部の PCI 拡張スロットに差し込むワイヤレス アダプタ カード。

POP3

(Post Office Protocol 3) E メール クライアント プログラムと E メールサーバ間のインターフェース。ほとんどのホームユーザは POP3 の E メールアカウントを使用しています。POP3 メールアカウントは、標準の E メールアカウントとして知られています。

PPPoE

(Point-to-Point Protocol Over Ethernet) 伝送形式としてイーサネットを用いて Point-to-Point Protocol (PPP) ダイアルアッププロトコルを使用する方法。

R

RADIUS

(Remote Access Dial-In User Service) 通常、リモートアクセス時に使用されるユーザ認証用プロトコル。この RADIUS プロトコルは、元々はダイヤルインのリモート アクセス サーバで使用するために定義されたものですが、現在では、無線 LAN ユーザの共有秘密キーの 802.1x 認証などのさまざまな認証環境で使用されています。

S

SMTP

(Simple Mail Transfer Protocol) 1 つのコンピュータからネットワーク上の他のコンピュータにメッセージを送信するための TCP/IP プロトコルです。このプロトコルは、インターネット上で E メールを送信するために使用されます。

SSID

(Service Set Identifier) Wi-Fi(802.11) ネットワークを特定するトークン(秘密キー)。SSID は、ネットワーク管理者によって設定され、ネットワークに参加するユーザに提供されます。

SSL

(Secure Sockets Layer) インターネットを介して個人情報を送信するために Netscape によって開発されたプロトコル。SSL は SSL 接続を介して転送されるデータを暗号化する公開キーを使用することにより機能します。SSL 接続を要求する URL は、http:ではなく https:から始まります。

SystemGuards

McAfee は、コンピュータの未許可の変更を検出すると警告し、発生を通知します。

T

TKIP

(Temporal Key Integrity Protocol) 特に暗号キーを再利用して、WEP セキュリティの脆弱性に対処するプロトコル。TKIP では、10,000 パケットごとに一時キーが変更されます。この動的な配布方法により、ネットワークセキュリティを著しく強化できます。TKIP(セキュリティ)では、まず、クライアントとアクセスポイント間で、128 ビットの一時キーが共有されます。TKIP は、一時キーと(クライアントコンピュータの)MAC アドレスを組み合わせ、比較的大きな 16 オクテットの初期化ベクトルを追加して、データを暗号化するキーを作成します。これにより、各ステーションでは、データの暗号化に異なるキーストリームが使用されます。TKIP は RC4 を使用して暗号化を実行します。

U

U3

(You: Simplified, Smarter, Mobile) USB ドライブから直接 Windows 2000、または Windows XP プログラムを実行するためのプラットフォーム。U3 は M-Systems 社と SanDisk 社により 2004 年に開発されました。ユーザは、データや設定をインストールもしくは保存することなく、Windows コンピュータ上で U3 プログラムを実行できます。

URL

(Uniform Resource Locator) インターネットアドレスの標準形式。

USB

(Universal Serial Bus) キーボードやジョイスティック、プリンタなど周辺機器に装着できる標準的なシリアルインターフェース。

USB ドライブ

コンピュータの USB ポートに挿入する小さなメモリドライブ。USB ドライブは小さなディスクドライブのように動作し、コンピュータからコンピュータへ簡単にファイルを移動できます。

USB ワイヤレス アダプタ カード

コンピュータの USB スロットに差し込むワイヤレス アダプタ カード。

V

VPN

(Virtual Private Network) 公衆回線の管理機関を活用して、公衆回線の内部に設定された仮想専用回線網。VPN によって、広域におよぶ WAN(wide area network) や支社を接続する専用ネットワークが構築でき、外部から社内 LAN への接続が可能になります。

W

Web バグ

自身を HTML ページに組み込むことで、不正な送信元による Cookie の設定を可能にする小さなグラフィックファイル。設定された Cookie が不正な送信元に情報を転送する場合があります。Web バグは、Web ビーコン、ピクセルタグ、クリア GIF、透過 GIF とも呼ばれます。

Web メール

インターネットを介して電子的に送受信されるメッセージ。「E メール」も参照。

WEP

(Wired Equivalent Privacy) Wi-Fi(802.11) 標準規格の一部として定義された暗号および認証プロトコル。初期のバージョンは RC4 に基づいて暗号化しますが、重大な弱点があります。WEP では、電波を介して転送されるデータを暗号化することにより、セキュリティの保護を行っています。ただし、最近では、WEP セキュリティに問題があることが判明しています。

Wi-Fi

(Wireless Fidelity) すべての種類の 802.11 ネットワークについて言及する際に Wi-Fi Alliance によって使用される用語。

Wi-Fi Alliance

無線ハードウェアおよびソフトウェアの主要なプロバイダで構成される団体。この団体の目標は、802.11 ベースのすべての製品の互換性の認定、および 802.11 ベースの無線 LAN 製品のすべての市場で Wi-Fi を世界的なブランド名として広めることです。この団体は、業界の成長の促進を望むメーカーに対して、協会、テストラボ、情報交換の場として機能します。

Wi-Fi Certified

Wi-Fi Alliance によってテストされ、承認されること。Wi-Fi Alliance によって承認された製品は、他社製品との互換性が保証された製品として認定されています。「Wi-Fi Certified」という認定が与えられた製品では、同様に認定されているすべてのブランドのアクセスポイントおよびクライアントハードウェアを使用できます。

WLAN

(Wireless Local Area Network) ワイヤレス接続に使用するローカル エリア ネットワーク(LAN)。ネットワークケーブルではなく、高周波の電波を使用して、通信を行います。

WPA

(Wi-Fi Protected Access)既存のまたはこれから登場するワイヤレス LAN システムに対して、データ保護およびアクセス制御のレベルを強化する標準規格。既存のハードウェアでは、ソフトウェアアップグレードとして使用できるよう作られています。WPA は、IEEE 802.11i 標準規格に対応しています。インストールが適切に行われると、ワイヤレス LAN のセキュリティレベルが強化され、確実にデータを保護し、ネットワークへのアクセスを認証ユーザのみに制限できるようになります。

WPA-PSK

企業クラスの強力なセキュリティ機能を必要とせず、認証サーバへのアクセス権のないホームユーザに対して設計された特別な WPA モード。このモードでは、ホームユーザは、手動で開始パスワードを入力して WPA-PSK モードを有効にします。各ワイヤレスコンピュータおよびアクセスポイントのパスワードは、定期的に変更する必要があります。「WPA2-PSK」および「TKIP」も参照してください。

WPA2

IEEE 802.11i 標準に基づいた WPA セキュリティ標準の更新バージョン。

WPA2-PSK

WPA-PSK に類似し、WPA2 標準に基づいた特別な WPA モード。WPA2-PSK の主な機能は、デバイスで複数の暗号化モード(AES、TKIP など)を同時にサポートできる点です。古いデバイスの場合、同時にサポートできる暗号化モードは通常 1 種類であるため、すべてのクライアントで同じ暗号化モードを使用する必要があります。

アーカイブ

重要なファイルのコピーを CD、DVD、USB ドライブ、外部ハードディスク、ネットワークドライブに作成すること。

アクセスポイント

イーサネットのハブに差し込まれたネットワークデバイス(一般的にワイヤレスルータと呼ばれる)またはワイヤレスネットワークの利用者に対する通信範囲を拡張するスイッチ。ワイヤレスネットワークの利用者がモバイル機器を用いてローミングする場合、接続を維持するため、あるアクセスポイント(AP)から他のアクセスポイントへの伝送が行なわれます。

イベント

応答をトリガするユーザ、デバイスまたはコンピュータによって開始されたアクション。イベントログにイベントを記録します。

インターネット

インターネットは、非常に多くの相互接続ネットワークから構成されており、TCP/IP プロトコルを使用して場所を特定し、データを転送します。インターネットは、アメリカ国防総省が設立した大学コンピュータのリンクから発展し(1960 年代後半から 1970 年代前半にかけて)、ARPANET と呼ばれていました。今日のインターネットは、約 100,000 の独立したネットワークから構成されるグローバルネットワークです。

イントラネット

通常は企業内にあり、許可されたユーザのみアクセスできるプライベート コンピュータ ネットワーク。

ウイルス

自己複製を行い、ファイルやデータを変更する可能性のあるプログラム。多くの場合、信頼できるユーザから送信されたように装ったり、便利なコンテンツを含んでいるかのように装います。

ウォードライバー

Wi-Fi 対応のコンピュータや一部の特殊なハードウェアまたはソフトウェアを携帯して、Wi-Fi (802.11) ネットワークを探しながら街中を移動する人。

オンデマンドスキャン

オンデマンドで(この機能の起動時に)開始されるスキャン。リアルタイムスキャンとは異なり、オンデマンドスキャンは自動的に開始されません。

オンライン バックアップ リポジトリ

バックアップ後にファイルが保存されるオンラインサーバ上の場所。

キー

2つのデバイス間で通信を認証するために使用される一連の文字および数字。暗号キーとも言います。両方のデバイスがキーを持っている必要があります。「WEP」、「WPA」、「WPA2」、「WPA-PSK」、「WPA2-PSK」も参照してください。

キーワード

複数のファイルに関連性を持たせるために、バックアップ済みファイルに割り当てる言葉。ファイルにキーワードを割り当てると、インターネットに公開しているファイルを簡単に検索できます。

キャッシュ

コンピュータ上の一時的な記憶領域です。たとえば、Web 閲覧の速度と効率を向上するために、次回閲覧時にはリモートサーバからではなくキャッシュから Web ページを取得できます。

クイックアーカイブ

完全アーカイブまたはクイックアーカイブの最終実行時以降に変更されたファイルのみをアーカイブすること。「完全アーカイブ」も参照。

クライアント

コンピュータまたはワークステーション上で稼動し、サーバを使用して作業を実行するアプリケーション。たとえば、Eメールクライアントは、Eメールの送受信を可能にするアプリケーションです。

ごみ箱

Windows で削除されたファイルやフォルダ用のごみ箱。

コンテンツの格付けグループ

[保護者機能の設定]のユーザが属する年齢グループ。コンテンツは、ユーザが属するコンテンツの格付けグループに基づいて利用が許可、またはブロックされます。コンテンツの格付けグループには、幼児、子供、10代前半、10代後半、成年があります。

サーバ

他のコンピュータやプログラムとの接続を許可し、適切な応答を返すコンピュータまたはプログラム。たとえば、Eメールメッセージの送受信を行うたびに、EメールプログラムはEメールサーバに接続します。

サービス拒否

ネットワークでのトラフィックの速度を低下させるか、または中断させる攻撃の種類。サービス拒否攻撃(Dos 攻撃)は、通常のトラフィックの速度が低下するか、完全に妨害されるほどの要求がネットワークで行われた場合に発生します。情報の盗難やセキュリティ上の他の脆弱性が発生することはめったにありません。

システム復元ポイント

コンピュータのメモリまたはデータベースのコンテンツのスナップショット(画像)。Windowsは、定期的に、そして重要なシステムイベントの発生時(プログラムやドライバのインストール時など)に、復元ポイントを作成します。また、いつでも独自の復元ポイントを作成して名前を付けることができます。

ショートカット

コンピュータの別のファイルの位置情報のみが含まれるファイル。

スクリプト

自動的に実行されるコマンドのリスト(ユーザは作業を行いません)。プログラムとは異なり、通常、スクリプトは平文形式で保存されており、実行されるたびにコンパイルされます。マクロやバッチファイルもスクリプトの一種です。

スマートドライブ

「USBドライブ」を参照。

ダイアラー

インターネット接続の確立に役立つソフトウェア。悪意を持って使用する場合、ダイアラーは、追加費用なしでユーザの標準設定のインターネット サービス プロバイダ以外の第三者にインターネット接続のリダイレクトが可能です。

ドメイン

ローカルサブネットワークまたはインターネット上のサイトの記述子。

ローカル エリア ネットワーク(LAN)で、ドメインは、特定のセキュリティデータベースによって管理されているクライアントコンピュータおよびサーバコンピュータで構成されるサブネットワークです。この場合、ドメインによってパフォーマンスを向上できます。インターネット上で、ドメインはすべてのWeb アドレスに含まれます(たとえば、www.abc.com では abc がドメインです)。

トロイの木馬

正規のプログラムを装っているが、重要なファイルに損害を与えたり、パフォーマンスを低下させたり、コンピュータへの不正アクセスを可能にするプログラム。

ネットワーク

アクセスポイントおよびそれらに結び付けられたユーザの集合。

ネットワークドライブ

複数のユーザが共有するネットワーク上のサーバに接続されているディスクまたはテープドライブ。ネットワークドライブはリモートドライブと呼ばれることもあります。

ネットワーク地図

ホームネットワーク上のコンピュータおよびコンポーネントに関する情報をグラフィカルに表示できません。

ノード

ネットワークに接続された 1 台のコンピュータ。

パスワード

コンピュータ、プログラム、Web サイトへのアクセスに使用するコード(通常、文字と数字の組合せです)。

バックアップ

重要なファイルのコピーを作成し、安全なオンラインサーバ上に保存すること。

バッファオーバーフロー

怪しいプログラムまたはプロセスがコンピュータのバッファ(データの一時的な記憶領域)の制限を越えるデータを保存しようとしたときに発生する条件。バッファオーバーフローにより、近くのバッファデータが破損または上書きされます。

ファイアウォール

プライベートネットワークに対する不正アクセスを防止するために設計されたシステム(ハードウェア、ソフトウェア、またはその両方)。ファイアウォールは、インターネット(特にイントラネット)に接続されたプライベートネットワークに対する不正アクセスを防止するためによく使用されます。イントラネットで送受信されるメッセージはすべてファイアウォールを通過します。各メッセージが検査され、指定されたセキュリティ基準を満たしていないメッセージはブロックされます。

ファイルの断片

ディスク全体に散在している余分なファイル。ファイルの断片化は、ファイルが追加または削除された場合に起こり、コンピュータのパフォーマンスを低下させます。

フィッシング詐欺

不正利用目的で個人の重要な情報(クレジットカード番号や社会保障番号、ユーザ ID やパスワードなど)を取得するよう設計されたインターネット詐欺。

ブラウザ

インターネットで Web ページの表示に使用されるプログラム。一般的な Web ブラウザには Microsoft Internet Explorer および Mozilla Firefox が含まれます。

プラグイン

機能を追加するために大きなアプリケーションと連動する小さなソフトウェアプログラム。たとえば、プラグインを使用すると、HTML ドキュメントに組み込まれたファイルが Web ブラウザによりアクセスされ、実行されます。これらのファイルは通常、ブラウザで認識されない形式(アニメーション、映像、音声ファイルなど)です。

ブラックリスト

フィッシング対策で不正とみなされる Web サイトのリスト。

ブルートフォース攻撃

高度な技術は使用せずに、パスワードなどの暗号化されたデータを復号する網羅的な方法(ブルートフォース)。この方法では暗号は確実に解読できますが、非常に時間がかかります。また、ブルートフォース攻撃は総当たり攻撃ともいいます。

プロキシ

1 つのネットワークアドレスだけを外部サイトに公開し、ネットワークとインターネットの間の障壁として機能するコンピュータ (またはそのコンピュータ上で動作するソフトウェア)。プロキシを使用すれば、ネットワークの身元情報を明かすことなく、ネットワーク内部のコンピュータがインターネットに接続できます。「プロキシサーバ」も参照してください。

プロキシサーバ

ローカルエリアネットワーク (LAN) とのインターネットトラフィックを管理するファイアウォールコンピュータ。プロキシサーバでは、人気のある Web ページなど、頻繁に要求されるデータを提供することにより、パフォーマンスを向上できます。また、著作権で保護されたファイルに対する不正なアクセス要求など、所有者が不適切であると見なした要求をフィルタリングし、破棄することができます。

プロトコル

2 つのデバイス間でデータ転送を行うための形式(ハードウェアまたはソフトウェア)。コンピュータまたはデバイスを使用して他のコンピュータと通信を行う場合、的確なプロトコルがサポートされている必要があります。

ポート

情報がコンピュータに入ったりコンピュータから出たりする場所。たとえば、従来のアナログモデムはシリアルポートに接続されています。

ホームネットワーク

ファイルおよびインターネットアクセスを共有するため、家庭で接続している 2 台以上のコンピュータ。「LAN」も参照してください。

ホットスポット

Wi-Fi(802.11)アクセスポイント(AP)の設置されている場所。無線ノート型 PC でホットスポットを使用すれば、インターネットに接続できます。ホットスポットは信号を送出し続けており(つまり、常にその場所を明らかにしています)、認証が要求されることもありません。ホットスポットは、空港など、人が集まる場所に設置されています。

ポップアップ

コンピュータの画面で、ウィンドウの最前面に表示される小さいウィンドウ。ポップアップウィンドウは、多くの場合、Web ブラウザで広告を表示するために使用されます。

ホワイトリスト

詐欺サイトではないとみなされ、アクセスが許可された Web サイトのリスト。

メッセージ認証コード(MAC)

コンピュータ間で転送されるメッセージの暗号化に使用されるセキュリティコード。コンピュータによって復号コードが有効と認識されると、メッセージが受信されます。

ライブラリ

ユーザがファイルをバックアップし公開するオンライン上のストレージ領域。McAfee Data Backup ライブラリは、インターネットにアクセス可能なすべてのユーザがアクセスできるインターネット上の Web サイトです。

リアルタイムスキャン

ユーザまたはユーザのコンピュータがアクセスする際にファイルやフォルダをスキャンして、ウイルスやその他のアクティビティの有無を確認すること。

ルータ

1つのネットワークから別のネットワークにデータパケットを転送するネットワークデバイス。ルータは内部ルーティングテーブルに基づき、受信パケットを読み込んで転送します。転送方法の判断には、送信元や宛先アドレスの組み合わせだけでなく、回線負荷や回線コスト、混雑した回線などの現在のトラフィック状態も使用されます。ルータはアクセスポイント(AP)と呼ばれることもあります。

ルートキット

コンピュータまたはコンピュータネットワークに管理者としてアクセスする権限を取得するためのツール(プログラム)群。ルートキットには、スパイウェアやその他の怪しいプログラム(不正に隠蔽されたプログラム)など、コンピュータ上のデータや個人情報を盗み、セキュリティやプライバシーを侵害するプログラムが含まれます。

レジストリ

Windows の設定情報を格納するデータベース。レジストリには、各ユーザのプロフィール、およびシステムのハードウェア、インストールされたプログラムおよびプロパティの設定に関する情報が含まれます。Windows は動作中にこの情報を継続的に参照します。

ローミング

サービスや接続が中断されることなく、1つのアクセスポイントの通信範囲から別のアクセスポイントの通信範囲に移動すること。

ワーム

動作中のメモリに常駐し、Eメールを使用して自身のコピーを送信する、自己複製を行うウイルス。ワームは自らの複製を作成してシステムリソースを消費します。それが原因で、パフォーマンスが低下したり、タスクが中断されたりします。

ワイヤレスアダプタ

コンピュータやPDAにワイヤレス機能を追加するデバイス。USBポート、PCカード(CardBus)スロット、メモリーカードスロットを介して、またはPCIバス内に追加されます。

圧縮

ファイルの保存または転送時に、容量を最小化するためにファイルを圧縮するプロセス。

暗号化

テキスト形式のデータをコード化する処理。解読方法を知らなければ読むことができないように変換します。暗号化されたデータは暗号文ともいいます。

暗号文

暗号化されたテキスト 暗号文は、平文に変換(復号化)されない限り解読できません。

一時ファイル

オペレーティングシステムまたはその他のプログラムにより、メモリ内またはディスク上に作成されるファイル。セッション中に使用され、使用後に破棄されます。

画像のフィルタリング

Web閲覧中に表示される不適切な可能性のある画像をブロックする保護者機能オプション。

怪しいプログラム(PUP)

無断で個人情報収集して送信するプログラム(スパイウェアやアドウェアなど)。

外部ハードディスク

コンピュータの外部に存在するハードディスク。

隔離

隔離方法。たとえば、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)では、不審なファイルは検出後に隔離されるため、コンピュータまたはファイルに被害が及びません。

完全アーカイブ

ファイルタイプと場所の設定に従って、データを完全にアーカイブすること。「クイックアーカイブ」も参照してください。

監視するファイルタイプ

監視場所内にあり、McAfee Data Backup がバックアップまたはアーカイブするファイルタイプ (たとえば、.doc、.xls など)。

監視場所

McAfee Data Backup が監視するコンピュータ上のフォルダ。

管理されたネットワーク

家庭のネットワークには、2 種類のメンバーがあります。管理されたメンバーと、管理されていないメンバーです。管理されたメンバーは、ネットワーク上の他のコンピュータに対して、保護の状態の監視を許可できます。一方、管理されていないメンバーはこれを実行できません。

共有

選択されたバックアップ済みファイルに対するアクセスを E メールを受信者に一定期間許可すること。ファイルを共有すると、バックアップ済みのファイルのコピーが指定した E メールを受信者に送信されます。受信者は、ファイルが共有されていることを示す E メールメッセージを McAfee Data Backup から受信します。また、E メールには共有ファイルへのリンクが含まれています。

共有秘密キー

通信を開始する前に、2 者間で共有するテキストまたはキー (通常はパスワード)。共有秘密キーは、RADIUS メッセージの重要な部分の保護に使用されます。

公開

バックアップ済みファイルをインターネット上で使用可能にすること。Data Backup ライブラリを検索することで、公開したファイルにアクセスできます。

辞書攻撃

パスワードの解明のために一般的な言葉が使用されているブルートフォース攻撃の種類。

重点監視する場所

McAfee Data Backup が変更状況を監視しているコンピュータ上のフォルダ。重点監視する場所を設定した場合、McAfee Data Backup は、このフォルダとサブフォルダ内で監視対象のファイルタイプをバックアップします。

信頼リスト

ユーザが信頼した項目や、検出されていない項目が含まれます。たとえば、不審なプログラムやレジストリの改変など、誤って信頼した項目を再度検出対象に戻したい場合は、その項目をリストから削除する必要があります。

帯域幅

一定時間内に転送可能なデータの量。

統合ゲートウェイ

アクセスポイント、ルータ、およびファイアウォールの機能が統合されたデバイス。セキュリティ強化機能およびブリッジ機能が搭載されている場合もあります。

同期化

バックアップ済みファイルとローカルコンピュータ上のファイルとの不一致を解決すること。オンライン バックアップ リポジトリ内のファイルが別のコンピュータにあるファイルよりも新しい場合は、ファイルを同期化します。

認証

個人を識別する手段で、通常は一意の名前とパスワードによって行われます。

標準の E メールアカウント

「POP3」を参照。

不正アクセスポイント

未許可のアクセスポイント 不正アクセスポイントが安全な社内ネットワークに設置されると、第三者にネットワーク権限が与えられる恐れがあります。不正アクセスポイントが設置されると、Man-in-the-Middle 攻撃(中間者攻撃)が行われる恐れもあります。

部分的に監視する場所

McAfee Data Backup が変更状況を監視しているコンピュータ上のフォルダ。部分的に監視する場所を設定した場合、McAfee Data Backup は、このフォルダ内で監視対象のファイルタイプをバックアップします。ただし、サブフォルダは含まれません。

復元

オンライン バックアップ リポジトリまたはアーカイブからファイルのコピーを取得すること。

平文 (ひらぶん)

暗号化されていないテキスト。「暗号化」も参照してください。

保護者機能

青少年の Web 閲覧や動作を規制することができる設定 保護者機能を設定するには、画像フィルタリングを有効または無効にして、コンテンツ レーティング グループを選択し、Web 閲覧の制限時間を設定します。

マカフィーについて

McAfee, Inc.は、カリフォルニア州サンタクララに本拠地を置く、不正侵入防止とリスクマネジメントのリーディングカンパニーです。マカフィーは、世界中で使用されているシステムとネットワークの安全を実現する先進的で実績のあるソリューションとサービスを提供しています。個人ユーザをはじめ、企業、官公庁・自治体、ISP など様々なユーザは、マカフィーの卓越したセキュリティソリューションを通じて、ネットワークを通じた攻撃や破壊活動を阻止し、またセキュリティレベルを絶えず管理し、改善することができます。

著作権

Copyright © 2007-2008 McAfee, Inc. All Rights Reserved. この資料のいかなる部分も、McAfee, Inc.の書面による許可なしに、形態、方法を問わず、複写、送信、転載、検索システムへの保存、および他言語に翻訳することを禁じます。McAfee および McAfee の製品名は、McAfee, Inc.と米国および他国におけるその提携企業の登録商標または商標です。McAfee ブランドの製品は赤を基調としています。本書中のその他の登録商標及び商標はそれぞれその所有者に帰属します。

商標

ActiveSecurity、アクティブセキュリティ、Entercept、Enterprise Secure Cast、エンタープライズセキュアキャスト、E-Policy Orchestrator、イーポリシー・オーケストレイター、GroupShield、グループシールド、IntruShield、McAfee、マカフィー、NetShield、ネットシールド、SpamKiller、VirusScan、WebShield、ウェブシールド。

ライセンス条項

お客様へ: お客様がお買い求めになられたライセンスに従い、該当する契約書(許諾されたソフトウェアの使用につき一般条項を定めるものです、以下「本契約」といいます)をよくお読みください。お買い求めになられたライセンスの種類がわからない場合は、販売およびライセンス関連部署にご連絡いただくか、製品パッケージに付随する注文書、または別途送付された注文書(パンフレット、製品 CD またはソフトウェアパッケージをダウンロードした Web サイト上のファイル)をご確認ください。本契約の規定に同意されない場合は、製品をインストールしないでください。この場合、弊社またはご購入元に速やかに返品いただければ、所定の条件を満たすことによりご購入額全額をお返しいたします。

第 46 章

カスタマおよびテクニカルサポート

McAfee SecurityCenter は、問題を検出するとただちに重要な問題かどうかをレポートします。重要な保護の問題は早急な対応が求められ、保護の状態が赤に変わります。保護の問題が重要でない場合は、早急な対応は必要ではありませんが、保護のステータスが問題の種類に応じて変わる場合があります。保護の状態を緑にするためには、すべての重要な問題を修復し、重要でない問題を修復するか無視するかを決定する必要があります。保護の問題を診断する上で詳細情報が必要な場合は、McAfee Virtual Technician を実行します。McAfee Virtual Technician の詳細については、McAfee Virtual Technician ヘルプを参照してください。

セキュリティソフトウェアをマカフィー以外のパートナーまたはプロバイダから購入した場合、Web ブラウザを開いて <http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/> にアクセスします。その後 [パートナーリンク] で、パートナーまたはプロバイダを選択し、McAfee Virtual Technician にアクセスします。

注: McAfee Virtual Technician をインストールおよび実行するには、Windows 管理者としてコンピュータにログインする必要があります。管理者としてログインしないと、MVT では問題を解決できない場合があります。Windows 管理者としてログインする方法については、Windows のヘルプを参照してください。Windows Vista™では、MVT の実行時に、管理者としてログインするよう要求されます。メッセージが表示されたら、[同意する] をクリックします。McAfee Virtual Technician は、Mozilla® Firefox では使用できません。

このセクションの内容

McAfee Virtual Technicianの使用	260
サポートおよびダウンロード	261

McAfee Virtual Technician の使用

McAfee Virtual Technician(注: McAfee Virtual Technician (MVT)は、一部製品では使用できない場合があります)は、マカフィーのテクニカルサポート担当者に代わってご使用の McAfee SecurityCenter プログラムに関する情報を収集します。McAfee Virtual Technician を実行すると、McAfee SecurityCenter プログラムが正常に作動しているかどうかを検査されます。問題が検出されると、問題の修復が提案されるか、または問題に関する詳細情報が表示されます。検査が完了すると分析結果が表示され、必要に応じてさらなるテクニカルサポートを問い合わせることができます。

コンピュータとファイルのセキュリティや整合性を保守する上で McAfee Virtual Technician が収集した情報には、個人を特定できる情報は含まれていません。

注: McAfee Virtual Technician の詳細については、McAfee Virtual Technician の[ヘルプ]アイコンをクリックしてください。

McAfee Virtual Technician の起動

McAfee Virtual Technician は、コンピュータの保護に関する問題を解決するため、McAfee SecurityCenter プログラムに関する情報を収集します。プライバシー保護のため、この情報には個人を特定する情報は含まれていません。

- 1 [よく使う機能]で[McAfee Virtual Technician]をクリックします。
- 2 画面に表示される手順に従い、McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)をダウンロードして実行します。

サポートおよびダウンロード

該当する国のマカフィーサポートとダウンロードのサイト、およびユーザーガイドについて、次の表を参照してください。

サポートおよびダウンロード

国	マカフィーサポート	マカフィーダウンロード
オーストラリア	www.mcafeehelp.com	au.mcafee.com/root/downloads.asp
ブラジル	www.mcafeeajuda.com	br.mcafee.com/root/downloads.asp
カナダ(英語)	www.mcafeehelp.com	ca.mcafee.com/root/downloads.asp
カナダ(フランス語)	www.mcafeehelp.com	ca.mcafee.com/root/downloads.asp
中国	www.mcafeehelp.com	cn.mcafee.com/root/downloads.asp
台湾	www.mcafeehelp.com	tw.mcafee.com/root/downloads.asp
チェコスロバキア	www.mcafeenapoveda.com	cz.mcafee.com/root/downloads.asp
デンマーク	www.mcafeehjaelp.com	dk.mcafee.com/root/downloads.asp
フィンランド	www.mcafeehelp.com	fi.mcafee.com/root/downloads.asp
フランス	www.mcafeeaide.com	fr.mcafee.com/root/downloads.asp
ドイツ	www.mcafeehilfe.com	de.mcafee.com/root/downloads.asp
イギリス	www.mcafeehelp.com	uk.mcafee.com/root/downloads.asp
イタリア	www.mcafeeaiuto.com	it.mcafee.com/root/downloads.asp
日本	www.mcafeehelp.jp	jp.mcafee.com/root/downloads.asp
韓国	www.mcafeehelp.com	kr.mcafee.com/root/downloads.asp
メキシコ	www.mcafeehelp.com	mx.mcafee.com/root/downloads.asp

ノルウェー	www.mcafeehjelp.com	no.mcafee.com/root/downloads.asp
ポーランド	www.mcafeepomoc.com	pl.mcafee.com/root/downloads.asp
ポルトガル	www.mcafeeajuda.com	pt.mcafee.com/root/downloads.asp
スペイン	www.mcafeeayuda.com	es.mcafee.com/root/downloads.asp
スウェーデン	www.mcafeehjalp.com	se.mcafee.com/root/downloads.asp
トルコ	www.mcafeehelp.com	tr.mcafee.com/root/downloads.asp
米国	www.mcafeehelp.com	us.mcafee.com/root/downloads.asp

McAfee Total Protection ユーザガイド

国	McAfee ユーザガイド
オーストラリア	download.mcafee.com/products/manuals/en-au/MTP_userguide_2008.pdf
ブラジル	download.mcafee.com/products/manuals/pt-br/MTP_userguide_2008.pdf
カナダ(英語)	download.mcafee.com/products/manuals/en-ca/MTP_userguide_2008.pdf
カナダ(フランス語)	download.mcafee.com/products/manuals/fr-ca/MTP_userguide_2008.pdf
中国	download.mcafee.com/products/manuals/zh-cn/MTP_userguide_2008.pdf
台湾	download.mcafee.com/products/manuals/zh-tw/MTP_userguide_2008.pdf
チェコスロバキア	download.mcafee.com/products/manuals/cz/MTP_userguide_2008.pdf
デンマーク	download.mcafee.com/products/manuals/dk/MTP_userguide_2008.pdf
フィンランド	download.mcafee.com/products/manuals/fi/MTP_userguide_2008.pdf
フランス	download.mcafee.com/products/manuals/fr/MTP_userguide_2008.pdf
ドイツ	download.mcafee.com/products/manuals/de/MTP_userguide_2008.pdf

イギリス	download.mcafee.com/products/manuals/en-uk/MTP_userguide_2008.pdf
オランダ	download.mcafee.com/products/manuals/nl/MTP_userguide_2008.pdf
イタリア	download.mcafee.com/products/manuals/it/MTP_userguide_2008.pdf
日本	download.mcafee.com/products/manuals/ja/MTP_userguide_2008.pdf
韓国	download.mcafee.com/products/manuals/ko/MTP_userguide_2008.pdf
メキシコ	download.mcafee.com/products/manuals/es-mx/MTP_userguide_2008.pdf
ノルウェー	download.mcafee.com/products/manuals/no/MTP_userguide_2008.pdf
ポーランド	download.mcafee.com/products/manuals/pl/MTP_userguide_2008.pdf
ポルトガル	download.mcafee.com/products/manuals/pt/MTP_userguide_2008.pdf
スペイン	download.mcafee.com/products/manuals/es/MTP_userguide_2008.pdf
スウェーデン	download.mcafee.com/products/manuals/sv/MTP_userguide_2008.pdf
トルコ	download.mcafee.com/products/manuals/tr/MTP_userguide_2008.pdf
米国	download.mcafee.com/products/manuals/en-us/MTP_userguide_2008.pdf

McAfee Internet Security ユーザガイド

国	McAfee ユーザガイド
オーストラリア	download.mcafee.com/products/manuals/en-au/MIS_userguide_2008.pdf
ブラジル	download.mcafee.com/products/manuals/pt-br/MIS_userguide_2008.pdf
カナダ(英語)	download.mcafee.com/products/manuals/en-ca/MIS_userguide_2008.pdf
カナダ(フランス語)	download.mcafee.com/products/manuals/fr-ca/MIS_userguide_2008.pdf

中国	download.mcafee.com/products/manuals/zh-cn/MIS_userguide_2008.pdf
台湾	download.mcafee.com/products/manuals/zh-tw/MIS_userguide_2008.pdf
チェコスロバキア	download.mcafee.com/products/manuals/cz/MIS_userguide_2008.pdf
デンマーク	download.mcafee.com/products/manuals/dk/MIS_userguide_2008.pdf
フィンランド	download.mcafee.com/products/manuals/fi/MIS_userguide_2008.pdf
フランス	download.mcafee.com/products/manuals/fr/MIS_userguide_2008.pdf
ドイツ	download.mcafee.com/products/manuals/de/MIS_userguide_2008.pdf
イギリス	download.mcafee.com/products/manuals/en-uk/MIS_userguide_2008.pdf
オランダ	download.mcafee.com/products/manuals/nl/MIS_userguide_2008.pdf
イタリア	download.mcafee.com/products/manuals/it/MIS_userguide_2008.pdf
日本	download.mcafee.com/products/manuals/ja/MIS_userguide_2008.pdf
韓国	download.mcafee.com/products/manuals/ko/MIS_userguide_2008.pdf
メキシコ	download.mcafee.com/products/manuals/es-mx/MIS_userguide_2008.pdf
ノルウェー	download.mcafee.com/products/manuals/no/MIS_userguide_2008.pdf
ポーランド	download.mcafee.com/products/manuals/pl/MIS_userguide_2008.pdf
ポルトガル	download.mcafee.com/products/manuals/pt/MIS_userguide_2008.pdf
スペイン	download.mcafee.com/products/manuals/es/MIS_userguide_2008.pdf
スウェーデン	download.mcafee.com/products/manuals/sv/MIS_userguide_2008.pdf
トルコ	download.mcafee.com/products/manuals/tr/MIS_userguide_2008.pdf
米国	download.mcafee.com/products/manuals/en-us/MIS_userguide_2008.pdf

McAfee VirusScan Plus ユーザガイド

国	McAfee ユーザガイド
オーストラリア	download.mcafee.com/products/manuals/en-au/VSP_userguide_2008.pdf
ブラジル	download.mcafee.com/products/manuals/pt-br/VSP_userguide_2008.pdf
カナダ(英語)	download.mcafee.com/products/manuals/en-ca/VSP_userguide_2008.pdf
カナダ(フランス語)	download.mcafee.com/products/manuals/fr-ca/VSP_userguide_2008.pdf
中国	download.mcafee.com/products/manuals/zh-cn/VSP_userguide_2008.pdf
台湾	download.mcafee.com/products/manuals/zh-tw/VSP_userguide_2008.pdf
チェコスロバキア	download.mcafee.com/products/manuals/cz/VSP_userguide_2008.pdf
デンマーク	download.mcafee.com/products/manuals/dk/VSP_userguide_2008.pdf
フィンランド	download.mcafee.com/products/manuals/fi/VSP_userguide_2008.pdf
フランス	download.mcafee.com/products/manuals/fr/VSP_userguide_2008.pdf
ドイツ	download.mcafee.com/products/manuals/de/VSP_userguide_2008.pdf
イギリス	download.mcafee.com/products/manuals/en-uk/VSP_userguide_2008.pdf
オランダ	download.mcafee.com/products/manuals/nl/VSP_userguide_2008.pdf
イタリア	download.mcafee.com/products/manuals/it/VSP_userguide_2008.pdf
日本	download.mcafee.com/products/manuals/ja/VSP_userguide_2008.pdf
韓国	download.mcafee.com/products/manuals/ko/VSP_userguide_2008.pdf
メキシコ	download.mcafee.com/products/manuals/es-mx/VSP_userguide_2008.pdf
ノルウェー	download.mcafee.com/products/manuals/no/VSP_userguide_2008.pdf

ポーランド	download.mcafee.com/products/manuals/pl/VSP_userguide_2008.pdf
ポルトガル	download.mcafee.com/products/manuals/pt/VSP_userguide_2008.pdf
スペイン	download.mcafee.com/products/manuals/es/VSP_userguide_2008.pdf
スウェーデン	download.mcafee.com/products/manuals/sv/VSP_userguide_2008.pdf
トルコ	download.mcafee.com/products/manuals/tr/VSP_userguide_2008.pdf
米国	download.mcafee.com/products/manuals/en-us/VSP_userguide_2008.pdf

McAfee VirusScan ユーザガイド

国	McAfee ユーザガイド
オーストラリア	download.mcafee.com/products/manuals/en-au/VS_userguide_2008.pdf
ブラジル	download.mcafee.com/products/manuals/pt-br/VS_userguide_2008.pdf
カナダ(英語)	download.mcafee.com/products/manuals/en-ca/VS_userguide_2008.pdf
カナダ(フランス語)	download.mcafee.com/products/manuals/fr-ca/VS_userguide_2008.pdf
中国	download.mcafee.com/products/manuals/zh-cn/VS_userguide_2008.pdf
台湾	download.mcafee.com/products/manuals/zh-tw/VS_userguide_2008.pdf
チェコスロバキア	download.mcafee.com/products/manuals/cz/VS_userguide_2008.pdf
デンマーク	download.mcafee.com/products/manuals/dk/VS_userguide_2008.pdf
フィンランド	download.mcafee.com/products/manuals/fi/VS_userguide_2008.pdf
フランス	download.mcafee.com/products/manuals/fr/VS_userguide_2008.pdf
ドイツ	download.mcafee.com/products/manuals/de/VS_userguide_2008.pdf
イギリス	download.mcafee.com/products/manuals/en-uk/VS_userguide_2008.pdf

オランダ	download.mcafee.com/products/manuals/nl/VS_userguide_2008.pdf
イタリア	download.mcafee.com/products/manuals/it/VS_userguide_2008.pdf
日本	download.mcafee.com/products/manuals/ja/VS_userguide_2008.pdf
韓国	download.mcafee.com/products/manuals/ko/VS_userguide_2008.pdf
メキシコ	download.mcafee.com/products/manuals/es-mx/VS_userguide_2008.pdf
ノルウェー	download.mcafee.com/products/manuals/no/VS_userguide_2008.pdf
ポーランド	download.mcafee.com/products/manuals/pl/VS_userguide_2008.pdf
ポルトガル	download.mcafee.com/products/manuals/pt/VS_userguide_2008.pdf
スペイン	download.mcafee.com/products/manuals/es/VS_userguide_2008.pdf
スウェーデン	download.mcafee.com/products/manuals/sv/VS_userguide_2008.pdf
トルコ	download.mcafee.com/products/manuals/tr/VS_userguide_2008.pdf
米国	download.mcafee.com/products/manuals/en-us/VS_userguide_2008.pdf

該当する国のスレットセンター、ウイルス情報、および HackerWatch のサイトについては、次の表を参照してください。

国	セキュリティ情報	ウイルス情報	HackerWatch
オーストラリア	www.mcafee.com/users/threat_center/default.asp	http://au.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org
ブラジル	www.mcafee.com/users/threat_center	http://br.mcafee.com/virusInfo/	http://www.hackerwatch.org/?lang=pt-br
カナダ (英語)	www.mcafee.com/users/threat_center	http://ca.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org
カナダ (フランス語)	www.mcafee.com/users/threat_center	http://ca.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=fr-ca
中国	www.mcafee.com/users/threat_center	http://cn.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=zh-cn
台湾	www.mcafee.com/users/threat_center	http://tw.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=zh-tw

チェコスロバキア	www.mcafee.com/us/threat_center	http://cz.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=cs
デンマーク	www.mcafee.com/us/threat_center	http://dk.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=da
フィンランド	www.mcafee.com/us/threat_center	http://fi.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=fi
フランス	www.mcafee.com/us/threat_center	http://fr.mcafee.com/virusInfo/	http://www.hackerwatch.org/?lang=fr
ドイツ	www.mcafee.com/us/threat_center	http://de.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=de
イギリス	www.mcafee.com/us/threat_center	http://uk.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org
イタリア	www.mcafee.com/us/threat_center	http://it.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=it
日本	www.mcafee.com/us/threat_center	http://jp.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=jp
韓国	www.mcafee.com/us/threat_center	http://kr.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=ko
メキシコ	www.mcafee.com/us/threat_center	http://mx.mcafee.com/virusInfo/	http://www.hackerwatch.org/?lang=es-mx
ノルウェー	www.mcafee.com/us/threat_center	http://no.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=no
ポーランド	www.mcafee.com/us/threat_center	http://pl.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=pl
ポルトガル	www.mcafee.com/us/threat_center	http://pt.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=pt-pt
スペイン	www.mcafee.com/us/threat_center	http://es.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=es
スウェーデン	www.mcafee.com/us/threat_center	http://se.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=sv
トルコ	www.mcafee.com/us/threat_center	http://tr.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org/?lang=tr
米国	www.mcafee.com/us/threat_center	http://us.mcafee.com/virusInfo	http://www.hackerwatch.org

索引

8

802.11	243
802.11a.....	243
802.11b.....	243
802.1x.....	243

A

ActiveX コントロール	243
----------------------	-----

C

Cookie	243
--------------	-----

D

DAT.....	243
DNS	243
DNS サーバ.....	244

E

ESS.....	244
E メール.....	244
E メールクライアント.....	244
Eメールのフィルタリング	145
Eメール保護を開始.....	37

H

HackerWatch チュートリアルを起動.....	122
-----------------------------	-----

I

IP アドレス.....	244
IP スプーフィング	244

L

LAN.....	244
Launchpad.....	244

M

MAC アドレス.....	244
Man-in-the-Middle 攻撃 (中間者攻撃).....	244
MAPI	245
McAfee Anti-Spam	123

McAfee Anti-Spam ツールバーからメッセージをマーク.....	146
McAfee Anti-Spam ツールバーから友人を追加.....	134
McAfee Anti-Spam ツールバーを無効化.....	147
McAfee Anti-Spam の機能.....	124
McAfee Data Backup.....	177
McAfee EasyNetwork.....	225
McAfee EasyNetwork の機能.....	226
McAfee EasyNetwork の設定.....	227
McAfee EasyNetwork を開く.....	227
McAfee Network Manager.....	209
McAfee Network Manager のアイコンについて.....	211
McAfee Network Manager の機能.....	210
McAfee Personal Firewall.....	65
McAfee Personal Firewall 機能.....	66
McAfee Privacy Service.....	155
McAfee Privacy Service の機能.....	156
McAfee QuickClean.....	193
McAfee QuickClean タスクのスケジュール.....	199
McAfee QuickClean タスクの変更.....	200
McAfee QuickClean タスクの削除.....	201
McAfee QuickClean の機能.....	194
McAfee SecurityCenter	5
McAfee SecurityCenter の機能.....	6
McAfee SecurityCenter の更新.....	13
McAfee SecurityCenter を使用.....	7
McAfee Shredder.....	205
McAfee Shredder の機能.....	206
McAfee SystemGuards オプションを使用.....	46
McAfee SystemGuards による保護を有効化.....	47
McAfee SystemGuards の種類について.....	48, 49
McAfee Total Protection (マカフィー・トータルプロテクション).....	3
McAfee Virtual Technician の起動.....	260
McAfee Virtual Technician の使用.....	260

McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)	31	Web サイトをブロック	166
McAfee VirusScan(マカフィー・ウイルススキャン)の機能	32	Web サイトをホワイトリストから削除	152
McAfee ユーザの使用	158	Web サイトをホワイトリストに追加	151
McAfee ユーザの追加	159	Web での情報を保護	171
MSN	245	Web バグ	247
N		Web メール	247
NIC	245	Web メールアカウントの設定	125
P		Web メールアカウントを削除	127
Password Vault	245	Web メールアカウントを追加	126
Password Vault のパスワードの変更	176	Web メールアカウントを編集	126
Password Vault のパスワードをリセット	176	Web メールアカウント情報について	126, 127, 128
Password Vault をセットアップ	174	WEP	247
PCI ワイヤレス アダプタ カード	245	Wi-Fi	247
ping 要求の設定	84	Wi-Fi Alliance	247
POP3	245	Wi-Fi Certified	247
PPPoE	245	Windows ユーザの使用	158
R		Windows ユーザへの切り替え	159
RADIUS	245	WLAN	247
S		WPA	248
SMTP	246	WPA2	248
SSID	246	WPA2-PSK	248
SSL	246	WPA-PSK	248
SystemGuards	246	あ	
SystemGuards オプションの設定	48	アーカイブ	248
T		アーカイブアクティビティの概要を表示	192
TKIP	246	アーカイブオプションの設定	180
U		アーカイブ済みファイルを検索	188
U3	246	アーカイブ済みファイルを使用	187, 189
URL	246	アーカイブ済みファイルを並べ替え	188
USB	246	アーカイブ済みファイルを復元	190
USB ドライブ	246	アーカイブ対象から除外	181
USB ワイヤレス アダプタ カード	247	アーカイブ対象を追加	180
V		アーカイブに対する暗号化と圧縮を無効化	182
VPN	247	アーカイブの保存場所を変更	182
W		アーカイブ ファイル タイプの設定	181
Web 閲覧の時間制限の設定	165	アーカイブを管理	192
Web サイトを許可	167	アーカイブを手動で実行	184
Web サイトをフィルタリング	163, 166	アカウント情報の管理	11
		アクセスポイント	248
		新しいシステム サービス ポートの設定	99
		新しいプログラムにすべてのアクセスを許可	90
		新しいプログラムのアクセスをブロック	93
		圧縮	254
		アドレス帳を削除	133

- アドレス帳を追加 132
 アドレス帳を編集 133
 怪しいプログラム (PUP) 254
 怪しいプログラムについて 62
 アラートについて 72
 アラートのオプションの設定 26
 アラート発生時に音を鳴らす 26
 アラートを使用 14, 23, 71
 暗号化 254
 暗号文 254
 一時ファイル 254
 イベント 248
 イベントログの設定 112
 イベントログを記録 112
 イベントを表示 18, 29
 インターネット 248
 インターネットセキュリティについての確認 121
 インターネットトラフィックを監視 118
 インターネットトラフィックを追跡 115
 イントラネット 249
 ウイルス 249
 ウイルス対策の設定 39, 57
 ウイルスとトロイの木馬について 62
 ウイルス発生によるアラートの非表示 27
 ウォードライバー 249
 オンデマンドスキャン 249
 オンライン バックアップ リポジトリ 249
- か**
- 外部ハードディスク 254
 隔離 254
 隔離されたファイルについて 62, 63
 隔離プログラムと Cookie について 63
 カスタマおよびテクニカルサポート 259
 画像のフィルタリング 254
 監視するファイルタイプ 255
 監視対象の IP アドレスを追跡 117
 監視場所 255
 完全アーカイブ 254
 完全アーカイブとクイックアーカイブを実行
 183
 管理されたコンピュータの権限を変更 221
 管理されたネットワーク 255
 管理されたネットワークにコンピュータを招待
 217
 管理されたネットワークに参加 216, 217, 228,
 231
 管理されたネットワークを切断 231
 管理されたネットワークをセットアップ 213
 キー 249
 キーワード 249
 キーワードにより Web サイトをブロック 170
 キーワードフィルタリングの無効化 169
 キーワードを使用した Web サイトのフィルタ
 リング 166, 169
 既存のシステム サービス ポートへのアクセ
 スを許可 99
 既存のシステム サービス ポートへのアクセ
 スをブロック 99
 起動時の起動画面を非表示にする 26
 起動中のコンピュータを保護 84
 機能 178
 キャッシュ 249
 共有 255
 共有秘密キー 255
 共有ファイルを検索 235
 共有ファイルをコピー 235
 共有プリンタを使用 240
 禁止するコンピュータ接続を削除 108
 禁止するコンピュータ接続を追加 107
 禁止するコンピュータ接続を編集 108
 クイックアーカイブ 249
 クライアント 249
 契約の確認 11
 ゲーム時の情報アラートの表示または非表
 示 25
 ゲーム中にアラートを表示 75
 検索条件 235
 公開 255
 更新の確認 13, 15
 項目の詳細を表示 215
 個人情報の保護 172
 ごみ箱 249
 コンテンツの格付けグループ 250
 コンテンツの格付けグループの設定 162, 163
 コンピュータ接続を管理 103
 コンピュータ接続を禁止 107
 コンピュータ接続を信用 104
 コンピュータの最適化 198
 コンピュータの登録情報を取得 115
 コンピュータのネットワーク情報を取得 115
 コンピュータの保護の状態の監視を停止 220
 コンピュータの保護の状態を監視 220
 コンピュータをクリーニング 194, 196
 コンピュータをスキャン 33, 57, 58

さ

サーバ	250
サービス拒否	250
最近のイベントログからアクセスをブロック	94
最近のイベントログからすべてのアクセスを許可	91
最近のイベントログから送信アクセスのみを許可	92
最近のイベントを表示	29, 112
サポートおよびダウンロード	261
辞書攻撃	255
システム サービス ポートの設定	98
システム サービス ポートを変更	100
システムサービスを管理	97
システム復元ポイント	250
自動アーカイブをスケジュール	183
自動アーカイブを中断	184
自動更新の設定	14
自動更新を無効化	15
重点監視する場所	255
受信イベントログからコンピュータを禁止	109
受信イベントログからコンピュータを追跡	116
受信イベントログから信用するコンピュータを追加	105
受信イベントを表示	113
受信トラフィックと送信トラフィックを分析	118
手動スキャンオプションの設定	42
手動スキャンの場所の設定	44
状態の監視と権限	220
情報アラートの表示と非表示	24
情報アラートの表示または非表示	24
情報アラートを管理	75
情報アラートを非表示化	75
ショートカット	250
侵入検知イベントログからコンピュータを禁止	109
侵入検知イベントログからコンピュータを追跡	116
侵入検知イベントを表示	113
侵入検知の設定	85
信用するコンピュータ接続を削除	106
信用するコンピュータ接続を追加	104
信用するコンピュータ接続を編集	105
信頼リスト	255
信頼リストの種類について	54
信頼リストの使用	53
信頼リストを管理	53

スキャン結果を使用	61
スキャン結果を表示	59
スキャンのスケジュール	45
スクリプト	250
スクリプトスキャンによる保護の開始	36
スパイウェア対策の開始	36
スパム検出の設定	137
すべてのイベントを表示	29
スマートドライブ	250
スマートリコメンデーションのアラートの設定	82
スマートリコメンデーションの表示のみ	83
スマートリコメンデーションを無効化	82
スマートリコメンデーションを有効化	82
世界中のインターネットのポートアクティビティを表示	114
世界中のセキュリティイベントの統計を表示	114
セキュリティ上の脆弱性を修復	222
セキュリティレベルの設定	
オープン	81
嚴重	80
信用	81
標準	80
セキュリティレベルの設定	
ステルス	79
ロック	79
送信イベントログからすべてのアクセスを許可	91
送信イベントログから送信アクセスのみを許可	92
送信イベントログからプログラム情報を取得	96
送信イベントを表示	91, 113

た

ダイアラー	250
帯域幅	255
タスクのスケジュール	199
著作権	257
追加の保護の開始	35
ディスク最適化プログラムタスクのスケジュール	201
ディスク最適化プログラムタスクの削除	203
ディスク最適化プログラムタスクの変更	202
ディスク全体のデータの抹消	207
デバイスの表示プロパティを変更	221
デバイスを管理	221

- 同期化.....256
統計を使用.....114
統合ゲートウェイ.....256
特別フィルタを無効化.....140
ドメイン.....250
ドメインを追加.....135
ドメインを編集.....136
トラフィックの分析グラフについて.....118
トロイの木馬.....251
- な**
- 認証.....256
ネットワーク.....251
ネットワークコンピュータを地理的に追跡.....115
ネットワーク上のコンピュータの信頼を取り消
し.....218
ネットワーク地図.....251
ネットワーク地図で項目を表示/非表示.....215
ネットワーク地図にアクセス.....214
ネットワーク地図を更新.....214
ネットワーク地図を使用.....214
ネットワークドライブ.....251
ネットワークに参加.....228
ネットワークの名称を変更.....215, 230
ネットワークへのアクセスを許可.....229
ネットワークをリモートで管理.....219
ノード.....251
- は**
- パーソナルフィルタの指定.....144
パーソナルフィルタの使用.....142
パーソナルフィルタの指定.....143
パーソナルフィルタを削除.....143
パーソナルフィルタを追加.....142
パーソナルフィルタを編集.....143
パスワード.....251
パスワードの削除.....175
パスワードの追加.....174
パスワードの変更.....174
パスワードを保護.....173
バックアップ.....251
バッファオーバーフロー.....251
標準の E メールアカウント.....256
平文 (ひらぶん).....256
ファイアウォール.....251
ファイアウォールによるセキュリティを最適化
.....84
ファイアウォールによる保護の状態の設定 85
ファイアウォールによる保護の設定.....77
ファイアウォールによる保護を開始.....69
ファイアウォールによる保護を停止.....70
ファイアウォールのセキュリティレベルを管理
.....78
ファイアウォールの設定を復元.....88
ファイアウォールをロックおよび復元.....87
ファイアウォールを起動.....69
ファイアウォールを迅速にロック.....87
ファイアウォールを迅速にロック解除.....87
ファイル、フォルダ、ディスクの抹消.....206
ファイルが送信されたときに通知を受信...237
ファイルとフォルダを抹消.....206
ファイルの共有を停止.....234
ファイルの断片.....251
ファイルをアーカイブ.....179
ファイルを共有.....234
ファイルを共有および送信.....233
フィッシング詐欺.....251
フィッシング詐欺対策の設定.....151
フィッシング詐欺対策を無効化.....153
フィルタリングオプションの設定.....138
フィルタリングされた E メールの使用.....149
フィルタリングされた Web メールイベントを
表示.....150
フィルタリングされた Web メールメッセージ
をコピーまたは削除します。.....150
フィルタリングした Web サイトの更新.....167
フィルタリングする Web サイトを削除.....168
フィルタリングレベルを変更.....139
復元.....256
不正アクセスポイント.....256
不適切な可能性のある Web 画像をフィルタ
リング.....162
部分的に監視する場所.....256
ブラウザ.....252
プラグイン.....252
ブラックリスト.....252
プリンタの共有を停止.....240
プリンタを共有.....239
ブルートフォース攻撃.....252
プロキシ.....252
プロキシサーバ.....252
プログラムアクティビティを監視.....119
プログラム情報を取得.....96
プログラムと権限を管理.....89
プログラムにすべてのアクセスを許可.....90

プログラムについての確認	96
プログラムに送信アクセスのみを許可	92
プログラムのアクセスをブロック	93
プログラムのアクセス権を削除	95
プログラムのインターネットアクセスをブロック	93
プログラムのインターネットアクセスを許可	90
プログラムの許可を削除	95
プログラムの帯域幅を監視	119
プロトコル	252
変更ファイルのリストからファイルを削除	191
ポート	252
ホームネットワーク	252
ほかのコンピュータからファイルを受け入れ	237
ほかのコンピュータにファイルを送信	236, 237
保護カテゴリについて	7, 9, 29
保護サービスについて	10
保護者機能	256
保護者機能をセットアップ	157
保護の状態について	7, 8, 9
保護の問題を自動的に修復	18
保護の問題を修復	8, 18
保護の問題を修復または無視	8, 17
保護の問題を手動で修復	19
保護の問題を無視	20
ホットスポット	253
ポップアップ	253
ホワイトリスト	253
ホワイトリスト内のサイトを編集	152
ま	
マカフィー管理者パスワードの取得	161
マカフィー管理者パスワードの変更	160
マカフィーについて	257
マカフィーに迷惑メールを報告	149
マカフィー ユーザ アカウント情報の編集	159
マカフィーユーザを削除します。	160
無視した問題の表示または非表示	20
迷惑メール対策を無効化	137
メッセージ認証コード(MAC)	253
メッセージを処理およびマークする方法を変更	142, 146
メッセージング保護を開始	37
文字セットのフィルタを適用	141

や

ユーザのコンテンツの格付けグループの設定	163
ユーザの設定	158
友人を削除	136
友人を自動で設定	132
友人を手動で設定	134
友人を手動で追加	134
友人を設定	131
友人を編集	135

ら

ライセンス条項	258
ライブラリ	253
リアルタイムスキャン	253
リアルタイム スキャン オプションの設定	40
リアルタイムでのウイルス対策の開始	33
リアルタイムなウイルス対策の停止	34
リファレンス	242
リモートコンピュータにマカフィー セキュリティソフトウェアをインストール	223
利用可能なネットワークプリンタをインストール	240
ルータ	253
ルートキット	253
レジストリ	253
ローカルアーカイブから不足ファイルを復元	190
ローカルアーカイブから古いバージョンのファイルを復元	191
ローカルアーカイブのエクスペローラを使用	188
ローミング	254
ログ記録、監視、分析	111

わ

ワーム	254
ワイヤレスアダプタ	254